特216
883

始

特216
883

佐分利村小誌

昭和四・八・三・五
帝國圖書館

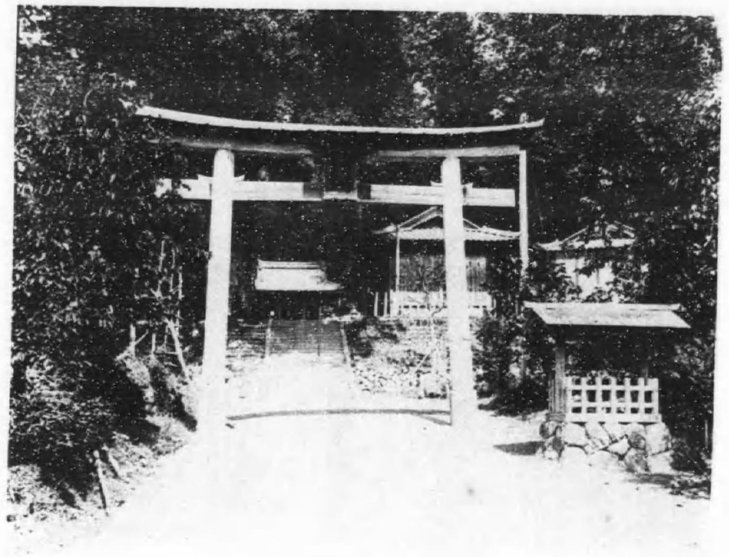
序

夫レ往ヲ知リ今ニ鑑ミ而シテ來ヲ計ルハ治國ノ要諦ナリ。是ヲ以テ古來志ヲ經綸ニ存スル士ハ、深ク修史ニ意ヲ用井ザルナシ。茲ニ佐分利村教育會今次千歳一遇ノ大典ニ際シ其ノ記念事業トシテ村史ノ編纂ヲ企テ、終ニ其ノ完成ヲ見ル。誠ニ時宜ニ適シタル事業ト謂フベシ。

爾今是ニ依リ村民能ク村ノ沿革ト現狀ヲ考ヘ、將來ノ計ヲ樹テナバ、村治進展ノ氣運ニ嚮フヘキコト蓋シ期シテ待ツベシ。即チ本書ハ資治養民ノ道ニ於テ其ノ益スル所亦尠カラザルヲ思フ。一言ヲ陳ベテ序ニ代フ。

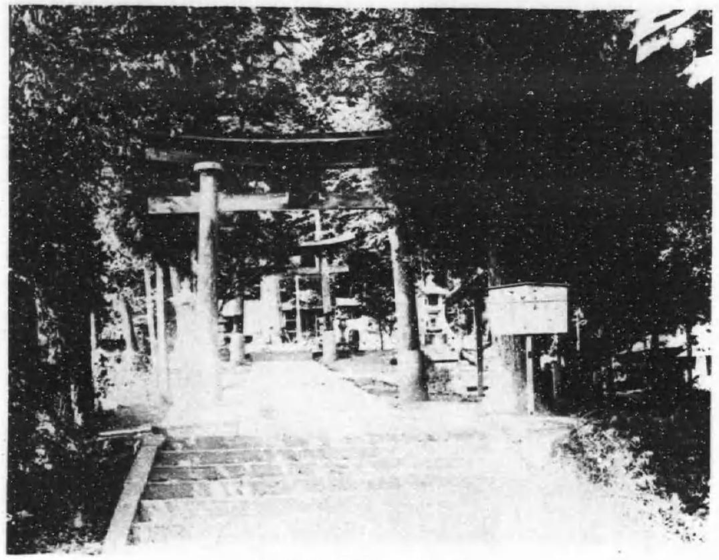
昭和三年十一月

福井縣知事　小濱淨鑛



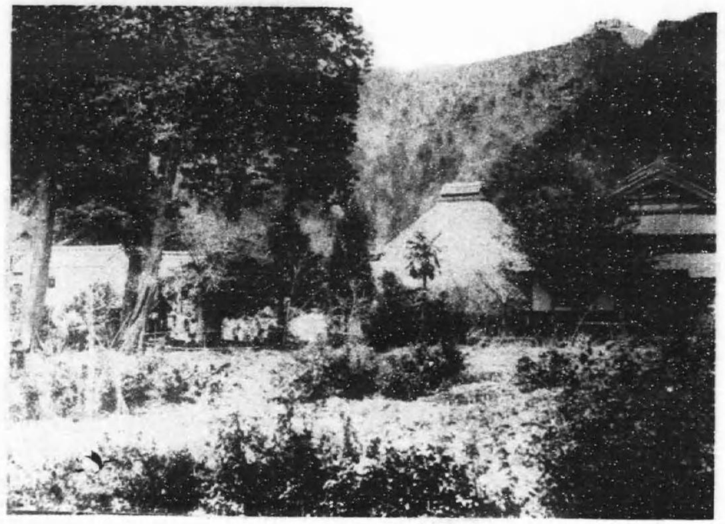
郷社伊射奈伎神社全景

同神社拜殿

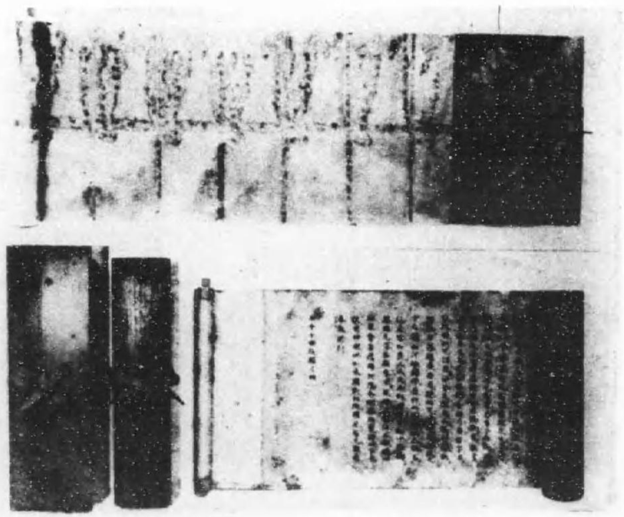


指定村社侯居神社

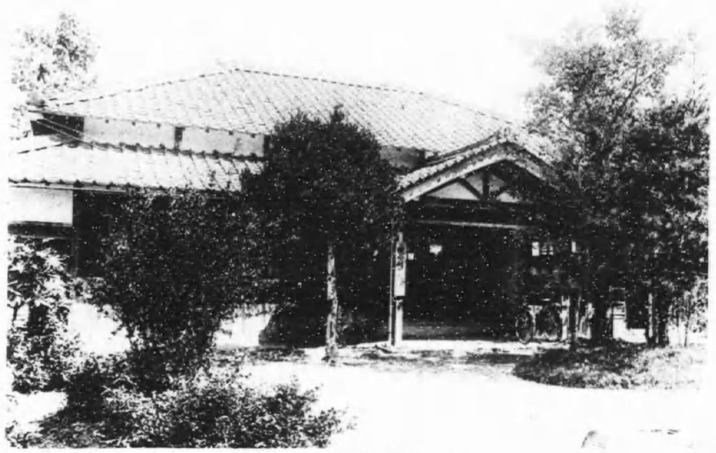
指定村社新鞍神社



國寶所藏意足寺全景

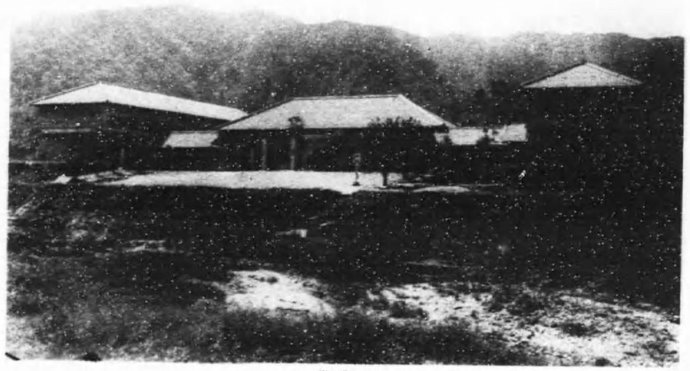


國寶千手千眼陀羅尼經



佐分利村役場

佐分利村公會堂



佐分利尋常高等小學校

忠魂碑

佐分利小學校川上分教場

累代村長

藤倉國

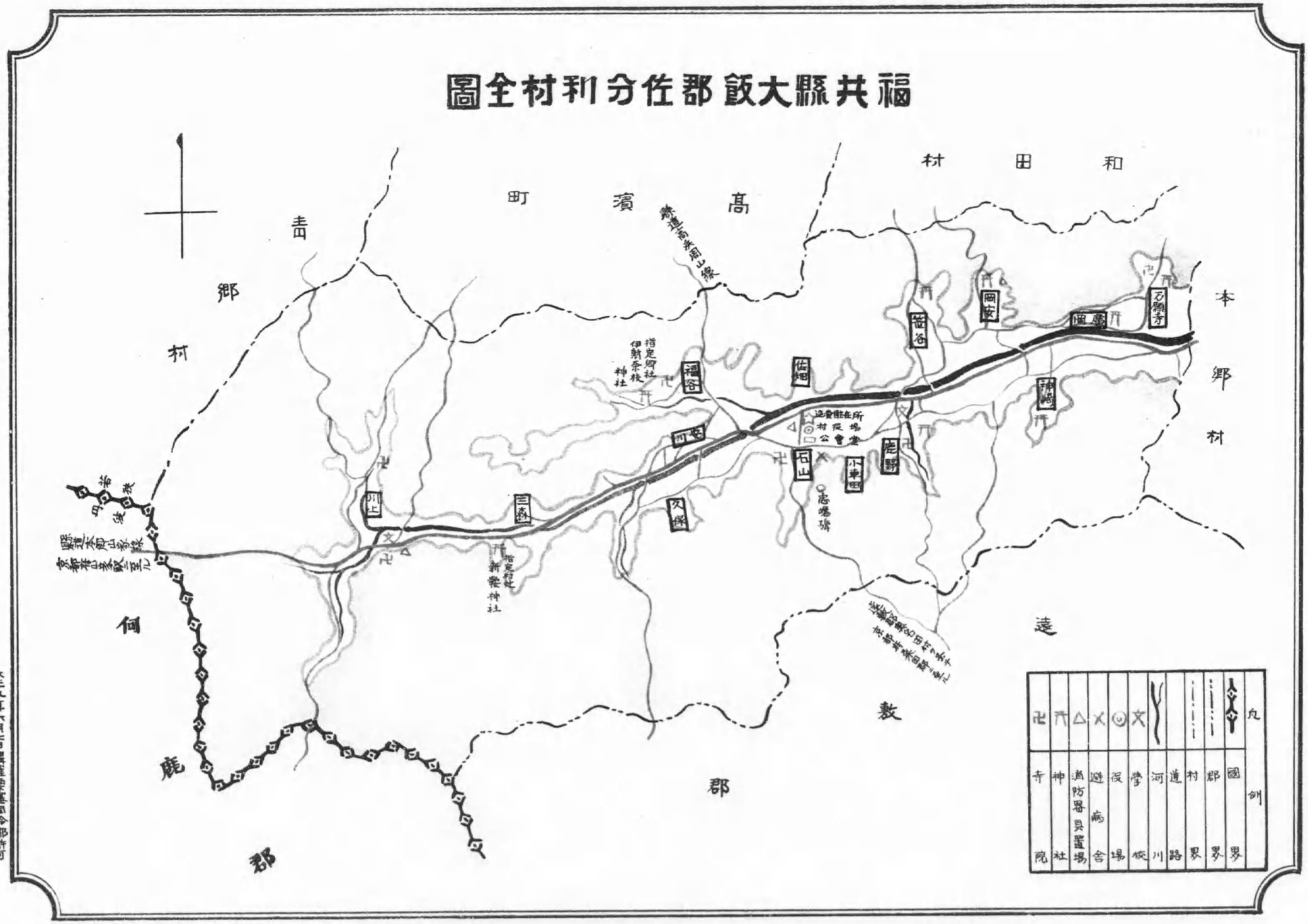
木村平右衛門

中川長藏

中川長一

丸山東一

福共縣大飯郡佐分利村全圖



大正九年六月七日農商務省令部許可
昭和三年十月六日鐵道省令部檢閲濟

緒言

今上陛下御即位ノ大典ヲ本年十一月御擧行アラセラルルニ付記念ノ事業トシテ本誌ヲ刊行セントシ急速ニ完了セシメタル爲メ多クノ遺漏ト誤脫ヲ免レ難シ、讀者幸ニ諒恕セラレヨ。

本誌編纂ニ關シ村内ノ舊家又ハ社寺ニ向テ資料ヲ需メタルモ僅少ノモノ存在スルニ過ギズ。故ニ多クノ欽陷アルハ編者ノ頗ル遺憾トスル處、特ニ史學ノ素養ナク、加フルニ寡聞淺識ナル爲メ一貫セザル者多キハ慚愧ニ堪ヘザル所ナリ。

本誌編纂ニ當リ資料トシテ參照引用シタル者ハ若狹志、若狹守護代記、若狹郡縣志、福井縣史、若狹小志、若狹名跡志、若狹國傳記、福谷神社經卷神器、滿願寺意足寺緣起經卷並ニ淨土寺緣起及古文書其他古記舊跡等ニ徵シ記述セリ。

明治以後ノ事項ニ關シテハ役場現存ノ文書及小學校ノ記錄ニ依ル。其ノ欽ケタル者ハ文書ノ徵スベキ者存セザル爲ナリ。

昭和三年初秋

編者識

佐分利村小誌

目次

村ノ位置及概說……一
村ノ沿革及行政……二
村是……二九
第一章 總論……三〇
第二章 教育……三一
第三章 產業……三七
第四章 經濟……四〇
第五章 衛生及警備……四一
神社及寺院……四三
神社……四三
伊射奈伎神社、新鞍神社、佐居神社、八幡神社（鹿野）、熊野神社（神崎）、熊野神社（萬願寺）、寶尾神社、熊野神社（笹谷）、八幡神社（廣岡）
寺院……五五

歡喜寺、清源寺、長福寺、淨土寺、西方寺、佛燈寺、實相寺、意足寺、
久保釋迦堂、福谷藥師堂、神崎藥師堂、基督教々會

教育……六六
佐分利小學校ノ沿革……六八
佐分利小學校長……七一
佐分利小學校ノ在籍兒童數……七三
佐分利小學校經費ニ關スル事項……七三
元岡安小學校ノ沿革、元岡安小學校長、元岡安小學校在籍兒童及同校經費、元川上小學校ノ沿革、
元川上小學校長、元川上小學校在籍兒童及同校經費、元就正小學校
學齡兒童就學歩合……八三
佐分利農業補習學校……八三
生徒數及出席歩合、補習學校經費ニ關スル事項
佐分利青年訓練所……八七
人口及戸口……八八
人口……八八
戸口……八九
産業及租税……九〇

河川及道路……九七
警備及衛生……一〇一
警備……一〇二
消防……一〇三
衛生……一〇四
兵事ニ關スル事項……一〇五
雜部……一一三
郵便局ノ設置……一一三
電話ノ開通……一一四
電燈ノ点火……一一五
村公會堂……一一五
佐分利村託兒所……一一六
名家ノ末裔……一一六
忠魂碑……一一八
大字名ノ變遷……一一八
各種團体……一一九
佐分利村教育會、同在鄉軍人會、同青年團、同處女會、同婦人會

目次

名所及舊跡……一二一
石山城跡、川上逆谷堡跡、寶尾山ノ寺跡、瑞岸寺跡、極樂寺跡、善樂寺跡、福壽庵跡、大瀧
傳說地……一二三
不動岩、烏帽子岩、胴慾河原、弓射場、稚兒岩、鏡岩、夫婦岩
風俗……一二四
狐狩リ、虫送リ、松ッ上ゲ

『目次終』

佐分利村小誌

村ノ位置及概說

佐分利村ハ大飯郡ノ西南部ニ位シ、東徑ハ百三十五度二十九分ニ、北緯ハ三十五度二十四分三十秒ヨリ同二十七分ニ亘ル一村ニシテ、川上、三森、久保、安川、福谷、石山、佐畑、小車田、鹿野、笹谷、岡安、神崎、廣岡萬願寺ノ十四大字ヨリ成ル。

村ノ彊域ハ北ハ本郡和田村、高濱町、青郷村ニ界シ、西ハ京都府何鹿郡奥上林村ニ、南ハ遠敷郡奥名田村ニ界シ、何レモ山ヲ繞ラシ東ノ一方ノミ平野ニシテ本郷村ニ接續セリ。地形Y字形ニ似テ、東西ニ長ク南北ニ狹シ、而モ南西ヲ圍ム連嶺中ニハ神崎岳、久保山、川上山ノ高峰アリ。

村ノ中央ヲ縱貫スル佐分利川ハ郡内第一ノ大河ニシテ、源ヲ丹波ノ國境ニ發シ幾多ノ支川ヲ併セ本郷地籍ニ入リテ青戸灣ニ注ク、全長三里三十一町縣下ニ於ケル急流ナリ。

村ノ面積東西二里十七町南北二十町ニシ一方里余ナリ。

戸數五百人口二千四百七十五（第二回國勢調査大正十四年十月一日現在ニ依ル）

民有耕地面積田畑合計三百五十三町余、年期地十七町余、原野二十八町九反余ナリ。
山林千三百五十六町余、宅地七百五十六万余坪、此外官有地郷村社地墳墓地溜池等ナリトス。

村ノ沿革及行政

本村ノ起源ハ茫乎トシテ知ル可ラズ。其ノ變遷及發達ノ徑路ヲ詳説セントスルニハ相當豐富ナル史料ヲ要スルハ勿論ナリ。然ルニ戰國時代以前ノ史料最モ稀レニシテ文献ノ依ルヘキ者ナキハ頗ル遺憾ナリ。古記ニ現ハレタル古墳及ヒ現存ノ古墳ニ因テモ本村發達ノ起源ハ遠ク平安朝以前ニアルヲ證スルニ足ル。古墳ノ現ニ存スル者ハ鹿野ニ多ク、笹谷石山等ニモ存セリ。今日以前既ニ發掘シテ其ノ外形ヲ存セザルモノ尠ナカラズ。曾テ鹿野小字石倉ニ在リシ者ノ發掘サレタルコトアリ、其ノ中ヨリ曲玉、管玉、丸玉ノ三種七個及ヒ銅ノ鍍金ヲ施シタル小環（耳飾カ）劍ノ殘片並ニ土器ヲ出シ（石倉金藏氏）タルモ其ノ如何ナル貴族又ハ豪族ナリシヤ其ノ出土品ノ製作年代等學者ノ研究ニ待ツニアラザレハ之レヲ知ルニ由ナシ。伴信友翁ノ若狹誌ニ笹谷村ノ山間ニヅク穴ト云アリ。高サ六七尺ノ塚ニテ、横ニ大石ニテタヽミタル穴アリ、穴ノ高サ三尺余アリテ中モ石ニテタヽミテウツラナリ。蛇ナドノスムユヘ人イルコトナシ。按ズルニ、ヅクト云ハ上ッ方ヲ云フ若狹ノ方言ナリ。此ノヅク穴モ古墳ナルベシト記セリ以テ推知スベキナリ。

郷名ハ人皇四十四代元正天皇ノ靈龜元年（紀元七五年一三）以降ニ里ヲ改メテ郷名ヲ撰バシメラレタルコトハ各史ノ載スル所ナリ。大飯郡内ニ四郷名ヲ擧ク、其ノ中佐文ノ名ヲ記セリ。佐文ハ左夫ト訓ズルコト高山寺本ニ見エタルモ、文ヲ分ニ變ジタルコトハ其ノ年代ヲ詳カニスルヲ得ズ。思フニ文ハ分ト同音ニシテ相通スルヨリ變シタル者ナルベシ。福井縣史ノ乘スル處ニ據レバ、鎌倉幕府ノ初葉建久七年（紀元一八五六年）源平両家祇俟輩交名ノ注進狀アリ、青兼長、佐分時宗、木津則高等三十三氏ヲ擧ク、各在名シテ其ノ姓トシ、多ク幕府ノ家人トナレルコト竝ニ佐分氏ノ跡ハ寛喜年間（紀元一八八九年ヨリ同一八九一年ニ至ル）以後守護方ニ押領セラレタリト記セリ。之レニ依テ見ルモ既ニ文ハ分ニ變ジテ用ヒラレツヽアリ。其ノ以後ノ文書タル京都東寺所藏ノ百合文書中ノ文永二年（紀元一九二五年）若狹國惣田數帳ニハ明カニ佐分郷ト記シ、更ラニ降テ福谷伊射奈伎神社所藏ノ應永十三年五月（紀元二〇六六年）周文書寫ノ一切藏經中ノ一部大集經奥文ニ若州大飯郡佐分郷善樂寺ニ於テト記セルニ依ルモ佐分トナリ居レリ。而シテ若狹誌ニ伴信友翁郷名佐分ヲ補修シテ曰ク、見聞諸家紋帳ニ壯丹ノ紋ヲ畫テ下ニ攝劦源氏ノ田能村一番佐分ト書テ『サブリ』ト假名アリト記載セラレタルヨリ見レバ、既ニ佐分ノ文字ヲ『サブリ』ト通稱シタル者ナルベシ。佐分利ノ文字記載サレタルハ何ノ頃ニ初リシカ明ラカナラズ。元龜、天正ノ頃、石山城主武藤友益ヲ佐分利殿ト

稱シタルコト若狭志其他若狭ニ關スル史乘ニ載スル所ナレバ、此ノ前後ノ時ヨリ呼ヒナシタル所ナルベキカ。二百余年前記載ノ者ノ中ニハ利ヲ里ト書キタル者アルモ、文字ニ重キヲ置カズ通音ノ上ヨリ記シタルナラン。

郷ノ區域明カニ記サレタルハ若狭志又ハ元綠年間ノ郷帳ニ詳カナリ。之レニ據レバ佐分利全村十四大字ノ外ニ、父子、野尻ノ二大字ヲ加ヘ十七ケ村トセリ（安井、川淵二村ヲ併合シ安川一村トナリシ爲一村減ス）文永二年ノ若狭惣田數帳ニモ佐分郷ノ内ニ野尻宮ヲ加ヘアルヲ見レバ、郷名ノ定メラレタル當時野尻以西ヲ稱シタル郷名ナルヤ明カナリ。

之レヲ治ムルニ國主又ハ領主地頭ノ如キアツテ管理シタルハ勿論ナレドモ、直接郷ノ統治ヲナシタル御家人或ハ代官ノ來郷シタル者アルヲ見ル。彼ノ佐分氏ノ如キ卽チ是ナリ。頼朝ノ鎌倉幕府ヲ開キタル時、家人トシテ交名ノ注進狀ニ名ヲ列子領地ヲ有シタリ。（居館ノ所在地ヲ記スルモノナシ）元久元年秋八月（紀元一八六四年）若狭ノ守護トシテ津々見忠季任ニ就クヤ税所代トシテ五名ヲ置ケリ。其ノ一人ニ守護ノ御家人タル岡安右馬太夫時久ナルアリ、岡安ニ（居所ハ同區内小字殿ノ奥ナランカ）在住シ佐分利郷ノ地頭ト爲リタレハ、佐分氏ハ其ノ職ヲ退キタル者ナルベシ。其ノ後寛喜三年（紀元一八九一年）陸奥守北條重時津々見氏ニ代リ本國ノ守護トナリ、佐分郷及西津開發地ヲ以テ守護領トナシ、岡安右馬太夫ノ領地ヲモ押領スルニ至リシモノカ。彼ノ文永二年ノ若狭惣田數帳ニ左ノ如ク記載セラレタルヲ見ル。

國領

岡安名　六町七反三百五十歩

除ク在廳尙康給三町ヲ

當所米二十三石六勺七才

領主御家人岡安馬太夫跡也而佐分郷地頭職御代官被抑之間岡安孫二郎訴申最中也。ト

文永二年ハ寛喜三年ヨリ三十四年後調製ノ簿冊ナリ。憶フニ守護モ屢交代アリト雖モ、岡安ノ子孫領有シタルニ、北條家ノ地頭等ニ依テ沒入セラレタルヲ訴フルナルベシ。一タビ給セラレタル領地ハ子孫ノ世襲トナリ、役務ニ從ハザルモ領有スルコトヲ得タルナラン。岡安氏以後又地頭ノ存在スルモ其ノ人名ヲ知リ難シ。而シテ寛喜以後佐分氏ノ領地モ守護方ニ押領セラレタルガ如シ。然レドモ佐分氏一族ハ尙ホ此ノ地ニ居住シタルヲ思ハシムルモノアリ。卽チ貞治二年（紀元二〇二三年）足利高經入道道朝二度ノ守護トナリ、代官完草上總介又代官安富ヲ置キシガ、五年八月京都ヲ沒落シテ越前ニ退去スルニ及ビ、一色範光之ニ代リ、伊藤入道、遠山入道下國シタリ。代官ニ小笠原長房アリ、居館ハ引續テ西津庄ニアリ、此頃國内頗ル亂レ干戈殆ンド止ム時ナシ。卽チ應安二年正月遠敷郡安賀庄ニ於テ金輪院謀叛

シ、守護代之ヲ攻メテ捷タズ、三年十二月ニハ三方郡山東、山西郷ニ於テ守護使夜討セラレ、四年正月守護代西津ヨリ出陣シテ管濱ニ合戰アリ、續テ鳥羽、宮川、倉見、能登野、ニ戰ヒ、範光ノ子詮範西津ヨリ來リテ之ヲ助ケ亂束キ、四月ニハ宮川城ヲ燒略ジタル後、五月ニ至リ國一揆等安賀、鳥羽、三宅ニ亂入シタリシガ、守護代等國人佐分、本郷、青、一族等ヲ率イテ野本山ニ陣シ玉置川原ニ合戰アリ、大捷ヲ得タリ。一色範光ノ子詮範明德二年十二月職ヲ繼ク』ト福井縣史一編(三六三頁以下)ニ見エタリ。

寛喜三年以後應安四年迄ニハ鎌倉幕府既ニ廢レ、足利義滿將軍職ヲ繼ケル時代ナルヲ以テ、百四十年ヲ經過シ居ルモ、佐分氏ノ一族ガ守護代ヲ助ケテ出陣シタルヲ見レバ、郷内ニ永住シ武備ヲ張リタル者ナルヲ偲バシム。今彼レガ居住ノ地ト徴スベキ文献ノ飲ケタルハ頗ル遺憾ニ堪ヘズ。

爾後戰國時代ニ渉リ佐分氏ノ消息ヲ見ズ。延元元年以降足利家兼入地シテヨリ、屢守護又ハ代官ノ變動アリシモ、來住シタル者ノ氏名等一切明カナルハナシ。一色氏ニ代ハリ永享ノ末年ニ武田信賢若狹ノ守護トナリ、一色氏ノ殘黨ヲ所在ニ討滅平定シ、更ラニ地頭又ハ税所公文ノ如キ者ヲ駐在セシメタルヲ聞カズ。

室町幕府ノ政令漸ク衰ヘ、天下諸國ノ兵革諠ラザル末葉ノ期ニ及ンデ、武備南北ニ微ナルノ時、即チ天文ノ末年ニ武田氏ハ一族又ハ重臣ヲシテ各所ニ城ヲ築キ變ニ供ヘシメタリ。吾ガ佐分利郷ニ武藤上野介友益來リ石山々上ニ城ヲ築キ十七ケ村ヲ統轄領有シ從臣ハ城下附近ノ地ニ住セシメ武威ヲ張ル。里民ハ城主ヲ指シテ佐分利殿ト稱ス。若狹志ノ記ス所ニ據レバ武藤氏ハ元ト丹後ノ國士ニシテ、武田信賢丹後ノ國ヲ併セ領スルノ時之レニ屬シ、本國ノ士トナリ此ニ來リ住スルナランカト云ヘリ。

武藤氏ハ武田家ニ重用セラレタル者ナルコトハ、若狹守護代記等ニ武田ノ四老トシテ内藤筑前守、逸見駿河守、粟屋越中守ト共ニ名ヲ列シ、其ノ他山城ノ主將ヲ列記スルヲ見ルモ勢力威望勝レタリシヲ知ル。武藤氏據守以前既ニ川上山(小字逸谷ト云フ)ニ一色五郎守邦ガ居城アリ、案ズルニ康安元年佐々木道譽細川清氏ヲ除カンガ爲メ斯波氏頼ヲシテ北陸道ノ兵ヲ以テ越前ヨリ、仁木三郎ヲシテ山陰道ノ勢ヲ以テ丹波ヨリ逆谷ヲ通シ攻メ入ラシメタリ。此事ハ信友翁ノ若狹志ニモ詳記セラル。

以上ノ事實ニ鑑ミ、國境防備ノ爲メ爰ニ築城シ駐兵シタルモノカ。主將一色五郎守邦ニ關シ若狹志ニ『川上堡ハ逆谷ニ在リ、傳ヘ言フ五郎一色守邦ノ據ル所、石山ノ城主武藤友益ガ爲メニ滅サル。按ズルニ明德ヨリ永享ニ至リ一色詮範三世本國今富ノ莊ヲ領シ又々守護ヲ兼ス。五郎ハ一色氏末ダ叙爵セザル時世々稱號ト爲ス或ハ是レ歟』トアリ。武田家ノ被官トシテ據守シタルハ必然ナリ。守護代記等ニ見ルモ大ナル勢力者ニアラザルガ如シ。石山ノ城主武藤上野介ニ滅サレタルコトハ前ニ記スル處ノ如クナルモ攻略ノ年時ハ史乘ニ詳カナラズ。又タ高濱城主逸見氏ト交戰スルコト數回、彼レガ石山城

ヲ攻ムル由ヲ知リ、兵ヲ笠原ニ進メテ迎ヘ戰ヒ、一隊ヲ川上ヨリ越ヘテ高濱城ニ肉迫セシメタル如キ舊史ニ傳フル處ナリ。或ル時ニハ逸見氏福谷坂ヲ越ヘテ石山城ヲ攻メタル如キ古老ノ口碑ニ存セリ。又時ニハ本郷城主トモ交戰シタル如ク傳フル者アルモ確カナラズ、此レニ關シ本郷村ノ某氏調査セラレタル者ナリトシテ長覺寺ノ題下ニ下ノ如ク記セリ。金龍山長覺寺ハ今字ヲ長覺寺谷ト稱スル處ニアリテ、本郷治部少輔累代ノ菩提所ナリ。故ニ庫裡方丈其ノ外總門山門鎮守ニ至ル迄麗美ヲ盡セル構ナリシガ、佐分利石山城主武藤上野介高田城ヲ陷レムト住僧大經和尚ハ武藤家ヨリ出タル人ナルヲ奇貨トシ、武藤圓之助ヲ從ヘ岡田一幡山ニ出張』云云ト記セリ。眞疑素ヨリ保シ難シト雖モ威武ヲ振イタル武藤氏ナルヲ以テ或ハ事實ナルベキカト爰ニ參照シタリ。若狹志其ノ他ノ舊史ニ顯レタル三松大谷山（現青柳村三松）ニ石山ノ城主武藤上野介ノ出城ノ跡アリト記スル依テ見レハ、彼ノ天文十九年ノ頃丹後ノ兵來襲ノ際ニ出陣シタルニ因テ設ケタル者ナラン。後年武田守護ノ勢力失墜シ、譜代ノ家人ヲ始メ國中所在ノ城主等銘々ニ引籠リ元明ニ從ハズ、然ルニ元龜元年ニ遇々織田信長朝倉義景ヲ滅サントシテ江為朽木谷ヨリ發シテ本國熊川ニ到ル、本國ノ士皆往テ織田侯ニ謁シ其ノ軍ニ從フ。越前國天筒城陷リ金ケ崎ノ城降ル、時ニ淺井長政織田侯ニ叛クニ逢テ師ヲ班シ本國ヲ經テ京ニ入ル、丹羽長秀明智光秀ヲ遣ハシテ石山城ヲ攻ム、其ノ故ハ當國皆信長ニ從フ、獨リ武藤氏出デズ、之レガ爲メニ攻メラル、

上野介ハ要害ヲ恃ミ戰ハシトセシモ、家臣村松主水諫テ降ヲ乞ヒ其ノ母ヲ以テ質ト爲スト。之レニ依テ見レバ、渺タル一小山ノ城主ニシテ剛膽勇武ヲ思ハシム。其ノ反面ニハ武藤氏一族ガ時々佛寺ニ詣シタルコトアルヲ傳フ。舊記ニ父子ニ武藤氏遊宅ノ跡アリ、海元寺谷ニシテ土人茶屋跡ト稱ス。石山ノ領主武藤友益爰ニ來リ盛服シテ佛寺ヲ詣スト。又タ淨土寺緣起ノ一部ニ上野介ヨリ々々參詣アリ、奥方ノ菩提所ト定メ聞法セラルト記スルト見ルモ、單ニ勇武ノ一片ニ偏スル者ニアラザリシヲ想起セシム。然レトモ領主トシテ任ニアル其ノ間攻伐ノ事績ヲ殘スモ、治民ノ上ニ何等露ハレタル功績ノ存ゼザルハ惜ムベキ處ナリ。

彼レノ終リニ於テ逸見氏ニ攻略セラレ、其ノ菜地全部（五千石ナリト云フモ詳カナラズ）ヲ併呑サルト云フ（武藤氏ハ戰沒ナル十亡命ナル十是レ又詳カナラズ或記ニハ京都白川ニ逃ルト云フ）

石山城ノ破壞サレタル年時ニ付テモ地方ニ何等徵スベキ史料ナシ。思フニ天正十五年國主丹羽長秀越前ニ移封セラレ北ノ庄ニ移ル。小濱城ハ既ニ防備ノ用ナキヲ以テソノ外廓ヲ徹シ、又國中所在ノ城塞ヲ毀テリトアルヨリ見レバ、石山城ノ破脚モ此ノ時ナラン。石山城址ハ川上ヨリ萬願寺ニ至ル村ノ大部ヲ一望ニ攝シ得ル小字横谷口、道ノ上、意足ノ三小字集合ノ山巔ニシテ、反別凡ソ五六畝歩以上ナルベキカ。猶ホ石垣ノ用石所々殘存スルヲ見ル。然レドモ現地ハ四方ヨリ雜樹密生シ境界分明ナラズ。

元龜元年以後織田侯武田家ノ舊臣ニシテ、侯ヲ援クル者ニ舊地ヲ安堵セシメ、且ツ丹羽長秀ヲシテ國事ヲ管セシム。天正四年ニ至リ若狹半國ヲ與ヘ小濱城ニ治セシム。其ノ後（年時不詳）代官小笠原與十郎當地ニ來住民治ニ與カリシナリ。天正九年七月十七日父ナル圓明院覺道智誓沒シ母モ又天正十七年十一月二十五日沒シ、智光院顯彰妙誓ト法名シ共ニ淨土寺ニ供養セリ。且ツ天正十六年二月十六日付ノ寄進狀及同二十年九月十三日付ノ山手米寄進狀ハ共ニ現存セリ。試ニ其ノ一通ヲ採錄スレバ左ノ如シ。

以上？（章体ニテ分明ナラズ）

其村之山手米之儀合壹石貳斗八升之內壹斗之淨土寺へ爲月忌米令寄進候名々可其心得候事如件

天正二十年九月十三日　小笠與十郎（不明）名書判

いしやま
伊勢木
たん
惣中

而シテ天正十五年ニ丹羽氏北ノ庄ニ轉ジ、淺野長政之レニ代ハリタルモ、在役シタルモノナルコトハ掲出シタル寄進狀ノ天正二十年九月ナルニ依テ觀ルモ明カナリ。其ノ役務ヲ去リタルハ此ノ以後ノ事ニ屬スルモ、年次等ハ詳カナラズ。長政此ノ國ヲ領スルノ始メ民政ニ付テ下シタル條令ニ左ノ如キモノアリ。

條々　大炊郡ノ內　安井村

一隣國より年貢等とりこしゝ者相かゝるましき事
一盜賊人又はたよりもなく一切しれさる者かかへ置ましき事
一給人代官百姓に對し不謂るから申か氣入夫等むさとはかひゝ事承引仕間敷ゝかうきゝ仕にをひさは直訴可申事
一前々よりはしりゝ百姓よひかへし田地あれさるるうに可申付ゝ荒地は半納年々あれは來年役夫可令用捨ゝあれ地をひらき又ぬしなしの田地作毛付ゝ者末代さいはんすべき事
一おとな百姓として下作に申付作あひをとりゝ儀無用にゝ今

まで作仕候百姓直納可仕い事

一地下のおとな百姓又はゑやしくわんあとに一時もひらの百姓つかはれはしき事

右所相定如件

天正十五年十月二十日　彈正弼（書判）

専ラ下層農民擁護ノ爲メ此ノ政令ヲシキ增々農ヲ勸メタリシヲ偲バシム。本文書中ニモ給人代官云云ト云ヘリ。各地ニ給人代官ノ類常在シタルヤ昭カナリ。而シテ石山城ノ陷落ト共ニ其ノ菜地ハ高濱城主逸見昌經ノ領スル所トナリ、昌經沒後ハ丹羽長秀ノ臣溝口秀勝五千石ヲ得テ高濱城主トナリ、天正十一年堀尾吉晴ソノ後ヲ襲ヒ一万五千石ヲ食ミ、次ニ山内一豐來テ領シ、同十五年淺野長政入國シテ一族淺野久三郎ヲ置キ、文祿二年ニハ木下俊房二万石ヲ食メリ。

關ケ原戰後備中ニ轉ジ、京極氏小濱ニ封ゼラルヽニ及ビソノ族佐々義勝ヲシテ治セシメ、忠高ノ時ニ至リ罪ヲ得テ除カレ廢城ス。此間佐分利郷ハ高濱城主ノ支配下ニ置カレタルニ非ザルカ、多少疑團ノ存スルヲ以テ一言之レニ言及ス。

小笠原氏以後代官來住シタル文獻ナシ。京極忠高ノ後ヲ承ケ寛永十一年八月酒井忠勝若狹ノ守護トナリ鋭意治ヲ圖リ、又代官若クハ給人ノ如キ者ヲ所在ニ置カズ藩主又ハ藩老城代ノ如キ重臣ヲシテ巡回檢察ヲセシムルコトモアリ、各郷村ニハ大庄屋、庄屋、組頭等ノ役ヲ置キ政務ヲ助ケシメタリ。現在ノ各大字内ニハ必ズ庄屋、組頭ノ役ヲ置キ、且ツ在役ノ者ハ相當ノ資産ト人望アル者ヲ選ビタル者ノ如シ。酒井氏守護トナリテヨリ明治ノ御代ニ至ル迄二百三十五年間特ニ記スベキ事項ナキモ、勤儉ニ關スル令達ニ時弊ヲ誡メタル者試ミニ一二ヲ摘錄スレバ天和二年五月ニ發セラレタルモノ（紀元二三四二年ニ當ル）

定

一　忠孝をゝけはし夫婦兄弟諸親類にむつましく召仕のものに至る迄憐愍を加ふべし若不忠不孝の者ゐゝ可爲重罪事

一　萬事におこりいたすをかゝす屋作衣服飯食等に迄儉約を可相守事

一　惡心をもつて或いはゝ或無埋を申懸け或利欲をかまへて人の害をなすをからす惣て家業をはゝむへき事

一　盗賊並惡黨者有之ハ訴人に出へし急度御褒美可被下事

附博奕堅令制禁事

一　喧嘩口論停止の自然有之時其場ゐ猥に不可出向又手〇（文字不明）ゐるもの抜かくし置をからす

一　非行死罪乃族有之被仰付輩乃外不可馳集事

一　人賣買堅令停止の並年季の召仕下人男女共ゟ拾ヶ年を歸るべし其定數過ハ可爲罪科事附代の家人又ゝ其所に往來輩他所ゟ相越妻子をも合所持其上科なき者を不可呼返事

右の條々可相守之於有違犯輩ハ可被處嚴科旨被仰出也仍下知如件

ト奉行所ヨリ達シタル者アリ。又安永六年申付ナル左ノ如キ者アリ。

一　近年所々より百姓共妻子を初め衣類分限を越甚不相應の品を着用致ゝ樣に相聞ゝ右御法度の儀銘々相曉り可申事にゝ得共時節につれ自然と人並を見合ゝ心より分際取失ひ奢相成候事と存ゝ間互に相いましめ隨分質素に身分を忘不申ゝ樣可致ゝ

一　全体世上につれ段々何事も奢に相成自ら身分を取失ひ身上潰ゑゝも及ゝ樣に相成ゝ申迄も無之ゝ得共百姓の儀ハ耕作第一の事にて相勵み力筏盡し手入等能致ゝ得ハ存乃外出來ゝへ相成銘々爲に相成くつろきにも相成ゝ事にゝ是等ハ百姓の儀能可存事にゝ得共間にゝおこたり不精ゝて稼油斷の者も可有之ゝ間互に相ゝはけみゝ樣可致ゝ

一　右衣類等の儀ゝ御法度の儀故屹度相守ゝ若大目付中下役相廻見咎剝とられゝ樣相成ゝてハ其者ハ勿論の儀村役人共越度ゝ可相成ゝ間平生人並を不見合相嗜用心可致ゝ（各種箇條アルモ省略ス）

此外多數ノ古記文章アルモ省略セリ。要スルニ當地方カ質實勤儉ノ風ニ化セラレ、明治ノ中業ニ至ル迄デ其ノ俗ヲナシタル洵ニ由緒アルナリ。明治二年酒井氏版籍ヲ奉還シ、ソノ六月　勅許ヲ得小濱藩知事ニ任セラレ、同四年七月廢藩、次デ十二月敦賀縣ヲ置カレ其管内ニ入ル。此ヨリ先キ各地共其域内ヲ區分シ大小區制ヲ定メラル。即チ大區ニ區長ヲ置キ小區ニ戸長副戸長ヲ置カレ、從來ノ庄屋組頭等ノ名稱ヲ廢セラル。明治五年ノ末頃ニ大飯郡ヲ二大區ニ分タレタルコトアリ。其頃第二大區ニ編入サレタルコトアルモ、同七年ニ入リ全郡ヲ一大區ニ統率セラレタル結果吾ガ佐分利ハ野尻村ヲ本郷村ニ分屬スル行政區トナリ即チ左表ノ如シ。

一　大區（大飯郡一圓役所々在地和田村）

八小區	（川上、三森、久保、安井、川關、福谷、石山、小車田）	八ヶ村
九小區	（佐畑、鹿野、笹谷、岡安、神崎、廣岡、萬願寺、父子）	八ヶ村

八、九ノ二小區ニ分割セラレ行政ノ中心タル戸長役場ハ八小區ハ三森或ハ川上ニ、九小區ハ岡安ニ何レモ戸長ノ住宅ヲ以テ役宅ニ定メラレ、地理上ノ中心ヲ缺キタリ。蓋シ事務簡易特ニ役所設備ノ要ナカリシニ因ル。副戸長ハ各村毎ニ一名ヲ置カル。而シテ同七年ニ八小區内ノ安井、川關両村ヲ併合シ安川村ト改稱ス。敦賀縣ニ屬シテ以來最モ大事業ト見ラルヽ者ハ地租改正ニ伴フ土地ノ實測地籍圖調製是

レナリ。同九年ニ至テ完成シ、幾程モナク敦賀縣ハ廢セラレ滋賀縣ニ分屬ス。同十一年ニハ大小區制ヲ廢シ郡町村編成法ヲ制定シ郡ニ郡長ヲ置カル。此時元ト八小區内ノ福谷ハ獨立戸長ヲ置キ、他ノ川上、三森、久保、安川、石山、小車田ノ六ヶ村ハ川上ニ戸長ヲ置ケリ。九小區ニ於テモ神崎村ハ獨立シテ戸長ヲ置キ、佐畑、鹿野、笹谷、岡安、廣岡、万願寺、父子ノ七ヶ村ハ岡安ニ戸長ヲ置ケリ。同十四年滋賀縣ノ管轄ヲ去リ新ニ福井縣ニ屬セリ。此ノ時代ニ入リテ町村行政特ニ國ノ行政益々複雜ヲ加ヘ、戸籍事務、徵兵事務、徵税事務、衛生事務、土地ニ關スル事務ノ如キ一人ノ戸長ト私宅トヲ以テ處理シ得ザルニ至リタリ。即チ同十七年ニ聯合戸長役場ヲ區域内ノ中心地タル石山ニ定メ、父子村ヲ裂テ本郷村ニ移シ、石山村外十三ヶ村戸長役場ト稱シ民家ヲ借受ケテ執務スルニ至レリ。越テ二十二年四月市町村制ノ實施サルヽニ及ビ官選戸長ヲ廢シ戸長役場ノ區域ヲ其儘村ニ改メ、舊郷名ヲ襲ヒ佐分利村ト稱スルニ至ル。此間官命ニ依リ戸長ニ在職スル諸氏左ノ如シ。

年次	區別	住宅	氏名
明治四年七月 同年十二月迄	佐分利下組戸長	岡安	芝原彦作
同五年十一月 六年六月區長ニ	第二大區四小區戸長	岡安	芝原彦作
同		萬願寺	木村平右衛門
同		石山	武藤團
同		川上	大谷長之丞
同		岡安	芝原作右衛門
同		石山	武藤團
同		岡安	芝原作右衛門
同	第一大區九小區戸長		
同	第一大區八小區戸長	三森	岩崎左吉
同	同	同	岩崎源右衛門
同	同川上外五ヶ村戸長	川上	野口彌左衛門
同	岡安外六ヶ村戸長	岡安	芝原作右衛門
同	福谷戸長	福谷	見城久右衛門
同	神崎戸長	神崎	堀口彦左衛門
同	川上外五ヶ村戸長	川上	新谷幸治郎
同	五小區戸長		
同	二大區　二小區戸長		
同			
同			
同			
同			
同			
同			
同			
同			
同			
同			
同十六年			

同十七年八月 二十二年四月迄	石山外十三ヶ村戸長 準判任官八等	岡安　芝原作右衛門

村役場ハ多クノ不便ヲ訴ヘツヽ、民屋ノ借家ヲ以テ其儘充當シ來リシモ、事務ノ增加ニ伴ヒ公簿激增到底執務シ能ハサル狀況ニ陷リ移轉ノ余儀ナキ場合ニ至リ、養成小學校ノ舊校舍（西方寺地内在）ヲ借入レ、二十四年同所ニ移リテ執務スルニ及ビ稍便ヲ得シモ、村會其ノ他ノ會議ヲ要スル場合ニハ借家ヲ要スル等種々ノ支障アリ、終ニ明治三十九年末ニハ時運ノ進展ニ伴ヒ建築ノ議ヲ決シ、石山第二十一號四、五、六番ノ現在地ニ移シ、從テ交通ノ便ヲ計リ河川ニ沿ヒ堤防ヲ道路トナサントスル腹案ニ基キ此地ニ遷セルナリ。

元來本村ハ村ノ中央ヲ縱貫スル佐分利川ノ爲メニ度々ノ災害ヲ受ケ、復舊ノ事業ニ累セラレ、自治發展上ニ幾多緊急ノ問題ヲ閑却スルノ止ムナキニ至リ、累代ノ村長ガ苦心ヲ極ムルモ主トシテ此レニ原因セリ。而シテ近時都市ノ文化ニ憧レ青年子女ノ農村ヲ出ル者多ク、爲メニ藩制時代ヨリ馴致セラレタル勤儉質素ノ美風ハ日ニ失セテ奢侈ノ惡風漸ク瀰漫シ、山林ハ亂伐セラレ富源涸渴セントス。正ニ是レ自治團体ノ危機ナリ。當局坐視ニ忍ビズ、明治四十二年村是ヲ制定シ團体ノ鞏固發達ヲ計レリ。村是ノ項目九種ヲ擧ケ、民衆ヲシテ實踐窮行ヲ强要ス。即チ一植林、二蠶業、三勤儉、四信用購賣販買組合、五教育、六基本財産、七納稅整理、八米麥種子ノ精選及肥料、九木炭ナリ。

本村ハ山地反別壹千町歩以上ニシテ山林ニ依テ生活ノ本據トナス者多シ。彼ノ木炭製造者ノ如キ之レナリ。然ルニ山林ノ荒廢ニ任セ顧ミザレバ誠ニ恐ルベキナリ。故ニ植林ヲ第一ノ項目ニ擧ケタルナリ村是制定以後殆シド二十年、項目ニ依テハ既ニ目的ヲ達セラレ更新ヲ要スル機運ニ向ヘリ。故ニ昭和二年十月之レヲ改訂シタリ。村是及ビ教育、衛生、交通、産業等ノ如キハ別ニ項ヲ擧ゲテ記述スルコトヽセン。

町村制施行以後村ノ行政ニ鞅掌セラレタル村長及ビ助役ノ諸氏左ノ如シ。本村ノ村長助役ハ共ニ名譽職ナリ。

在職期間	事故	住所	位勳	氏名
自明治二十二年四月 至同四十一年六月	滿期	万願寺	勳八等	木村平右衛門
自同四十一年十一月 至同四十三年八月	在職中死亡	山		武藤團
自同四十三年九月 至同大正二年三月	辭職	谷		中川長藏
自同二年四月 至同十四年三月	滿期	岡安	勳七等	芝原卓一

自明治二十二年六月至同	辭職	岡安		芝原作右衛門
自同二十二年六月至同三十二年七月	滿期	岡安		石橋龜藏
自同三十二年七月至同三十六年七月	滿期	石山		武藤團
自同三十六年八月至同四十三年三月	滿期	石山	動八等	武藤銀藏
自同四十三年五月至大正二年三月	辭職	廣岡		內方茂兵衛
自同二年三月至同四年三月	辭職	久保		柿本幸太郎
自同四年五月至同八年五月	滿期	川上		三谷大江
自同八年五月至同十二年五月	滿期	廣岡		松井榮藏
自同十二年七月至同十四年六月	村長ニ當選	福谷		中川長一
自同十四年六月	現任	福谷		中川長一

以上村長

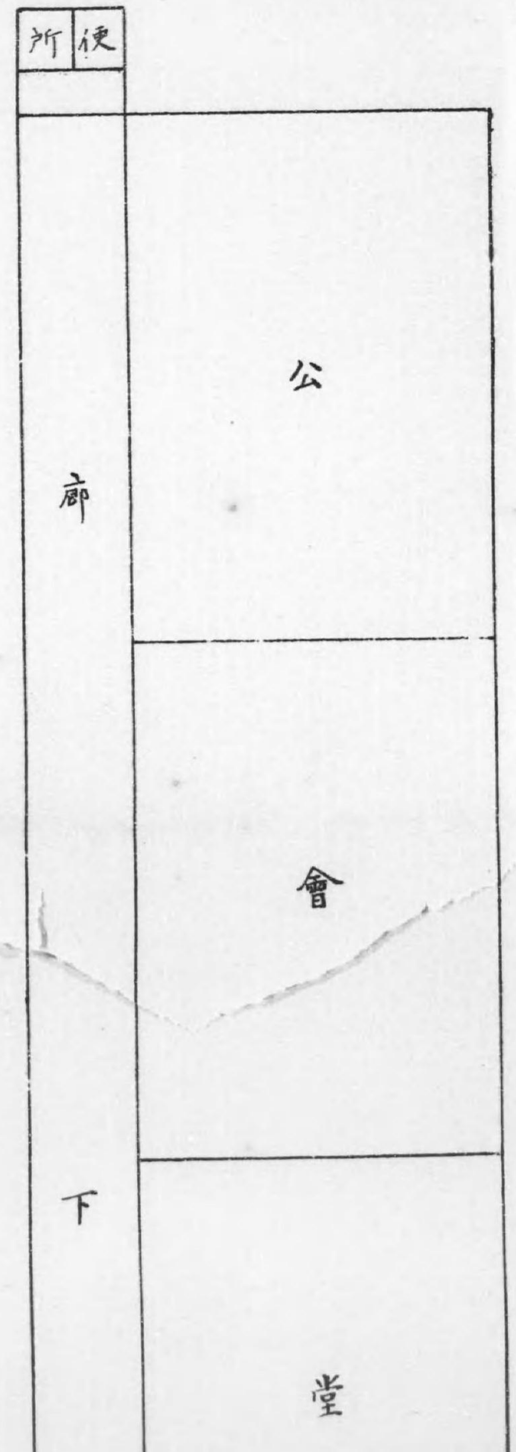
佐分利村役場
佐分利公會堂　縮圖

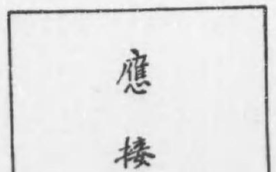
位置　佐分利村石山第貳拾壹號四五六番合併地

敷地總坪數　五二〇坪
役場建坪　五六坪
公會堂建坪　六七坪

役場
明治四拾壹年九月一日　建築
大正貳年　拾月拾日　增築
大正參年　六月參拾日　增築

公會堂
大正拾四年四月拾日　建築





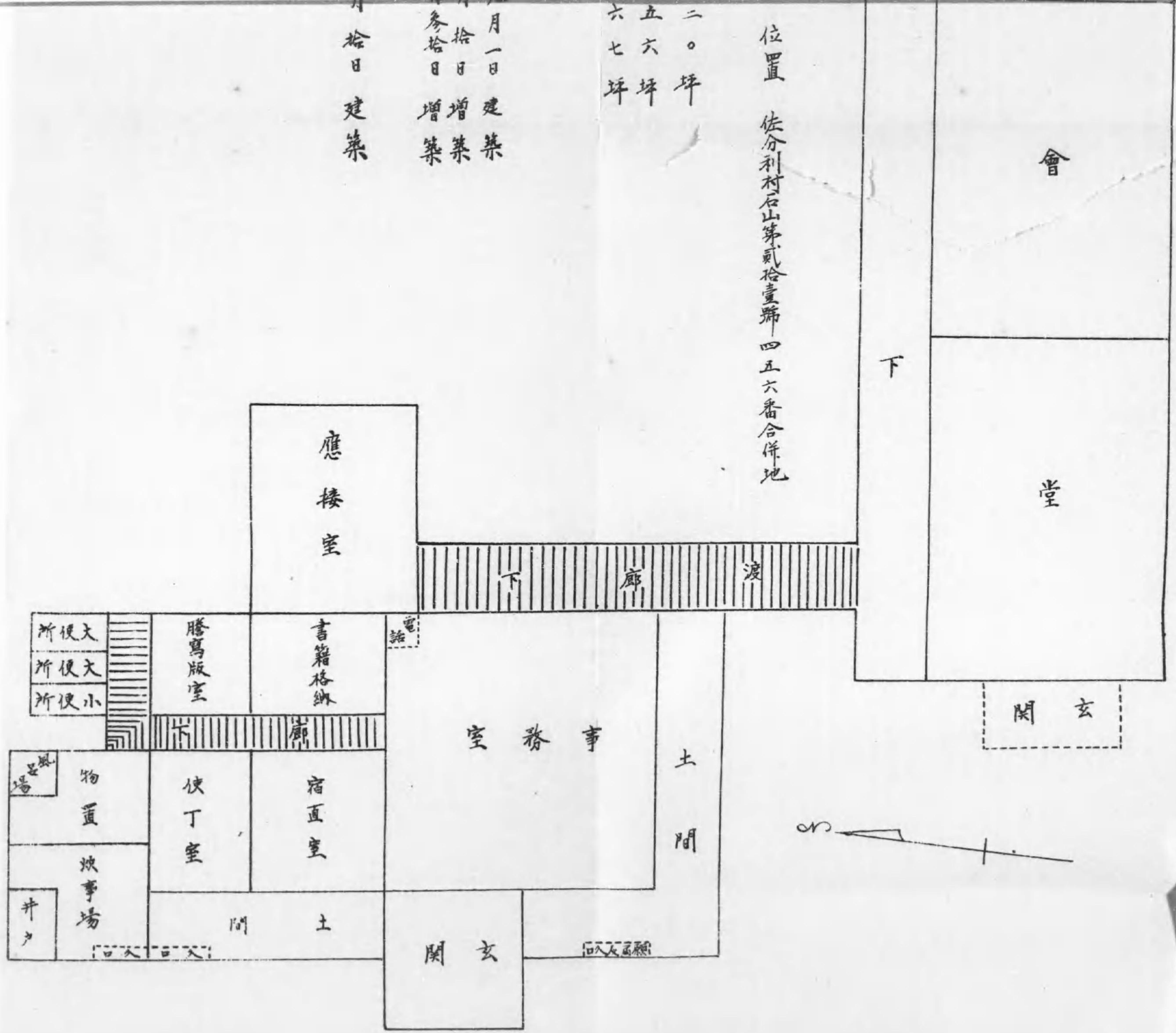
（壹間ヲ五分ノ縮尺）

位置　佐分利村石山第貳拾壹號四五六番合併地

二〇坪
五六坪
六七坪

月一日　建築
拾日　増築
参拾日　増築

月拾日　建築



自同四十三年五月 至大正二年三月	辭職
自同二年三月 至同四年三月	辭職
自同四年三月 至同八年三月	滿期
自同八年五月 至同十二年五月	滿期
自同十二年七月 至同十四年六月	村長ニ當選
自同十四年八月	

廣岡久保	安川福谷
廣川上岡	
內方茂兵衛	盛下市兵衛
柿本幸太郎	
三谷大江	
松井榮藏	
中川長一	

以上助役

初期以來村會議員ニ當選シタル諸氏左ニ

當選年月	級別	退職年月	住所	位動	氏名
明治二十二年四月	二級	明治二十八年四月	川上		渡邊源右衛門
同	同	同二十三年六月死亡	福谷		中川清藏
同	同	同二十八年四月	同		中川長藏
同	同	同二十二年五月辭退	石山		武藤團
同	同	同二十五年四月	同		武藤銀藏
同	同	二十八年四月	万願寺		木村平右衛門
同	一級	同二十五年四月	雀谷		渡邊善助
同	同		岡安		石橋龜藏
同	同		神崎		堀口甚之助
同	同	同二十八年四月	岡安		芝原作右衛門

同	同	同	廣岡	内方茂兵衛
同	同	同	万願寺	木村平太夫
同二十五年五月再	二級	同三十一年四月	石山	武藤銀藏
同	同	同	鹿野	塚本梅藏
同	同	同	久保	柿本五兵衛
同	一級	同年五月	笹谷	渡邊善助
同	同	同	岡安	芝原新平
同	同	同	小車田	筒井梅藏
同二十八年四月	二級	同卅二年十二月辭退	岡安	芝原作右衛門
同	同	同	佐畑	柳原音吉
同	同	同	川上	杉左近衆之助
同	一級	同	福谷	中川長藏
同再	同	同	廣岡	内方茂兵衛

同	同	同	万願寺	木村實藏
同	二級	同三十七年四月	福谷	左中龍藏
同	同	同	石山	武藤近藏
同	同	同	川上	大西新勇
同	一級	同年五月	笹谷	岩崎久馬藏
同	同	同	鹿野	塚本梅藏
同	同	同	岡安	芝原新平
同三十四年五月	二級	同四十年四月	福谷	中川逸藏
同	同	同	川上	渡邊源次郎
同	同	同	安川	三谷長吉
同	一級	同年五月	万願寺	木村實藏
同	同	同	神崎	田中周造
同	同	同	岡安	芝原卓一

同	三十七年五月	二級	同 四十三年四月
同	再	同	同
同		同	同
同		一級	同 年 五月
同	再	同	同
同		同	同
同	四十年五月	二級	大正二年 四月
同		同	同
同		同	同
同	四十年六月	一級	同 年 五月
同		同	同年 二月辭退
同	再	同	明治四十四年一月辭退
同	四十三年五月	二級	大正二年 四月

川上		野口萬藏
鹿野		塚本梅藏
久保		柿本幸太郎
石山		武藤團
笹谷		岩崎久馬藏
佐畑		柳原音吉
川上		三谷大江
福谷		角谷金藏
三森		藤原紋治
岡安		石橋忠吉
神崎		堀口彦左衛門
万願寺		木村實藏
川上		杉左近傳藏

同		同	同
同		同	同
同		一級	同年 五月
同		同	同
同		同	同
同		同	同
同		同	同
同		同	同
同		同	同
同		同	同
同		同	同
同	再	同	同
同		同	同
同		同	同
大正二年 五月再		二級	同 六年 四月
同		同	同
同		同	同
同		同	同
同		同	同
同		同	同
同	再	同	同
同		同	同
同		同	同
同		一級	同 五年六月辭退
同		同	同
同		同	同 六年 五月

久保		柿本幸太郎
鹿野		山崎勇藏
石山		石藏源藏
小車田		藤原龜藏
笹谷	勳八等	柿本清吉
川上		三谷大江
同		三谷銀藏
福谷		田中松藏
鹿野		山崎嘉藏
笹谷	勳八等	柿本清吉
岡安		芝原龜之輔
万願寺	勳八等	木村乾
小車田		安田元治郎

同	同	同	廣岡		木村重藏
同	同	同	笹谷	勳八等	渡邊岩藏
同	同	同	安川		三谷繁藏
同	同	同	岡安		古池安次郎
同六年五月	二級	同十年四月	福谷		中川仁藏
同	同	同	川上		橋本鐘太郎
同 再	同	同	笹谷	勳八等	柿本清吉
同	同	同	川上		山端熊藏
同	同	同	久保		柿本幸太郎
同 再	同	同	岡安		芝原龜之輔
同 再	一級	同年五月	廣岡		木村重藏
同	同	同	岡安		芝原伴三郎
同	同	同	福谷		見城兼藏

同	同	同	方廳寺		岸崎平吉
同	同	同	神崎		堀口恒忠
同	同	同	福谷		中川政吉
同十年五月 再	二級	同十四年四月	久保		柿本幸太郎
同	同	同	福谷	勳八等	左中又三郎
同	同	同	鹿野		中川榮太郎
同 再	同	同	岡安		芝原龜之輔
同	同	同	石山	勳七等	武藤又五郎
同	同	同	川上		三谷久藏
同	一級	同年五月	同		大谷一精
同	同	同	三森		藤原常藏
同	同	同	安川		盛下忠藏
同	同	同	小車田		筒井弘治郎

同	同	笹谷	動八等
同	同	万願寺	動八等
同	同	川上	
同	十四年五月	久保	
同	同	安川	
同	再	三森	
同	再	岡安	
同	再	川上	
同		鹿野	
同		万願寺	動八等
同		福谷	動八等
同		石山	動七等
同	再	小車田	

同	同	柿本清吉	
同	同	木村宇吉	
同	同	小谷常治郎	
同	級別廃止トナル	柿本兵藏	
同		盛下市兵衛	
同		藤原常藏	
同		芝原龜之輔	
同		三谷岩之助	
同		石倉金藏	
同		木村善造	
同		田中吉之丞	
同		武藤又五郎	
同		岩田又五郎	

同		笹谷	
		渡邊兵藏	

村是

本村是ノ制定ハ明治四十三年ニシテ、當時戸數ハ四百八十四戸、人口二千六百六十八人、之レガ生活ニ消費スル金額五萬八千九百貳拾圓、之レニ公課壹萬七千七百貳拾六圓七拾參錢五厘、合計七萬六千六百四拾六圓七拾參錢五厘ノ多額ニ達ス。而シテ本村ノ重ナル生産總額ハ七萬六千六百四拾七圓五拾五錢ニシテ、差引僅カニ八拾壹錢五厘ノ餘裕アル狀態ナリ。尙ホ詳細ニ調査スレバ幾多ノ收入アルベシト雖モ支出ニ於テモ亦遺漏アルベシ、之レヲ要スルニ收支漸ク相償フガ如キ經濟ハ最モ危險ナル狀態ナリトノ根據ニ因リ、福利增進ヲ先キトシ團体ノ基礎ヲ鞏固ニシ共同自治ノ實績ヲ擧グル爲メ左ノ項目ヲ鋭意實行ス。

一 植林、　二 蠶業、　三 勤儉貯蓄、　四 信用購買販賣組合、　五 教育、　六 基本財産

七　納枕整理、　八　稻麥種子ノ精選及肥料、　九　木　炭

以上ノ如ク制定アリト雖モ、時代ノ推移ニ伴ヒ急速度ニ進歩發達セル農村ノ現狀ニ適合セズ、故ニ我村特有ノ要素ヲ調査シ、長所ト欠陷ヲ明確ナラシメ自覺反省ヲ促シ以テ改善振興ヲ期ス、即チ昭和二年六月十四日村是調査員設置規程ヲ定メ左記ノ諸氏ヲ委員ニ選任シタリ。

岡安芝原卓一　川上小谷常治郎　石山武藤又五郎
廣岡松井榮藏　福谷見城兼藏　萬願寺岸崎信行
鹿野谷口林藏

以上委員ノ外左記ノ諸氏ヲ參與員トセリ。

佐分利村助役　盛下市兵衛　佐分利村技術員　五井喜馬
佐分利小學校長　田中時雄　同　西村重三郎

右委員會ニ於テ更訂シタル村是ハ左ノ如シ。

第一章　總論

明治四十三年三月村是制定以來著シキ進歩發達ヲ見タリト雖モ、尙幾多ノ欠陷ナキヲ保セズ。農村振興ノ要諦ハ教育ヲ基礎トシ農家ノ收入增加ヲ圖ツテ其ノ經濟狀態ノ改善ヲ期スルニアリ。宜シク現狀調査ニ鑑ミ經濟ノ安定ヲ計リ百年ノ長計ヲ企劃セザル可カラズ。元來本村ハ其ノ區域二里半ノ狹長ニ亘ルト雖モ、人情風俗等シク、生業亦殆ンド同一ニシテ山多々流レ清ク沃野開ケ、協力一致セバ必ズ富裕ノ村ヲ築キ得ベキヤ必セリ。時代ノ風潮ニ從ヒ物質偏重ニ傾キ、德操稍々頹レ互讓ノ道次第ニ失ハレ、教育上產業上其ノ改發ニ至難ノ點益々加ハラントス。吾人ハ此際昭和ノ維新ニ直面シ更始一新最モ意義アル本村教育ノ改善ヲ圖リ、舊弊ヲ矯メ時間尊重ノ念ヲ高メ浪費ヲ誡メ、米作養蠶木炭ハ古來最モ本村ニ適セル生業ナルニ鑑ミ、益々指導シ愈々奬勵シ、副業ヲ撰擇シテ勤勞ノ美風ヲ作リ、產業組合ヲ隆盛ナラシムル等以下數項ニ亘リ施設ヲ講ジ本村將來ノ大方針ヲ確立セントス。

第二章　教育

一、小學教育

大　綱

小學校令第一條ノ趣旨ニヨリ体育、德育、智育ノ普遍的發達ヲ圖リ以テ健全ナル國民ヲ養成スルト共ニ教育ノ地方化實際化ヲ期シ農業勤勞好愛ノ精神ヲ養成セントス。

細目

体育方面

一、兒童用机腰掛ノ改良ヲナシ身長ニ合致セシムルコト
二、体操器具ノ完備ヲ期スルコト
三、屋外運動場ノ擴張ト整正完備ヲナスコト
四、兒童身体ノ清潔ニ注意スルコト
五、學校ニ小兒科醫ヲ囑託スルコト
六、學校看護婦ヲ設置スルコト
七、學校衛生設備ヲ完成スルコト

德育方面

一、教育ニ關スル勅語戊申詔書精神作興ニ關スル勅語ノ御趣旨ヲ徹底セシムルコト
二、皇室中心ノ思想ヲ養成スルタメ毎朝御眞影ノ方向ニ對シ敬禮スルコト
三、校ノ内外ヲ問ハズ長上ヲ尊敬シ友愛ノ精神ヲ涵養スルコト
四、愛校ノ精神ヲ涵養スルタメ校舍ノ清潔校具ノ取扱ニハ一層注意スルコト

五、校舍内外ノ清潔整頓並ニ美的裝飾ヲナシ兒童ノ氣風ヲ光明快活ナラシム
六、服裝ノ整正ト言語ノ明確ニ留意スルコト

智育方面

一、自主的學習ヲ奬勵スルコト
二、兒童文庫ヲ設置スルコト
三、教則ニ示ス精神ニ基キ各教科ヲ徹底的ニ學習セシム
四、實驗實習ヲ重ンズルコト

地方化實際化ノ方面

一、農業科ヲ重視シ左記ノ設備ヲナスコト

イ、作業室
ロ、模範的實習地(水田、蔬菜園、果樹園、花卉園、樹苗園、温床、桑園、茶園)
ハ、養鷄舍
ニ、實習林
ホ、農具

二、女子ノ裁縫科並ニ家事科ヲ重視シ家底生活ト適合セシムルコト

三、農産品評會試食會等ヲ開催スルコト

四、健全ナル娯樂慰安ヲ供給シ更ニ文化的生活恩惠ヲ受ケシムル爲メ左ノ設備ヲナス

イ、ラヂオ

ロ、蓄音機

ハ、ピアノ

ニ、農民文庫

ホ、農業博物館

ヘ、娯樂室

ト、活動寫眞機

二、青年教育

大綱

青年ノ心身ヲ鍛錬シテ資質ノ向上ヲ圖リ、且公民的訓練ト職業的精神ノ陶冶ヲナシ、女子ニハ家政的ノ修養ヲ積マシメ以テ健全ナル國民、善良ナル村民ノ素地ヲ作ルニアリ。

綱目

一、農業補習學校ニ專任教員ヲ設置スルコト

二、農業補習學校生徒ニハ家庭實習地ヲ所持セシメ農作上ノ研究ヲ積マシムルコト

三、小學校卒業者ハ農業補習學校並ニ青年訓練所ニ必ズ出席セシムルコトニ努力スルコト

四、農業補習學校、青年訓練所、青年團ノ連絡ヲ保持シ、自奮自勵團体的訓練ノ修養ヲ積マシムルコト

五、處女會ノ指導ヲナスコト

六、青年處女ノ娯樂ニツキ適當ナル指導ヲナスコト

七、奬學資金規程ヲ設ケ人物養成ヲ圖ルコト

八、農業補習學校ト青年訓練所トハ合一ヲナシ小學校ヨリ分離シテ獨立校ヲ設ケ實際的教育ヲ施スコト

三、成人教育

大綱

健全ナル國家觀念ト公民的資性ヲ涵養シ、地方自治ニ貢献スルト共ニ、家業ニ精勵シテ圓滿ナル家庭

ト平和ナル優良村ヲ建設シ以テ人生ヲ幸福ニ生活セシムルニアリ。

細目

一、既設各種團体ノ健全ナル發達ヲ促シ相互連絡ヲ持シソノ振興ヲ圖ルコト

二、村報ヲ發行シ自治的觀念ヲ涵養スルコト

三、系統的講演會公民講座等ヲ開催スルコト

四、宗教家ノ活動ヲ促スコト

五、各區ニ簡易圖書館ヲ設置スルコト

六、社會教育設備ヲ漸次完成スルコト

七、鄕土藝術ヲ奬勵スルコト

八、自治研究會ヲ設ケ自治ノ發展ニ資スルコト

四、民風作興

民風ヲ作興シ生活ヲ改善シ隣保團結共存共榮ノ實ヲ擧ゲ村民相互ノ幸福ヲ增進セントス。

細目

一、節酒節煙ヲ勵行スルコト

二、時間尊重ノ念ヲ養成スルコト

三、社會道德ヲ重ンズルコト

四、質素儉約ノ風ヲ助長シ勤儉貯蓄ヲ奬勵スルコト

五、虛禮ヲ廢止スルコト

六、保險年金ニ加入スルノ觀念ヲ養成スルコト

七、報國感謝ノ念ヲ養成スルコト

八、神社寺院舊跡等ノ愛護保存ノ念ヲ養成スルコト

九、家法家憲ヲ制定シ家計簿ヲ作ルコト

十、住宅ノ改善ヲナシ生活ノ合理化ヲ圖ルコト

第三章　產業

一、普通農事

目的

向後十ヶ年ヲ期シ米ノ產額ヲ現狀ノ倍額ニ、畑ノ利用ヲ講ジ普通農產物ヲ三倍ニ增加セシム。

方法

一、村又ハ村農會ニ於テ普通農事技術員ヲ設置スルコト

二、品種ノ改良ヲ圖ルコト

三、畜産ヲ增殖シ綠肥ノ栽培、柴草ノ採取ニ依リ自給肥料ヲ奬勵スルコト

四、改良農具ヲ普及スルコト

五、農事實行組合ヲ督勵シテ共同精神ヲ涵養シ作業能率ヲ增進スルコト

六、治水ヲ完備シ溜池ヲ作リ干害ニ備フルコト

二、養蠶

目的

向後十ヶ年ヲ期シ養蠶戸數ヲ三百戸ニ、繭年產額三萬貫ニ增加セシム。

方法

一、村又ハ養蠶組合ニ於テ技術員ヲ設置スルコト

二、品種ノ統一、桑園ノ改良、飼育方法ノ研究ヲ講ズルコト

三、生產費ヲ減少シ養蠶經濟ヲ合理的ナラシムルコト

三、木炭

目的

薪炭林ノ利用ヲ講ジ木炭ノ產額ヲ維持スルコト。

方法

一、杉檜ノ適地ヲ除キ薪炭材ノ撫育ニ努ムルコト

二、製炭ノ步止リ、品質改良ヲ講究スルコト

三、炭俵及繩ノ自給自足ヲ圖ルコト

四、副業

目的

本村ニ適合セル副業中左ノ五項ヲ擇ビ農閑期ヲ利用シテ經濟ヲ潤澤ナラシム。

一、炭俵及繩ノ製造

一、養鷄

一、割箸

一、柿ノ栽培及加工

一、淡水産ノ增殖

方法

一、副業ノ未熟期間ハ講習講話會ヲ開クコト

二、副業製産品ノ販賣方法ヲ特ニ講究スルコト

三、村又ハ村農會ニ於テ種苗及材料ノ共同購入ヲ斡旋スルコト

五、交通

目的

産業ノ發達ニ資スル爲メ交通ノ完全ヲ期ス。

方法

一、道路橋梁ヲ完全ニシ道路保護組合ヲ主体トシテ村民ニ道路愛護ノ念ヲ深カラシムルコト

二、電信電話ノ施設ヲ促進スルコト

第四章　經濟

一、産業組合

目的

農業經濟ヲ健全ナラシムル爲メ産業組合ヲ發達セシム。

方法

一、全村擧ゲテ組合員ニ加入セシムルコト

二、生産品ハ總テ組合ニ於テ共同販賣ヲナシ必需品ハ必ラズ共同購入ノ方法ヲ講ズルコト

三、農業倉庫ヲ建設スルコト

四、組合員ニハ經濟ノ發達ニ必要ナル資金ヲ貸付スルコト

五、備荒貯蓄ノ精神ヲ高調スルコト

二、基本財産ノ造成

目的

一、五十年後ニ於テ村ノ經費ハ税收入ヲ求メズシテ支辨シ得ラルヽ樣基本財産ヲ增殖スルコト。

二、私有林ノ植樹ト産業組合ノ發達ニ依リ個人經濟ヲ豐富ナラシメ村外借入金ヲ償還シ、村外所有者ノ土地ヲ買戻スコト

方法

一、昭和七年度マデ公債ノ償還義務アリ、昭和八年度ニ於テ村費ヨリ元利復利計算八千圓ヲ基本財産ニ戻入ヲナシ、昭和九年度ヨリ蓄積ヲ再興シ昭和五十五年ニハ五拾萬圓ニ達セシム

二、私有林ノ伐採跡地及ヒ無立木地ニ植樹ヲ勵行スルコト

三、現今村外借入金見込貳拾萬圓アリ、産業ノ發達ト零細ノ貯蓄トニ據リ協力一致之レガ辨濟ヲ爲ス

四、村外所有者ノ耕地八町二反歩山林約六十町歩ハ自作農ヲ創設シテ全部之レヲ買戻スコト

第五章　衛生及警備

目的

一、衛生思想ヲ向上セシムルコト。

一、災害ヲ未然ニ防遏セシムルコト。

方法

一、村醫及公設産婆ヲ常設スルコト

二、隔離病舍ヲ完備スルコト

三、流レ水ノ飲用ヲ避ケ寄生虫驅除ニ努ムルコト

四、炊事場及便所ノ改良ヲ實行スルコト

五、消防組ノ犧牲的訓練ニ努メ消防器具ノ完備ヲ計ルト共ニ各區ニ貯水池ヲ設クルコト

六、目下罹災救助資金四千〇五拾七圓ヲ有ス爾後毎年貳百圓以上ヲ蓄積シ萬一ノ場合罹災者ノ救助費ニ充當ス

右昭和二年十月一日制定セリ。

神社及寺院

神社

本村ノ神社ニハ由緒深カルベキ莊嚴ナル古社アルニ、其ノ創立ノ年次若クハ由緒ノ詳カナラザルアリ遺憾尠シトセズ。是ヲ史跡ニ考ヘ、口碑ニ尋ネ、以テ欠ケタルヲ補フ。而シテ明治四十年ノ頃神社廢合ニ關スル訓令ヲ發セラレ、廢合ノ標準ヲ定メラル。卽チ神社ニシテ維持方法確立セザルガ爲メ社殿

荒廢シ神社ノ尊嚴ヲ永遠ニ維持シ得ザルモノハ廢合ヲ行ハシムルノ主旨ナリ。茲ニ於テ村内ノ維持基金ナク氏子少數ナル各社ハ數回ノ協議ヲ凝ラシ同四十四年ノ頃合祀ノ許可ヲ得テ現在ノ如ク整理ヲ行フニ至ル。

廢合以前ノ神社數					現在ノ神社數及社格				
村社	無格社	境内末社	合計		郷社	村社	無格社	末社	計
一三	七	八	二八		一	五	三	八	一七

各神社ノ祭神由緒等左ノ如シ。

一、伊射奈伎神社ハ村内福谷小字宮前ニ鎮座セル鄕社ナリ。祭神ハ伊弉諾尊ニシテ古社ナルヲ想像セシム。本社創立ノ年時詳カナラズ由緒ヲ閲スルニ左ノ如ク云ヘリ。

元龜(元)年間社頭燒失故ニ由來不詳ト雖モ古老ノ傳ニ延喜式内大飯郡伊射奈伎神社是レナリト云フ。

若狹國神明帳ニ大飯郡正五位伊射奈伎明神トアリ、正保二年小濱藩主酒井忠勝公祈願トアリテ神殿ヲ修補セラル。明治四年十一月小濱縣ニ於テ鄕社ニ列セラレ、同五年敦賀縣ニ於テ社格廢止ニ依リ降格ス。中古以來天神社ト稱セシ處伊射奈伎神社ト改稱ノ義出願、明治十六年三月二十二日福井縣ニ於テ許可、大正元年八月二十六日神饌幣帛料供進神社ニ指定。大正十四年四月二十五日附願昇格、大正十五年二月十二日内務省一四井社第八號ヲ以テ鄕社ニ列セラル。

境内末社　八幡神社　祭神　應神天皇
　　稻荷神社　祭神　倉稻魂命
　　山神社　祭神　大山祇神

本社ニ關スル古史並ニ史跡口碑ヲ調査スルニ若狹神明帳（又神階記ト云フ）ニ正五位伊射奈伎明神ト記セリ。若狹郡縣志（巻四）ニ『福谷天神社在福谷村之内上村爲産神九月十五日祭日而有神事能正保二年酒井忠勝公祈願之事而修補神殿』ト又若狹志ニハ『天神祠社福谷村佐分利鄕十ケ村共祭典華表礎石在石山村稱外華表路正保二年我少將忠勝公修補神嗣』ト記ス。若狹名跡志ナルモノヲ見ルニ『天神の社と福谷村の上條にあり鳥居の礎石石山村にあり里人是を外の華表路と稱す正保二年酒井少將忠勝公祈願の事あるに仍て神殿を修補し給ふ例祭は九月十六日能あり鹿野、小車田、佐畑、石山、川關、安井、久保、三森川上以上十ケ村立會』ト記セリ。

以上ノ文書ハ二百五六十年以後ノモノナル爲メ一層舊記ヲ求ムルニ、京都教王護國寺所藏ニ係ル百合文書中ノ文永二年若狹惣田數帳ニ本社所領ニ關シ左ノ如ク記セリ。曰ク

福谷宮七反ト又タ同神社所藏ノ應永十一年ノ銘アル鰐口ニハ天滿天神ト記セルアリ、要スルニ福谷宮又ハ單ニ天神社ト稱シタルヨリ祭神ニ分別ナキ里人ノ天滿天神ト信ジタル時代モアリテ、延喜式ニ揭ゲラレタル伊射奈木明神タルニ疑惑ヲ生ズルニ至リタルナランカ本社ニハ往昔宮寺ナルモノアリ、善樂寺ト稱セシコトハ現ニ同神社所藏ノ古佛像及經卷ノ奥書ニ徵シテ炳焉ナリ同經卷ハ僧周文當寺ニ於テ書寫シタル一切藏經中ノ部分ナリ。傳ヘ言フ半部ハ丹波何鹿郡君王山ニ分ツト而シテ奥書ノ文ニ干時應永十三年丙戌五月二十二日於若州大飯郡佐分郷善樂寺書寫ノ大願主周文ト記セリ。當寺ノ廢頽セル年時詳カナラザルモ別當ノ寺院アリタルコトハ疑ヒナシ。口碑ニ依レバ往古佐分利郷十七ケ村氏神ニシテ一鳥居三基アリ。一ノ鳥居ハ野尻ニ、二ノ鳥居ハ石山ニ、三ノ鳥居ハ社前ニアリキト。石山ノ分ハ國志ニ記スルガ如ク礎石現存シ、野尻ノ分ハ耕地中ニ埋レ礎石存ズト云フ。他ニモ福谷地内神社ヲ去ル凡ソ五町余ノ耕田地中ニ鳥居ノ礎石存ズル由モ言傳ヘリ。

以上ノ古記文書口碑等ニ依ツテ考察スレバ極メテ由緒深キ神社ナリシヲ證スルニ足ル。本社ノ社格ヲ昇シテ郷社ニ列セラルヽコト誠ニ由緣アリト云フベシ。

明治四十四年三月十五日許可ヲ得テ本神社ニ合祀セラレタル神社名竝ニ祭神左ノ如シ。

一、元久保字南村中鎭座村社熊野神社、祭神伊弉冊尊、創立　不詳、由緒又不詳ナリ。若狹郡縣誌ニ『熊野權現社在二久保村々中一有二九月八日祭禮一』トアリ。若狹名跡志ニモ『熊野權現ハ久保村ノ氏神ナリ祭日ハ九月八日翁』ト記スモノ即チ此ノ社ナリ。

一、元安川字東奥ノ谷鎭座村社八幡神社、祭神應神天皇、創立年代及由緒共ニ不詳ナリ。

一、元安川字下川關川原鎭座村社八幡神社、祭神應神天皇、創立年代及由緒共ニ不詳ナリ。若狹郡縣誌ニ『若宮八幡社在二川關村一爲二產神一九月八日有二祭禮一』ト記シ若狹名跡志ニハ『若宮八幡宮ハ川關村ノ氏神ナリ例祭ハ九月九日湯立』トアルモノハ本社ヲ指スナリ。

一、元福谷字君前鎭座無格社熊野神社、祭神伊弉冊尊、創立年代及由緒不詳ナリ。

一、元石山字宮前鎭座村社熊野神社、祭神伊弉冊尊、創立年代及由緒不詳ナリ。若狹郡縣志ニ『熊野權現社在ニ石山村々中一九月八日有ニ祭禮ニ』ト記シ同名跡志ニモ『熊野權現ハ石山村ノ村中ニアリ例祭ハ九月八日翁』ト記セルハ即チ本社ナリ。當社境内ニ往昔極樂寺ト稱スル寺院アリ。領地モ文永二年ノ若狹惣田數帳ニ依レバ極樂寺一丁二反百八十歩内佐分郷五反能登浦一反耳西郷六反百八十歩ト記セリ。且ツ若狹郡縣志ニ二十一番正觀音佐分利石山淮丹波國穴太寺ト記セルモ當寺ヲ指稱シタル者、其ノ廢滅年時詳カナラザルモ今ヨリ二百五六十年ヲ出デズ、近時マデ極メテ微々タル觀音ノ草堂ノミ存ジ居リシモ文化ノ變遷ニ伴ヒ二年前改築ヲ行ヒ石山區ノ公會堂ヲ兼ネ大ナル公堂トシテ觀音ヲ安置シ居レリ神社ト關聯スル事項ナリシテ以テ併セ錄ス。

一、元佐畑字大谷鎭座村社八幡神社、　大山祇命、創立ハ天正十八年二月十日、由緒詳カナルモノナシ。本社名ヲ八幡神社ト稱シ大山祇命ヲ祭神トシタルハ例外ナリ。

一、元小車田字宮前鎭座村社姫宮神社、祭神三女神（三女神トハ田心姫命端津姫命市杵島命ノ三柱カ）創立年代及由緒共ニ不詳ナリ。

一、元小車田字西谷鎭座無格社八幡神社、祭神應神天皇、創立年代及由緒共ニ不詳。

以上村社六社無格社二社ハ明治四十四年同時ニ伊射奈伎神社ニ合祀セラレ各氏子ハ本社ニ直屬シ神社ノ設備面目ヲ改メタリ。

二、新鞍神社ハ村内川上字神水ニ鎭座セル村社ナリ。祭神ハ大國主命ニシテ古社ナリ。創立年代由緒共ニ不詳、村ヨリ神饌幣帛料供進ノ指定神社ナリ。

境内末社　稻荷神社　祭神　豐受姫命

本社ニ關スル古史等ヲ調査スルニ若狹神階記ニ『正五位賊椋明神』ト記シ若狹郡縣誌ニハ『賊椋明神社在ニ川上村一爲ニ產神一未レ知レ祭ニ何神一正月十三日八月晦日九月七日有レ祭』ト記シ若狹志ニ『賊椋ノ神祠在ニ川上村一本國神階記正五位俱祭神不詳』ト記シ、伴信友翁ノ神社私考ニ郡縣志ヲ引テ其ノ次ニ『今川上村ノ東ノ山中ニあたくら谷トイフガアルソノ山口ニ賊椋大明神社アリ是ナリ。里人ハ或ハ棟梁大明神トモイヘリ、按フニソハ　フタクラヲ盗椋トモ書イテ字音ニモ呼ビタルヲ　字ノ好カラヌヲ惡ミテサカシラニ棟梁ノ字ニカヘタルモノナルベシ』ト記ルサル、若狹名跡志ニモ賊椋（あたくら）大明神ハ何ノ神ヲ祭ル事ヲ知ラズ川上村ノ產神ナリ例祭ハ正月十三日八月晦日九月七日神酒ヲ献ズト見エタリ。口碑ニ依レバ往古人身御供ヲ献ジタル社ナリシモ、イツノ頃ヨリカ正月ノ祭禮ニ夜半人靜レルコロホイ酒ヲ献ズルコトニ變ジタルナリト傳フ。明治ノ初メ神社改メアリ、祭神ノ分明シタルハ此ノ時ナルカ。而シテ社名ノ新鞍ナル文字ト改メタルモ此ノ以後ノコトナルヘシ。

明治四十四年三月八日許可ヲ得テ本神社ニ合祀シタル神社名竝ニ祭神左ノ如シ。

一、元川上字野瀬鎮座無格社稲荷神社、祭神豐受姫命、創立年代及由緒不詳ナリ。本社ノ祭神ハ倉稲魂命ニアラサルカ審カナラズ。

一、元川上字向曲里鎮座無格社愛宕神社、祭神火之夜藝速男神、創立年代及由緒不詳。

一、元川上字山神鎮座無格社山神社、祭神大山祇神、創立年代及由緒不詳。

一、元三森字上畦高鎮座村社八幡神社、祭神應神天皇、創立年代及由緒不詳ナリ。若狹郡縣志ニ『若宮八幡社在二三森村一爲二產神一九月八日有二祭禮一』ト記シ若狹名跡志ニハ『若宮八幡宮ハ三森村ノ氏神ナリ祭日ハ九月八日湯立』トアリ。

以上村社一、無格社三ハ同時ニ本社ニ合祀セラレ從テ設備モ昔日ノ比ニ非ルニ至ル。

三、依居神社ハ村内岡安字西谷ニ鎮座セル村社ナリ。祭神ハ應神天皇ニシテ創立ハ延長元年癸未三月二日（紀元一、五八三年）勸請ノ古社ナリ。由緒ニハ文應元年庚申八月（紀元一、九二〇年）本社竝ニ末社知比佐古神社ノ再造ヲ行ヒ大永元年ニ改造シ、更ラニ慶應二年九月二十八日改築、祭日ハ三月二日九月八日同十七日ニシテ岡安、廣岡、笹谷三ケ村ノ氏神ナリ。而シテ神饌幣帛料供進ノ指定神社トス。

境内末社　知比佐古神社　祭神　天津兒屋根命

右社ノ創立ハ延長元年癸未勸請　祭日本社ト同

稲荷神社　祭神　倉稲魂命

右社ノ創立ハ文應元年五月二日祭日毎年二月午ノ日

山神社　祭神　大山祇尊

右社ノ創立ハ承應元年十一月三日勸請祭日ハ毎年一月三日十一月三日

本社ニ關スル史傳口碑ヲ調査スルニ若狹國神階記ニ『大飯郡從三位依居明神土人ノ產神而三月二日祭レ之又九月八日有二神事能一』ト記シ若狹郡縣誌ニハ『依居神嗣在二岡安村一祭神不詳』ト　同名跡志ニモ『依居明神ハ岡安村ノ產神ナリ』若狹國若狹志ニハ『依居神嗣在二岡安村一未レ知レ爲二何神一』ト記セリ。神階記ニ曰ク『大飯郡從三位依居明神ト云フ例祭ハ三月二日神酒御供ヲ献ス九月十七日能アリ、廣岡笹谷立合』ト載セタリ。猶末社知比佐古神社ニ就テハ若狹國郡縣誌ニ『若狹國神階記々載ノ大飯郡正五位少子（ちひさこ）明神未レ知二其處一』ト記シタルモ伴信友翁ノ神社私考ニ『正五位少子明神今此社詳カナラズ或說ニ依居明神ノ相殿ニ座ストイヘリ此說正シカラズ社ノ衰ヘタマヘルニヨリテシバシトテ相殿ニモノシ置キ奉レルナルベシ云々』ト述ベタリ。由緒深キ神ノ今ハ末社ニ鎮リマシマスノカ古老ノ口碑ニ大永元年時ノ領主（武田元信カ）家臣宮本權頭ヲ本社ノ禰宜ニ任シテ奉仕セシメ累代之レニ仕ヘリ。德川四代

將軍ノ頃權頭ノ一家死絶シテ遂ニ氏子歳順ニ一年交代ニ祠宜ヲ奉仕スト傳ヘリ。

以上史傳ニヨリテ由緒深キ古社ナルヲ思ハシム。本社ノ寶物ニ鬼面一貌一個、佛立像二躰、文應元年ノ筆者不詳釋迦牟尻佛畫像(板畫)一ヲ所藏ス。

四、八幡神社ハ村内鹿野字宮ノ下鎮座ノ村社ニシテ、祭神ハ應神天皇ナリ。創立ハ文龜二年壬戌ナルモ由緒詳カナラズ。又若狹郡縣誌ニ『八幡神社在二鹿野村一八月十五日有二祭禮一』ト記シ若狹名跡志ニハ『八幡ハ鹿野村ノ産神ナリ祭日ハ八月十五日湯立』ト記載セリ。創建ノ年時格別遠カラズ。大正十四年境内ノ模樣替ヲ行ヒ本殿ノ改築ヲナス等面目大ニ改マリタリ。然レドモ境内ノ古木ヲ伐採シタルヲ爲メ幾分風致ヲ損ジタルカノ感アリ。

五、熊野神社ハ村内神崎字堂ノ前鎮座ノ村社ナリ。祭神ハ伊弉冊尊、事解男命、速玉男命ニシテ創立ハ弘治三丁巳年ノ勸請、寛文三年ニ再建ヲ行ヒ祭日ハ毎年三月八日、九月八日ナリ。

境内末社　畑中明神　祭神　大國主命

創立ハ寛政三年ノ勸請　祭日ハ本社ニ同ジ

若狹郡縣志ニ『熊野權現社在二神崎村一爲二産神一九月八日有二祭禮一』トノミ記シ同名跡志ニモ『熊野權現ハ神崎村ノ産神ナリ例祭ハ九月八日翁』ト記ス、即チ本社ヲ指スナリ。

六、熊野神社ハ本村萬願寺字宮山ニ鎮座セル村社ニシテ、祭神ハ神崎區ノ神社ト等シク伊弉冊尊、事解男命、速玉男命ノ三神ナリ。創立年時及由緒等不明ナルモ往昔滿願寺境内ノ一部ニ存在スルヨリ察スレバ同寺ノ鎮守タリシヤモ知ルベカラズ。若シ然レバ一千年ニ近キ古社ナリ。若狹郡縣志ニ『熊野權現社在二萬願寺村々中一爲二産神一三月三日九月九日有二祭禮一』ト記シ同名跡志ニモ『熊野權現ノ社ハ林中ニアリ萬願寺村ノ産神ナリ祭日ハ三月三日九月九日御酒御供ヲ献ズ』トノミ記セリ。

七、寶尾神社ハ村内川上字寶尾トテ本郡青郷村及高濱町ニ境セル山上ニ鎮座セル無格社ナリ。祭神ハ神産巣日神ニシテ創立年代及由緒共ニ詳カナラズ。若狹郡縣志ニハ『寶尾權現社在二川上村寶尾一九月七日有二祭禮一』ト記シ同名跡志ニモ『寶尾權現ハ寶尾村ニアリ祭日ハ九月七日』トノミ記セリ。本社ニハ古佛像多數ヲ保存セリ。傳説ニ依レバ往昔高濱町地籍子生ノ山嶺ニ摩野山ト稱シ多數ノ寺院アリ寶尾山同所ノ山嶺ニ接續スル關係上二三ノ寺モアリ、其ノ寺院跡ヨリ五輪塔ヲ堀出スコトモアリト云フ。寺院ニ關スル緣起書ヲ保有シ居ルモ後人ノ成リタル節多ク、立證スル處少ナキヲ以テ强テ之レヲ引用スルヲ差控ヘタリ。然レドモ京都府加佐郡志樂村鹿原金剛院ハ有名ナル眞言ノ古刹ニシテ多數ノ國寶ヲ有ス。同院ノ不動明王ハ元ト此ノ寶尾ニアリシモノナルモ祠宇荒廢シ祭祀スル者ナク埋レ玉ヒ

シヲ某皇族ノ御眼病平癒御祈禱ノ折リ、或夜ノ夢告ニ寶尾ノ不動明王ヲ持チ歸リ祈請セバ全癒アルベシトノ事ニ同院ニ移シタル由ヲ金剛院縁起ノ一部ニ記載セラレアリ。思フニ極メテ粗造ノ小古佛像ト照ラシ合セテ全ク佛寺ノ鎮守ナリシカト想像セラル。殊ニ神域ノ神さぶる模樣ナド確ニ古社ト見ユ。

八、熊野神社ハ村内笹谷字宮ノ前ニ鎮座セル無格社ナリ。祭神ハ伊弉冊尊、事解男命、速玉男命ノ三神ナリ。創立ハ文明八丙申年九月十日祭日ハ毎年三月十日、九月十日ナリ。外ニ由緒ヲ記セズ。若狭郡縣志ニ『熊野權現社在ニ篠谷村一爲ニ產神一九月十日有ニ祭禮一』同名跡志ニハ『熊野權現ハ笹谷村ノ產神ナリ祭日ハ九月十日翁』トアリ。

九、八幡神社ハ村内廣岡字宮ノ奥ニ鎮座セル無格社ナリ。祭神ハ應神天皇ニシテ創立ハ應永三年八月十五日、祭日ハ毎年八月十五日ナリ。伴信友翁ノ神社私考ニ廣岡村ニモ依居大明神ノ社アリテ產神トナス、祭日ハ岡安村ナルト同ジ、岡安村ヨリ移シ祭レルナルベシト記セルイツノ頃ヨリカ今ノ社名ニ改メタルヤ知リ難シ。恐ラクハ祭神ノ應神天皇ナル爲メ改名シタルモノナルカ。

以上ハ本村ノ現在神社ナリ。此ノ以外ニ往昔神社ノ存在シ頽廢シタルモノアルカハ詳カナラズ。

寺院

本村寺院ノ創立年時ヤ開山ノ明カナラザルモノアリ。寺院明細帳中ニ創立年時等ヲ記スルモノアルモ間々錯誤アルヲ覺フ。現存各寺ニ於ケル記錄モ又タ完全ナリト云フヲ得ズ。現今ノ宗派ニ屬シテ以後ノモノハ稍明瞭ナルヲ得レドモ、創立當時ノ開山等不詳ノ爲メ吾ガ村ニ於ケル宗教傳播ノ狀ヲ知ルニ由ナシ。殊ニ退轉シタル寺院其ノ數尠ナカラズ。福谷ノ善樂寺、石山ノ極樂寺、瑞岸寺、鹿野ノ鹿野寺、岡安ノ福壽庵、萬願寺ノ萬願寺、松壑院以上七ケ寺ノ外尚ホ名ヲモ存ゼザル寺院ノアリタルコトハ疑フ可カラズ。現在寺院ノ由緒ノ一部ニ依テ宗教傳播ノ狀ヲ察スレバ、天武天皇ノ御代法相宗釋導藏ト稱スル川上清源寺、歡喜寺ノ両寺アルヨリ考フレバ古ク佛教ノ吾ガ村ニ傳來シタルヲ知ル。法相宗ハ孝德天皇ノ御代道昭入唐シテ歸朝ノ後チ本宗ヲ弘メタリ。其全盛期既ニ本村ニ入リタルモノカ。神崎藥師堂ノ縁起ニ天平四年ノ創草ナリ寺領三十石七堂伽藍アリ云々ト。果シテ記ノ如クナラバ國分寺創設ノ詔勅以前ノ堂塔ナリ。本時代ハ法相若クハ三論又ハ華嚴ノ全盛時ナルヲ以テ、此等ノ教義ヲ傳ヘタルモノナルカ。惜ムラクハ立證スベキ遺物又ハ文書ノ存在ナキコト此レナリ。

其ノ他滿願寺、淨土寺、西方寺、廢寺トナリタル極樂寺、瑞岸寺、善樂寺、鹿野寺、福壽庵、松壑院ハ何

レモ平安朝以降ノ創建ナルベク、隨テ其ノ宗派モ天台又ハ眞言ノ両宗ナリ。其ノ中特ニ著名ナルヲ滿願寺トス。同寺ノ創建ハ延暦二十四乙酉年ニシテ、桓武天皇ノ勅願ニ依テ創立セラレタル旨ヲ記セリ當寺ノ宗派ニ就テ眞言ナリトスルモノト天台ナリトスルモノトノ両説アリ。先ヅ同寺ノ衰退後再興セル意足寺縁起ノ一節ニ大飯郡萬願寺村有ニ天台傳敎開闢觀音之道場一亦號ニ萬願寺一トアリ。此レニ依テ天台宗ナリト唱ヘタリ。然ルニ同寺ノ末院ニ松壑院ト稱スル眞言ノ寺院アリ。今ヨリ百七八十年以前ニハ尙ホ存在シ、若狹名跡志ニハ眞言ト記載セリ。而シテ前年編纂セラレタル福井縣史ノ記スル處ニ依レバ『遠敷郡今富村ニ妙樂寺アリ延暦十六年空海ノ創立ト傳ヘ松永村明通寺、三方郡耳村園林寺、大飯郡佐分利村滿願寺、加斗村飯盛寺並ニ眞言ノ古刹ナリ』ト記セリ、其ノ根據詳カナラズ。萬願寺ノ創立ハ延暦二十四年ト稱ス。然レバ最澄唐ヨリ歸朝シ圓敎弘講ノ始メナリ。故ニ天台ト見ルヲ相當トス。空海ハ二十三年入唐後平城天皇ノ大同元年ニ歸朝シ密敎ノ弘通ニ努メ、眞言宗ヲ開クヲ以テ最澄ニ後ルヽコト一年ナリ。故ニ何レノ宗派ナリヤハ容易ニ斷ジ難シ。然レドモ天台、眞言何レナリトスルモ、開宗ノ初期ニ此ノ地方ニ傳敎セラレタルハ明カナリ。淨土寺、西方寺ハ天台、極樂寺、瑞岸寺、松壑院ハ眞言、善樂寺、福壽庵等ハ宗派確カナラズ、鹿野寺モ不明ナリ。兎モ角平安朝興起ノ佛敎ハ駸々トシテ傳道セラレタリ。從テ三論、法相、華嚴ノ如キ宗門ハ漸次ニ衰運ニ傾キ、天台、眞言ノ両宗ハ殆ンド旭日昇天ノ勢ヲ以テ全村ヲ風靡シタルヤヲ感ゼシム。然ルニ鎌倉時代ニ入リ淨土、禪眞宗、日蓮等ノ諸宗勃興シ、高僧學者ノ輩出シテ宣傳弘通ニ努ムルニ反シ、天台ノ如キ諸種ノ弊ヲ生ジ民心離反シテ自然ニ衰退ヲ來シタルモノカ。其ノ寺院ノ振ハザル狀ヲ述ルニ淨土寺縁起ノ一部ニ叙シテ曰ク『應永ノ頃ヨリ天台宗ノ廢寺ニ等シキ草堂アリシヲ小濱妙光寺四世ノ住僧ニシテ蓮如上人ノ直弟子慶道法眼文明九年來テ寺坊ヲ再興シ眞宗ニ改轉シ淨土ノ敎義ヲ宣布ス』ト云ヘルヲ見ルモ、天台眞言ノ稍衰ヘタル狀ヲ想像セシム。西方寺ハ同ジク天台ナリシヲ天正ノ初メ(年次不明)父子海元寺二世大用永順和尙中興シテ禪曹洞ニ長福寺ハ父子海元寺三世周嚴和尙天正十二年ニ創立ス。歡喜寺ハ慶長三年(月日不詳)臨濟ニ清源寺ハ元和四年同臨濟ニ改轉ス。實相寺ハ福壽庵ヲ再興シ禪曹洞ニ轉ジタルモノナルカ本尊ノ背後ノ記ニ永祿四癸亥年大宮印覺法師ノ作ナル文字アリ、而シテ創立ノ年時ヲ見ルニ寛永二丑年四月十五日海元寺四世通山玄達和尙ノ開創ナリ。本尊ノ年時ニ遲ルヽコト六十三年ナリ、福壽庵トノ關係明カナリ難シ。佛燈寺ハ元ト鹿野寺ト稱シ其ノ以前ニハ慶松寺ト稱シタル寺號ニシテ寛永十五年海元寺五世月岑祖澤和尙ノ創立。意足寺ハ遠敷郡太良庄ニ在リシ曹洞宗ナリシガ寛文五年萬願寺ヘ移シ荒廢セル同寺ヲ繼承シタル者ナルコトハ由緒ニ顯ハレタリ。

現在寺院ノ宗派中最モ古キハ眞宗ニシテ今ヲ去ル(昭和元年)四百四十九年、曹洞宗三百五十四五年、臨

濟宗ハ三百二十八年ナリトス。要スルニ新興佛教ノ侵入ハ各宗共ニ開宗ヨリ頗ル遲レタルヲ見ル。而シテ曹洞ノ教義ハ時代民心ニ適シ且ツ海元寺數世ノ住僧ガ奮闘努力ニ依テ此ノ最盛ヲ致スニ至レリ。尙ホ村内ニ日蓮宗派二十四戸アリ。元祿以前ニハ長福寺檀越ナリシモ離檀シ高濱妙光寺ニ歸シタル由古老ノ傳フル處ナルモ文書ノ證スベキモノナシ。

明治二十年ノ頃ヨリ神道天理教ノ信者ヲ生ジ、同二十六七年ノ頃ニハ各地ニ相當信者ヲ得タリ。此レニ依テ三森區内字下畦高ノ地ニ教會所ヲ建設シ、天理教北陸支教會ト稱シタリ。同教ノ信者ハ村内ヨリモ寧ロ遠隔ノ地ニアリテ加越方面ヨリ來集スルアリ、一時隆盛ナリシモ幾ク程モナク廢滅シ同教信者ハ極メテ少數殘存ス。

以上宗教傳播ノ狀ヲ略叙シタルモ現在寺院ノ由緒及教宗派等細記スレバ即チ左ノ如シ。

一、雜華山歡喜寺ハ川上字野瀨ニ在ル臨濟宗相國寺派末ナリ。本尊ハ聖觀世音菩薩ニシテ由緒ニ依レバ人皇四十代文武天皇ノ御宇法相宗洞濟寺釋導藏ノ開基ナリシガ、爾後星霜ヲ經テ荒廢ニ歸セリ。然ルニ慶長三年ニ至リ久安和尙之ヲ再興シ禪臨濟ニ改宗セリ。現今ノ堂宇ハ建築後六十年ニ充タズト云フ。

二、曹渓山清源寺ハ同區内字登龍ニ在ル禪臨濟宗相國寺派末ナリ。本尊ハ釋迦牟尼佛、當寺ノ由緒ハ人皇四十代文武天皇ノ御宇法相眞福寺釋導藏ノ開基ナリ。然ルニ其ノ後荒廢ニ歸セシヲ元和四年貴山和尙再興シ禪臨濟ニ改宗セリト。若狹名跡志ニ清源庵歡喜寺ハ共ニ臨濟宗ニシテ京都相國寺末ナリト記セリ。清源寺ヲ清源庵ト稱シタルハ明治以前ニ屬ス。

三、德松山長福寺ハ福谷字宮前ニ在ル禪曹洞宗ニシテ永平寺末ナリ。中山ハ本郷村父子海元寺ニ屬ス本尊ハ馬頭觀世音菩薩、本寺ノ創立ハ天正十二年三月海元寺三世周嚴和尙ノ開闢ナリ。寺格法地ニ進ミタルハ明治八年忍龍和尙ノ時ニ屬ス。若狹名跡志ニハ長福寺ハ曹洞禪宗ニシテ父子村海元寺末ナリト記セリ。

四、金光山淨土寺ハ石山字杉谷ニ在ル眞宗大谷派末ナリ。本尊ハ阿彌陀如來、當寺ノ由緒ニ依レバ創建ノ年時竝ニ開基ノ名詳カナラズ。往古ハ石山字谷安(現今ノ字民安カ)ト稱スル地ニアリシ天台宗ナリ。應永ノ頃ヨリ廢寺ニ等シキ草堂アリシヲ小濱(神田)妙光寺四世ノ住僧ニシテ蓮如上人ノ直弟子慶道法眼文明九年ニ來テ寺坊ヲ再興シ眞宗ニ改轉シ淨土ノ教義ヲ宣布スト云フ天文ノ末年ヨリ武田義統ノ重臣石山ノ城主武藤上藏介ヨリ々々參詣アリ、奥方ノ菩提所ト定メ聞法セラル。其ノ臣杉谷、柿本、鳴瀨團等ノ人々歸依ノ檀那トナリ、父子、鹿野、石山、久保等ノ門徒ト協力シテ法運稍盛ナリ云云當所ノ代官小笠與十郎當寺ニ歸依シ天正九年七月十七日其ノ父君逝去シテ圓明院覺道智誓ト法號ス、同君

五、金剛山西方寺ハ石山藤ノ木ニ在ル禪曹洞宗永平寺派末ナリ。中山ハ本郷村父子海元寺ニ屬ス。本尊ハ無量壽如來、當寺モ往古ハ天台宗ニシテ天正ノ初メ（年時不明）海元寺二世大用永順和尚中興シテノ爲メ天正十六年二月十六日山一ケ所ヲ寄進アリ、又同十七年十一月二十五日母堂逝去シテ智光院顯彰妙誓尼ト法號ス。母ノ爲メニ同二十年九月十三日石山村内ヨリ納入スル山手米ノ内壹斗宛寄進アリ（寄進狀二通共現存）明暦二年當寺第十世敎雲法師現地ニ堂宇ヲ再建ス。其ノ後寶暦七年丁丑第十三世慶祥法師重ネテ再建且ツ從來西本願寺派ナリシモ中本寺妙光寺ト紛紜ヲ生ジ終ニ安永二年癸巳二月離末ノ上東本願寺派即チ現今ノ大谷派ニ轉ゼリ。第十七世沒後明治十三年九月二十四日地方廳ノ許可ヲ得テ現今ノ本堂ヲ再建ス。若狹名跡志ニハ淨土寺ハ一向宗ニシテ西本願寺ノ流義ナリト記セリ。

禪曹洞宗ニ轉ゼリ。天保六年堂宇ヲ再建シ、續テ梵鐘ヲ造リ、明治七年龍運和尚寺格ヲ進メテ法地ト爲ス。當寺ニ關スル記錄不備ニシテ盡シ難シ。若狹名跡志ニハ西方寺ハ曹洞宗禪宗ニシテ父子村海元寺ノ末寺ナリト記セリ。

極樂寺ニ關シ古文書中ニ記載セルモノヲ採錄スレバ左ノ如シ。

若狹郡縣志ニ『二十一番聖觀音佐分利石山淮丹波國穴太寺』ト 文永二年東寺大田文ニ『極樂寺一町二反百八十歩佐分郷五反能登浦一反耳西郷六反百八十歩』ト記スル何レモ當極樂寺ヲ指シタルナリ。同寺ハ眞言ニシテ元石山熊野神社所在ノ山麓ニアリ。退轉ノ年代詳カナラザルモ大体二百五六十年前後ノ事ニ屬ス。

六、竺王山佛燈寺ハ鹿野字村中ニ在ル禪曹洞宗永平寺末ナリ。中山ハ父子海元寺ニ屬ス。本尊ハ聖觀世音菩薩ナリ。當寺ハ寛永十五戊寅年海元寺五世月岑祖澤和尚ノ創立ナリ。當寺ハ元鹿野第二十七號十一番地ニ建立セラレ慶松寺ト稱ス。往昔此村ニ鹿野寺ト稱スル寺院アリ、今ハ廢絶シ居ルヲ以テ更ラニ慶松寺ヲ鹿野寺ニ改メタリ（年時不明）。明治六年玄光和尚寺格ヲ進メ法地ト爲ス。同十二年九月大破ノ爲メ本堂再建セシモ同二十年類燒ノ災ニ罹リ全部烏有ニ歸シ頗ル苦心ノ折柄、當時ノ郡長タル遠藤政敏氏ノ深甚ナル助力ニ依リ二十一年寺地ヲ現所ニ移シ工ヲ起スニ至リ、氏ノ勞ヲ德ト

シ氏ノ佛燈居士ヲ寺號ト爲シ佛燈寺ト改稱ス。同二十三年三月再建落成ス。第四世覺乘和尚ノ代ナリ。若狹郡縣志ニ『鹿野寺ハ在ニ鹿野村一曹洞宗禪宗也始稱ニ慶松寺一近世有一故改一之古斯村有ニ鹿野寺一本尊千手觀音國中三十三順禮之一也廢絶年久今用ニ其名一者也二十番千手觀音佐分利鹿野寺准ニ山城國善峯寺一』ト記セリ。

七、本光山實相寺ハ岡安字鈴ケ谷ニ在ル禪曹洞宗永平寺末ナリ。中山ハ父子海元寺ニシテ本尊ハ永祿六癸亥年大宮印覺法印ノ作ニ係ル華嚴釋迦牟尼佛座像ナリ。當寺ノ創建ハ寛永二年四月十五日海元寺四世通山玄達和尚トス。法地開闢ハ文化十二年梅嶺義全和尚ナルモ、道海大信和尚ヲ請シテ第一世トシ、自ラ第二世ヲ稱ス。現堂宇ハ文化七年圓山和尚ノ時ニ屬ス。若狹名跡志ニハ實相寺ハ曹洞禪宗ニシテ父子海元寺末ナリト記セリ。

八、湯谷山意足寺ハ萬願寺字寺ノ奥ニ在ル禪曹洞宗永平寺末ナリ。本尊ハ千手觀世音菩薩ニシテ、延曆二十四乙酉年ノ創立ト傳フ。當寺ニ關スル緣起等ヲ調査スルニ當寺ハ人皇五十代桓武天皇ノ勅願ニ依テ創建ナシ給ヒ、傳敎大師手刻御丈貳尺余ノ觀世音ヲ安置シ、高生山觀音寺ト號ス。村ヲ高生村ト曰フ。寺領七町余末坊二十四所アリ。中頃十二坊トナリ、寛永ノ頃ニハ纔ニ六坊殘ルト雖モ次第ニ退轉ニ及ビ坊跡ノ地皆民間ニ紛レ入レリ。天正年中淺野彈正殿檢地國中寺領大半沒收セラル。

當寺ハ勅願ノ靈地タルニ依テ山林寺境竝ニ相殘ル坊跡不殘免除アリ、其後万治年中當國主御改メノ時右寺跡十石三斗八升ノ處無相違觀音堂ヘ御寄附云云抑當寺ヲ湯谷山意足寺ト稱シ來ル事ハ元來寺號ハ遠敷郡太良庄ニ有之小地タルニ依テ其末寺同郡加茂長泉寺兼帶タリ寛永年中空印寺第五代日山和尚國主ノ御崇敬最モ重ク隱棲トシテ一寺建立ノ願有之當寺山林境內トモニ讓ラレ意足寺ノ寺號ヲ移シ初テ洞家ノ地ト成ル太良庄ニ於テ一寺ヲ營造シ空印公ノ御法名ニ擬ヘ長英寺ト稱ス云云本文章ノ奥書ニハ延享元年甲子九月吉祥日第十代達宗叟記焉トアリ。又遠敷郡太良庄長英寺記錄ノ一部ニ下ノ如ク記載セリ（記錄書名ハ泰雲山長英寺中興記ナリ）

當寺往昔號ニ湯谷山意足寺ト。本州臥龍（三方臥龍院ノコト）規伯模公。帥創之地也。（中略）大飯郡萬願寺村。有ニ天台借敎開闢。觀音之道場一。亦號ニ萬願寺一。星霜錦遠。數歷ニ兵亂一。領內多沒ニ民間一。坊舍敗轉。唯觀音堂ノミ存焉。白公便就ニ村人一索ニ得レ之也。（中略）訴ニ國衙一且喻ニ意足之本末竝檀家一。移ニ寺號ヲ於西郡一。改ニ萬願一謂ニ。意足一云云寛文乙巳年白公遂謝ニ寺職一。而退ニ休於當寺一云云ト。本書ノ原本ハ寛延二年ノ作ニシテ臥龍院十六代光山謙叟ノ撰ナリ。意足寺緣起ニ觀音寺トアルモ本文章ニ依テ萬願寺ナルコト知ルベキナリ。東寺所藏ノ文永二年若狹國惣田數帳ニハ當寺ニ屬スル田數ヲ左ノ如ク記載セリ。

領　萬願寺　五丁一反二百七十歩

佐分郷　三丁五反二百七十歩

本郷　一町六反歩

以上ノ如ク領地ヲ附スルニハ深キ由緒ノ存ズル寺院ナルコトハ一見明ラカナリ。大正六年ノ頃本尊觀世音菩薩ノ開扉ニ際シ偶然ニモ尊体ニ空音アルヲ發見シ調査ノ結果胎内ニ經卷ヲ藏セラル古色蒼然一見シテ平安朝時代初期ノモノナルヲ想像セシム。開卷スレバ即チ千手千眼陀羅尼經ニシテ頗ル稀有ノモノナリ。紙質書風共ニ易得カラザル逸品ニシテ經卷ノ奥書ニ左ノ如ク記セラル。

『應德元年十一月十日於雄野以朽原點加黒點了』ト蓋シ經文ニ朱書訓點ヲ施サレアルモ磨滅ノ恐レアルヲ憂ヘ更ラニ應德ニ入リテ墨點ヲ加ヘタルヲ云フナリ。應德元年ハ紀元一七四四年卽チ白河天皇ノ御代ニ屬ス。佛像竝ニ經卷ハ國寶ニ編入セラル。若狹郡縣誌ニ『意足寺、在ニ萬願寺ニ三方郡臥龍院ノ末派ニ而曹洞禪宗也始稱ニ萬願寺ト一近世改ニ下中郡意足寺ト一號ニ長英寺ト一改ニ斯寺ト一爲ニ湯谷山意足寺ト一斯村松岳院ト則此寺ノ末院也　同書ニ十九番千手觀音佐分利滿願寺准ニ山城國草堂ニ』ト記セリ。若狹名跡志ニハ湯谷山意足寺ハ曹洞禪宗ニシテ三方郡三方村臥龍院ノ末寺也。始メ當寺ヲ万願寺ト號シ後意足寺ト改ム。

當寺ニ關スル以上ノ記錄文章ニ依テ創建ノ當時ハ壯大ナル寺院ナリシヲ偲バシム。唯ダ宗派ノ天台

ナルト眞言ナルトハ更ラニ研究ヲ要スル所ナルベシ。

以上ノ外多數ノ佛堂アリ。中ニ就テ著名ナルヲ左ノ三堂トス。

一、久保釋迦堂　創建時代詳カナラズ、本尊迦牟尼佛ハ聖德太子ノ作ナリト傳フルモ明カナラズ。永祿年代石山ノ城主武藤上野介友益惡疫平癒ノ祈願ヲナシ給ヘリ。靈佛トシテ地方ノ尊信厚シ。

一、福谷藥師堂　創建ノ年次及由緒詳カナラズ、地方ノ人ハ見城藥師ト稱ス。蓋シ石山城ニ正面シ居ルヨリ名付ケタルカ。境内ニ櫻樹ノ老木アリ根幹十四尺花時ハ頗ル美觀ナリ。惜ムラクハ境内狹クシテ四邊ノ田畑ヲ覆フ爲メ時々枝ヲ拂フヨリ年々枯死ニ近ヅキツヽアリ。

一、神崎藥師堂　本堂ノ緣起ニ依レバ當藥師如來ハ行基菩薩一刀三禮ノ御作ニシテ、天平四年ノ創建ナリ。往昔ハ寺領凡三十石、七堂伽藍アリ、元龜年度信長公ノ兵亂ニ領地悉ク上地トナル云云明治七年十月十日火災ニ罹リ堂宇燒失同時ニ本尊ヲモ燒失シ現ニ片手ノミ殘ル。現今ノ佛像ハ火災後ノ新調ナリ。當藥師堂所在地ノ附近ニハ尙往昔ノ壯大ナリシ寺跡ヲ偲ブニ足ル礎石ノ存シテ相當由緒アリシヲ偲バシム。

一、基督教々會　當地出身ノ田中牧師郷里ニ歸住シ石山第二十號十四番ノ地ニ教會ヲ設ケ佐分利基督教會ト稱シ、昭和二年五月五日ヨリ傳導ヲ開始シ且ツ日曜學校ヲモ創設シタリ。

教育

明治維新ニ在テハ所謂寺子屋教育ニシテ、讀ミ書キヲ主トシテ習ヒタルニ過ギズ。男子十五歳ニ達スレバ若者ト稱シ晝間ハ孜々トシテ實務ニ從ヒ、夜間僧侶等ニ就キ僅カニ勉學シタリ。然レドモ學ブトハザルトハ自由ナルニヨリ不文ノ徒多カリキ。

明治五年學制ノ頒布セラルヽヤ川上ニ敏求小學校、石山ニ勸善小學校、岡安ニ引錐小學校ノ三校ヲ設ケ兒童ヲ教育セシガ、當時男子ハ相當ニ就學セルモ女子ニ至リテハ尚久敷就學スルモノ極メテ少シ。

明治八年ノ頃ヨリ勸善小學校區内福谷村ハ獨立シテ一學校ヲ起シ、就正小學校ト名付ケ同村長福寺ヲ教場ニ充テタリ。越テ同十年ノ頃廢校シ再ビ勸業小學校區内ニ入ル。世ノ進運ニ伴ヒ兒童數モ年々增加スルニ至リ、三校トモ各校舍ヲ新築シ、更ラニ增築ヲ行ヒ、校名モ勸善ハ養成ニ次ニ佐分利ニ、引錐ハ聚榮ニ次テ岡安ニ、敏求ハ川上ト改稱シ長ク三校鼎立ノ狀ナリシガ、教育ノ刷新ヲ圖リ校舍校具ノ設備ヲ完成シ、村費ノ經減ト村治ノ統一ヲ期スルニハ一村一校主義ヲ可トスルノ說漸ク高マリ而モ三校トモ校舍ハ狹隘ヲ告ケ或ハ腐朽シ改增築ノ急ヲ告ゲ、亦他方ニハ佐分利川ノ改修ニヨリテ交通ハ面目ヲ新ニシテ村内各區ノ距離モ短縮セラレタルヲ以テ茲ニ三校統一シテ新校舍ヲ建築セントスルコ

トハ村民多數ノ輿論タリシカ、此ヲ實現スルニハ多額ノ經費ヲ要スルアリ、且校地ノ選定ニ付テハ三校區民感情ノ融和ヲ欠クアリ、幾多ノ波瀾曲折ヲ重ネテ遂ニ大正十年七月二十日ノ村會ニ於テ三校ヲ統一シテ一校トナシ、鹿野字堂ノ下地籍ニ校舍ヲ新築シ、川上ニハ分教場ヲ設置スルノ意見ヲ決議シテ郡長ニ提出シ、大正十一年十二月十三日郡長ハ村會決議意見ノ通リ指定セリ。

村會ハ更ニ大正十二年一月二十九日谷口嘉藏外十六名ヨリ寄附ニ係ル本校敷地、小谷春吉外八十一名ヨリ寄附ニ係ル川上分教場敷地ヲ採納シ、大正十二年四月三十日建築費六萬貳百六拾六圓、同年十一月九日建築費不足額壹萬參千百六拾圓ヲ決議シ、資源ハ村基本財產繰入五千圓、當該年度負擔額七千四百貳拾六圓ノ殘額六萬壹千圓ハ遞信省及ヒ縣教育資金等ヨリ九ケ年賦償還方法ニヨリ起債ヲナシ、本校工事ハ請負金額五萬九千參百圓ニテ大正十二年十二月七日石山井關幸市氏ニ、分教場ハ請負金額壹萬圓ニテ同十三年二月十八日川上松野粂藏氏ニ契約工事ニ着手セリ。

工事ハ請負人ノ熱誠ト當時ノ土木事務分掌助役中川長一、建築委員大谷一精、盛下市兵衛、松井榮藏、現場監督山口政一諸氏ノ努力トニ依リ大正十三年十月十日竣工ヲ告ゲ、本校ハ十一月十八日、分教場ハ十一月二十四日盛大ナル新築落成式ヲ擧行セリ。

校舍ハ木材、瓦、職工等殆ンド村内生產品ヲ使用シ校庭ノ設備ハ青年團員及ヒ在鄕軍人ノ奉仕作業ニ成

リタリ。主要建物ハ講堂兼雨天体操場ノ百十五坪、二階建教室(五間二十二間)二棟、其他廊下、便所、玄關等總テ十棟、總建坪六百六十五坪ニシテ校地ノ總面積二千三百坪ナリ。

川上分教場ハ(五間十三間)二階建一棟、外ニ教員住宅、玄關、便所等五棟總建坪百五十三坪ニシテ校地面積ハ五百十六坪ナリ。

以上ハ學校統一マテノ概要ヲ述ヘタルモノナリ。次ニ統一以前ニ於ケル各校ノ沿革ヲ記ス。

一、佐分利小學校の沿革

一、明治六年勸善小學校ト稱シ假ニ石山西方寺ヲ以テ之ニ充ツ。第二大學區敦賀縣管内第二十六中學區大飯郡石山村第十八番勸善小學校ナリ。

一、明治八年勸善小學校々舍新築成ル。

一、同二十年簡易科養成小學校ト名稱變更。

一、同二十一年簡易科養成小學校内ニ尋常科佐分利小學校ヲ併置ス。

一、同年八月二十二日尋常科佐分利小學校分校ヲ岡安聚榮小學校ニ置ク。

一、同二十二年三月五日尋常科佐分利校々舍移轉新築落成(西方寺境内ヨリ石山第十六號ヘ移轉ス)

一、同二十四年三月二十六日簡易科養成小學校ヲ閉銷ス。

一、同年三月十二日教育ニ關スル勅語謄本下賜セラル。

一、同二十五年聚榮小學校内ノ分教場廢止。

一、同年五月二十九日尋常科佐分利小學校ヲ佐分利尋常小學校ト名稱變更。

一、同年九月十二日修業年限ヲ四ケ年ニ改ム。

一、同二十六年四月修業年限二ケ年ノ補習科ヲ設置ス。

一、同二十九年七月二十八日隨意科トシテ裁縫科加設ノ件認可ヲ受ク。

一、同三十二年附屬建物(事務室)增築。

一、同年四月補習科ノ修業年限ヲ三ケ年ニ延長ス。

一、同三十四年八月十六日尋常科ニ裁縫唱歌ノ二科ヲ正科トシテ加設ノ件認可ヲ受ク。

一、同年九月修業年限三ケ年ノ高等科ヲ併置ス。

一、同年十月佐分利尋常高等小學校ト名稱變更ノ件認可ヲ受ク。

一、同三十五年十一月十二日校舍增築落成。

一、同年十二月奉安所新設。

一、同年同月三十一日　両陛下御眞影下賜セラル。即日拜戴式擧行。
一、同三十七年四月十九日高等科三學年ニ農業科加設ノ件認可ヲ受ク。
一、同三十八年五月十一日高等科ノ修業年限ヲ四ケ年ニ延長ノ件認可ヲ受ク。
一、同四十一年四月一日小學校令ノ改正ニ伴ヒ尋常科ノ修業年限ヲ六ケ年、高等科修業年限ヲ二ケ年トス。
一、同四十二年十月一日尋常科ニ手工科加設ノ件認可ヲ受ク。
一、大正二年三月三十一日尋常科ノ手工廢止ノ件認可ヲ受ク。
一、同四年十月二十七日　天皇陛下御眞影下賜セラル。即日拜戴式擧行。
一、同五年十月二十六日　皇后陛下御眞影下賜セラル。即日拜戴式擧行。
一、同十三年十月岡安尋常小學校及ヒ川上尋常小學校ヲ佐分利尋常高等小學校ニ併合シ川上區ニ分教場ヲ設置ス。
一、同年十一月十八日校舍新築落成式擧行。
一、同十五年六月二十一日元岡安川上両小學校ニ下賜セラレテ奉安シタル　先帝両陛下並ニ　今上両陛下ノ御眞影及ヒ勅語謄本ヲ奉還ス

二、佐分利小學校長

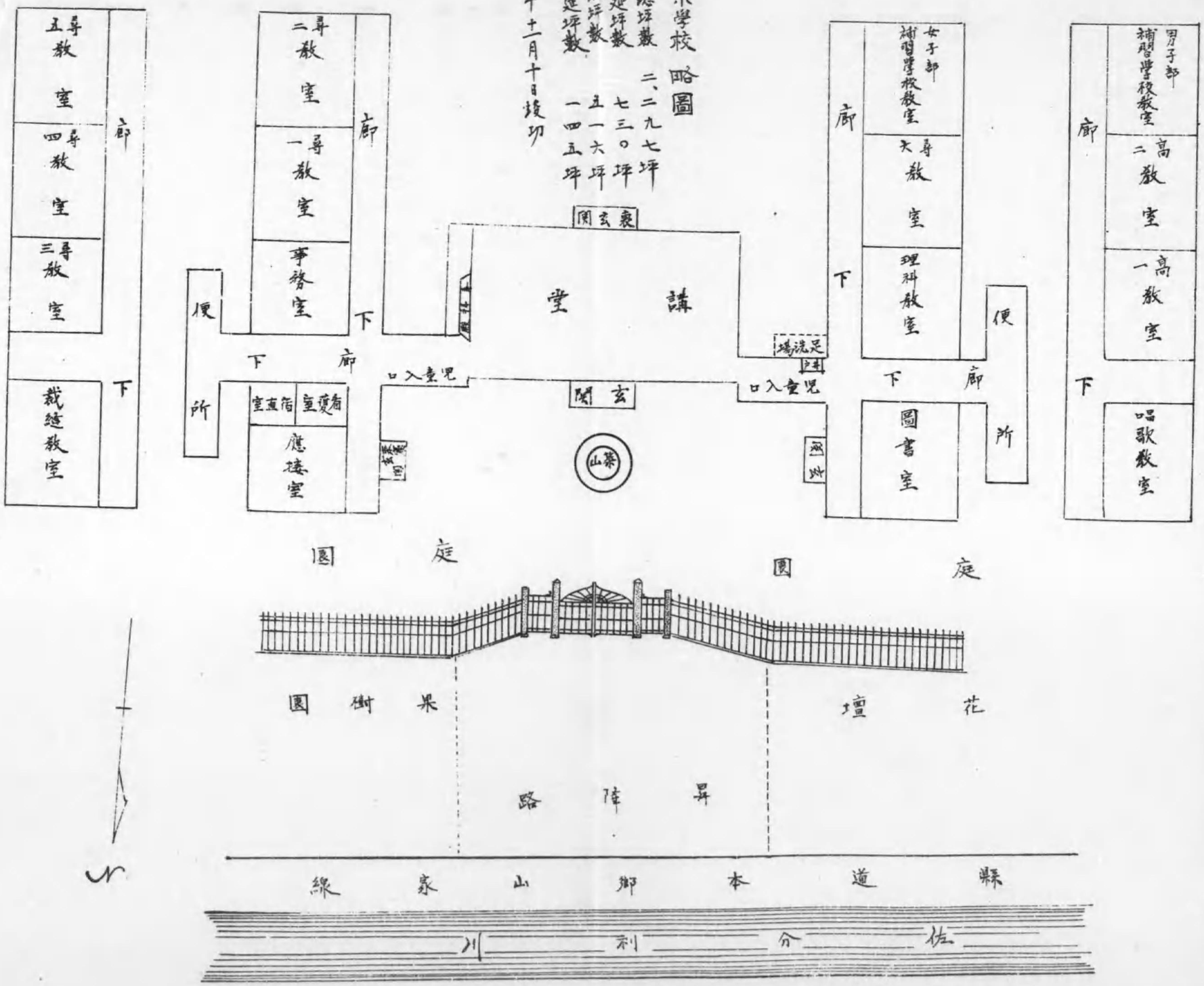
在職期間	氏名	
自明治六年至同八年	牧野退藏	首座訓導
自同八年至同十年	田邊吉太郎	同
自同十年至同十二年十月	惠見三郎	同
自同十二年至同十八年	青野虎治郎	同
自同十八年三月至同二十一年四月	松岡一千代	同
自同二十一年四月至同二十三年六月	小和田卯之助	同
自同二十三年六月至同二十七年六月	齊藤武雄	同
自同二十七年六月至同二十九年四月	儀峨脩郷	訓導兼校長
自同二十九年四月至同三十三年四月	中島豁郎	同
自同三十三年四月至同三十四年九月	内方勇藏	同
	松井正憲	同

自同三十四年四月 至同三十六年四月	柿本清記	卅四年九月ヨリ卅五年四月迄訓導兼校長心得
自同三十五年四月 至同三十六年九月	伊東直治	訓導兼校長
自同三十六年九月 至同三十六年二月	松井正憲	同
自同三十六年九月 至同四十二年八月	猿橋幾藏	同
自同四十二年九月 至大正二年三月	渡邊伊三郎	同
自同二年四月 至同四年三月	杉左近鶴松	同
自同四年四月 至同八年三月	玉井清一	同
自同八年四月 至同九年三月	石田傳次郎	同
自同十年十二月 至同十八年十二月	杉左近鶴松	同 但九年四月マデ校長心得
自同十一年三月 至同十一年四月	吉坂榮壽	同
自同十一年四月 至同十三年三月	堀口寅藏	同
自同十三年六月 至同十五年六月	松山爲三	同
自同十五年六月 現任	田中時雄	同

佐分利高等小學校略圖

本校　敷地總坪數　二、二九七坪
　　建物延坪數　七三〇坪
分教場　敷地總坪數　五一六坪
　　建物延坪數　一四五坪

大正十三年十一月十日竣功



自同十一年十月	至同十一年十月	自同十一年十月	至同十一年十月	現在
吉坂榮壽	堀口寅藏	松山爲三	田中時雄	
同	同	同	同	

三、佐分利小學校ノ在籍兒童數

年度	在籍兒童 尋常科	高等科	合計	年度	在籍兒童 尋常科	高等科	合計
明治三十四年	一〇四	四三	一四七	大正四年	一四九	四九	一九八
同三十五年	一一五	四四	一五九	同五年	一四一	三五	一七六
同三十六年	一二一	五四	一七五	同六年	一四六	三二	一七八
同三十七年	一一四	六三	一七七	同七年	一五六	三五	一九一
同三十八年	一一一	八一	一九二	同八年	一五七	三八	一九五
同三十九年	九七	八六	一八三	同九年	一五七	五四	二一一
同四十年	九〇	八二	一七二	同十年	一五六	五七	二一三
同四十一年	一三二	三〇	一六二	同十一年	一五五	五八	二一三
同四十二年	一三七	二七	一六四	同十二年	一六二	四九	二一一
同四十三年	一五七	二六	一八三	同十三年	一六三	六九	二三二
同四十四年	一五三	二八	一八一	同十四年	三一八	六六	三八四
同四十五年	一五四	二八	一八二	同十五年	三二〇	七一	三九一
大正二年	一五二	三二	一八四	昭和二年	三四四	八〇	四二四
同三年	一五一	三九	一九〇				

四、佐分利小學校經費ニ關スル事項

年度	村教育費決算總額	佐分利小學校費	同上教員給
明治二十二年	四二四、八五七円	二〇七、九六五円	八六、七五〇円
同　二十五年	五二三、七三五	二五四、六三一	一八三、五〇〇
同　三十年	七六六、三二五	二七七、三七〇	二〇六、四〇〇
同　三十五年	二、九七五、〇七九	八七二、五五〇	五七六、〇〇〇
同　四十年	二、二〇六、二五〇	一、一三一、九〇〇	七九二、〇〇〇
大正元年	三、一一八、六五〇	一、三五〇、五五五	九三六、〇〇〇
同　五年	三、二五七、九二五	一、三六四、七四〇	九〇〇、〇〇〇
同　十年	九、九七〇、二二〇	三、九九〇、一六〇	三、〇二四、〇〇〇
昭和元年	一〇、〇二八、〇五〇	一〇、〇二八、〇五〇	七、五六六、〇〇〇

備考　町村制施行以後各五年毎ニ記載セリ

イ、岡安小學校ノ沿革

一、明治五年岡安實相寺ヲ借リ受ケ校舍ニ充テ引錐小學校ト稱シ、通學區域ハ佐分利村佐畑、鹿野、笹谷、神崎、廣岡、萬願寺、本郷村父子ノ八ケ區ナリ。

一、同十一年四月聚榮小學校ト改稱ス。

一、同十三年十月佐畑、鹿野ノ兩區ハ分レテ石山養成小學校ニ附隨セシメ、父子ハ別ニ獨立シテ慈孝小學校ヲ設ケタリ。

一、同年同月岡安字地原ニ校舍ヲ新築ス。

一、同二十年四月學制變革ニ依リ簡易科聚榮小學校ト稱シ同時ニ温習科ヲ設ク。

一、同二十一年四月尋常科聚榮小學校ト稱ス、同時ニ補習科ヲ設ク。

一、同二十四年三月十四日教育ニ關スル勅語ノ謄本ヲ下賜セラル。

一、同二十五年四月學制改革ニ依リ聚榮尋常小學校ト改稱セラレ修業年限三ケ年ト指定セラル、同時ニ補習科ヲ廢止ス

一、同二十六年六月修業年限ヲ四ケ年ニ改ム。

一、同二十七年一月三十一日　天皇陛下皇后陛下ノ御眞影ヲ下賜セラル。

一、同二十八年十一月裁縫科ヲ增設ス。

一、同三十四年八月唱歌裁縫ノ二科目ヲ加設スル件認可セラル。

一、同三十五年改增築工事ニ着手ス、同年十月全部落成十一月十八日落成式ヲ擧行ス。

一、同四十一年義務教育年限ノ延長實施ニヨリ尋常科六ケ年トナル。

一、同四十二年十月手工科加設。
一、同四十三年五月農業補習學校ヲ附設ス。
一、大正二年四月手工科ヲ廢ス。
一、同三年十一月二十日校名ヲ岡安尋常小學校ト改稱ス。
一、同四年十一月　天皇陛下御眞影下賜。
一、同六年　皇后陛下御眞影下賜。
一、同十三年十月廢校佐分利小學校ニ併合セラル。

ロ、岡安小學校長

在職期間	氏名	
自明治五年至同十年	大安麟乘	首座
自同十年至同十三年三月	水谷作藏	首座訓導
自同十三年九月至同十七年四月	芝原方義	同
自同十七年四月至同二十一年四月	小和田卯之助	同

自同二十一年五月至同三十三年四月	猿橋彰	授業生二十一年五月ヨリ二十三年三月迄首座二十五年四月ヨリ三十三年四月迄首座訓導
自同二十三年四月至同二十五年四月	鳥居强	首座訓導
自同三十三年四月至同三十四年四月	松見翠	訓導兼校長
自同三十四年四月至同四十五年三月	山田民藏	同
自同四十五年三月至大正二年三月	松田一男	同
自同二年四月至同八年三月	松見壯次	同
自同八年四月至同十年十月	吉坂榮壽	同
自同十年十月至同十三年十一月	松田幾太郎	同

八、岡安小學校在籍兒童及同校經費

年度	在籍兒童數 男	女	計	岡安校經費 岡安校費	教員給
明治二十二年	四九	六	五五	七五、七七九円	五三、〇〇〇円
同二十五年	四七	一一	五八	一三五、四九六	八六、〇〇〇
同三十年	四一	二九	七〇	二五八、一六八	一九一、〇〇〇

同三十五年	四八	四九	九七	五四八、五七五	三二四、〇〇〇
同四十年	四〇	三七	七七	五三六、一五九	三、八四、〇〇〇
大正元年	五二	四五	九七	九一五、七一一	六、一二、〇〇〇
同五年	五六	四七	一〇三	九九九、三八〇	六〇〇、〇〇〇
同十年	六四	四八	一一二	二、九七四、五〇〇	二、一六五、〇〇〇
同十三年	七〇	五二	一二二	一、九三六、六二〇	一、四〇四、〇〇〇

ニ、川上小學校ノ沿革

一、明治五年七月始メテ學制ヲ布カルルヤ其翌年學校ヲ設立シ、川上村清源寺ヲ借リ受ケ假教場トシ、住職葛原文叔教育事務ヲ擔任シ刻苦勉勵セリ。其ノ聲望ニ依リ三森、久保、安井、川關、石山ノ諸村ヨリ通學スル生徒拾數名ニ上リ校舍狹隘ヲ訴フルニ至レリ。當時第二大學區敦賀縣管内第二十六中學區第十六番敏求小學校ト呼ベリ。

爾來明治十二年ニ至ルマデノ事蹟詳細ナラズ。

一、同十二年十月清源寺ヨリ歡喜寺ニ移リ授業ヲ開始ス。

一、同十三年三月當村杉左近傳藏氏ノ納屋ヲ借リ受ケ授業ヲ開始ス。

一、同十四年十月川上村字左近谷ニ校舍建設ニ着手シ同十五年三月校舍落成ス。

一、同二十年四月大飯郡第五番小學區簡易科敏求小學校ト稱ス。

一、同二十三年十二月二十七日教育ニ關スル勅語謄本下賜セラル。

一、同二十五年四月教員住宅ヲ建築ス。

一、同年學制改革ノ結果修業年限三ケ年ノ尋常科ヲ置キ敏求小學校ト稱ス。

一、同二十七年一月　天皇陛下皇后陛下御眞影下賜セラル。

一、同年十二月運動場トシテ畑地ヲ借リ入レ便所一棟ヲ別ニ建築ス。

一、同二十八年三森ヲ本學區ニ組ミ入ル。

一、同三十年八月教員住宅ヲ增築。

一、同三十二年四月校舍狹隘ニ付有志ノ寄附ト村税トニヨリ改築スルコトヲ決議シ翌年十月十三日落成式ヲ擧グ。

一、同三十四年六月校舍前方水田二畝歩ヲ地上シ教員住宅敷地トシ直ニ住宅移轉工事ニ着手シ七月二十三日竣工ス。

同時ニ着手シタル御眞影奉安所工事モ落成九月二十四日御奉遷ス。

一、同三十五年校舍大修繕ヲナス。

一、同三十八年四月日露戰役紀念林ノタメ川上第八十七號字登龍第三十七番山林八畝六歩ヲ借リ入ル
　同年七月校舍前方二畝歩ノ水田ヲ地上シ校舍後方ノ運動場ト交換シ元ノ戸外運場動ヲ學園トセリ
　同年十月校門ヲ建築ス。
一、同三十九年十月校舍周圍木柵工事竣工。
一、同四十年四月川上第百十五號四十七番ノ一部ヲ借リ入レ學林トス。
一、同四十一年十二月十七日戊申詔書下賜。
一、同四十三年四月二十八日第百十五號四十七番ノ紀念學林内ニ　東宮殿下行啓紀念林設置し
一、同四十四年四月校舍大修繕ヲナス。
一、大正元年十一月十日教員住宅ヲ校舍ノ南方ニ改築ス。同時ニ御眞影奉安所モ移築ス。
一、同三年十一月二十日川上尋常小學校ト校名ヲ變更ス。
一、同四年十一月五日　今上陛下御眞影ヲ下賜セラル。
一、同年十一月第百十五號四十七番ノ紀念學林内ニ檜ヲ　今上陛下御即位紀念樹トシテ植栽ス。
一、同六年十月十六日　皇后陛下御眞影下賜セラル。
一、同七年四月小使室增築。

一、同十三年十一月川上小學校ヲ廢シ佐分利尋常高等小學校川上分教場ヲ設置セラル。

ホ、川上小學校長

在職期間	氏名	
自明治六年三月 至同十二年十月	葛原文叔	
自同十二年十月 至同十四年七月	江見三郎	
自同十四年七月 至同十六年十月	中根重邑	
自同十六年十月 至同十七年七月	野口長藏	雇
自同十七年十二月 至同十八年六月	森　正途	訓導
自同十八年九月 至同十九年六月	堀口波次郎	授業生
自同十九年六月 至同二十年六月	武藤金藏	同
自同二十年九月 至同二十二年十二月	松見翠	首座訓導
自同二十二年十二月 至同二十三年九月	村井景直	授業生
自同二十三年九月 至同三十四年四月	堀口波次郎	訓導兼校長

自同三十四年四月 至同四十一年三月	松見翠
自同四十一年三月 至大正十三年三月	時岡理喜藏
自同十三年三月 至同十一年十一月	森川喜太郎

同	
同	
同	

へ、川上小學校在籍兒童數及同校經費

年度	在籍兒童數 男	女	計	川上校經費 校費	教員給
明治十四年	二五		二五	不明	不明
同十七年	二七	一	二七	不明	不明
同二十二年	三一	一	三二	七一、〇七〇	五一円
同二十五年	四二	三	四五	一三三、六〇八	七一
同三十年	三八	一三	五一	一九八、五八九	一四一
同三十五年	一九	四〇	五九	三〇一、五四五	一九二
同四十年	三一	二一	五二	四四八、六八八	二五二
大正元年	三五	三三	六八	六〇七、三〇〇	三八四
同五年	三八	三一	六九	七五四、二一〇	四二九
同十年	三八	四三	八一	一、八六四、八四〇	一、三〇二
同十三年	三六	三七	七三	一、三四六、九三〇	八八〇

ト、就正小學校

一、本校ハ明治八年頃ニ石山勸善小學校新築移轉問題ニ起因シ意見ノ一致ヲ欠キ、福谷ノ一村ハ同小學校ヨリ分離シ、福谷長福寺ヲ假校舍トシ、就正小學校ト稱シ開校スルニ至レリ。明治八年ヨリ(月日不詳)同十年迄繼續、再ヒ勸善小學校ニ復歸ス。此ノ間訓育ニ從事シタル教師ヲ小川靖民氏トス。

五、學齡兒童就學歩合

年度	明治三十五年	同四十年	大正元年	同五年	同十年	昭和元年
佐分利小學校 男	一〇〇・〇%	九六・九	一〇〇・〇	九八・九		九九・五八
佐分利小學校 女	九五・〇〇	九七・七八	九八・八四	九八・八九		一〇〇・〇〇
岡安小學校 男	九七・五六	九八・八〇	九八・五七	一〇〇・〇〇		
岡安小學校 女	九八・三六	一〇〇・〇〇	九八・三三	九八・四四		
川上小學校 男	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇		
川上小學校 女	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇		
平均	九八・四八	九九・四八	九九・二五	九九・〇五	九九・七二	九九・七九

六、佐分利農業補習學校

明治三十五年一月文部省令第一號實業補習學校規程ニ基キ、農業ニ從事シ又ハ從事セントスルモノニ農業ニ要スル智識技能ヲ授クルト同時ニ普通教育ノ補習ヲナサシムル爲、明治四十三年五月佐分利小學校ニ佐分利農業補習學校ヲ附設セリ。

修業年限ヲ二ケ年トシ學年ハ毎年十二月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル。

教科目ハ國語、修身、算術、農業、ノ四科トシ、毎週二十四時間教授セリ。

大正六年十一月學則ヲ變更シ、男子部六ケ年、女子部ハ四ケ年トシ、學年ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一ニ終ル。

教科目ニ男子部ハ修身、國語、算術、法制、經濟、体操、農業ノ七科目ニシテ　女子部ハ修身、家事、裁縫、体操、農業ノ五科トス。

教授時數ハ男子部ニアリテ十二月ヨリ三月マテ毎週十二時間、四月ヨリ十一月マテノ間ニ三十時間ヲ授ケ、女子部ハ十二月ヨリ三月マテ毎週三十時間、四月ヨリ十一月マテノ間ニ三十時ヲ授ク。

大正十二年五月三度ヒ學則ヲ變更シ男子部ハ前期二ケ年後期三ケ年ヲ以テ修業年限トシ、女子部ハ前後期共二ケ年ヲ以テ修業年限トス。學年ハ前ト等シク四月ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル。

授業ハ通年制トシ、教授時數毎年男子部前期二百六十二時、後期二百六十四時、女子部ノ前期四百六十二時、後期四百二十八時トス。

教科目ハ男子部修身、國語、數學、理科、農業、女子部ハ修身、國語、數學、裁縫、農業、家事トス。

大正十三年十一月十八日佐分利、岡安、川上ノ三補習校ヲ統一シテ佐分利農業補習學校トシ川上ニ分教場ヲ置ク。

一、生徒數及出席歩合

年度	生徒數 男	生徒數 女	生徒數 計	出席歩合	備考
明治四十四年			一四	七七・八% 男七五・五 女七三・四	大正十二年以前ハ三校統一前ノ佐分利農業補習學校分チ、大正十三年ヨリハ統一後ノ數ヲ掲ケタリ
大正元年			一七	七一・〇六 男七五・三 女七五・八	
同二年			六	五〇・三六 男七五・三 女七二・二	
同三年			三〇	七六・九〇 男七五・三 女七二・二	
同四年			二〇	五二・一二 男五二・二 女五六・八	
同五年			一六	七三・七五 男四二・二 女五五・三	
同六年	三一	一〇			
同七年	三三	二二			
同八年	三六	二六			

二、補習學校經費ニ關スル事項

年度	金額	年度	金額	備考
同九年	四二	明治四十三年	四〇、〇〇〇	
同十年	二九	同四十四年	五六、〇〇〇	
同十一年	二七	大正元年	五八、〇〇〇	
同十二年	二九	同二年	四〇、〇〇〇	
同十三年	三八	同三年	四〇、〇〇〇	
同十四年	四七	同四年	三八、〇〇〇	
昭和元年	三九	同五年	四七、六五〇	
同二年	四二			

年度	金額	年度	金額	備考
同八年	二〇	同八年	六四二、〇〇〇	
同九年	二五	同九年	二〇〇、三〇〇	
同十年	一三	同十年	二四四、五〇〇	
同十一年	二三	同十一年	二五三、〇〇〇	
同十二年	三九	同十二年	二二〇、七五〇	
同十三年	三三	同十三年	二一〇、〇〇〇	
同十四年	三八	同十四年	四一七、〇〇〇	
同五年	四八			

年度	生徒數	修了者	經費
同六年	一〇〇、六六〇	昭和元年	四六〇、〇〇〇
同七年	三七六、〇〇〇	同二年	四五二、〇〇〇

七、佐分利青年訓練所

青年志氣ノ弛張ト智能ノ高低トハ國運ノ隆替ニ關係スルコト甚大ナルハ固ヨリ言ヲ俟タス。是ヲ以テ政府ハ大正十五年四月勅令第七十號ニヨリ青年訓練所令ヲ公布シ以テ青年ノ心身ヲ鍛錬シ國民タルノ資質ヲ向上セシムル規準ノ大本ヲ示シ、文部省及ヒ本縣又之ニ基キテ訓令ヲ發シ青年訓練所設置要項ヲ定メ其ノ則ルヘキ所ヲ明カニシ之レガ徹底ヲ期ス。本村此ノ主旨ニ從ヒ大正十五年七月一日佐分利青年訓練所開所式ヲ行フ。生徒數及經費左ノ如シ。

年度	生徒數	修了者	經費
大正十五年	四七	一	三三二、〇〇〇
昭和二年	六一	七	三三二、〇〇〇

人口及戸口

人口及ヒ戸口ニ付テ古ク調査シタル依ルヘキ文献ナキヲ以テ明治年代ニ入リ統計シタル書類ニ就キ記入ス。但シ戸口ニ付テハ安永以前ノ著若狭名跡志ニ掲ケタルモノアルヲ以テ附記ス。

一、人口

（明治二十一年ヨリ各十ケ年毎ニ記入ス大正九年十月一日ニ第一回國勢調査アリシヲ以テ特ニ記入ス）

區別	明治二十一年末 本籍人	同 三十年末 本籍人	同 四十年末 現住人	大正五年末 現住人	同九年國勢調査 現住人	昭和元年末 現住人
川上 男	二二六〇	二二八〇	不詳	二二四六	二二三七	二二四五
川上 女	二二五〇	二二五六		二二六一	二二三三	二二六三
三森 男	四三六九	四六〇	同	四三五	三三四	三三六
三森 女	四三六九	五四〇		四三五	三三五	三三六
久保 男	一四〇七	一八四	同	一一〇〇七一	一八二六	一一二一三四
久保 女	一四〇七	一〇八四		一一〇〇七一	一二二六	一一二一三四
安川 男	五五一八	五五九三	同	五五六〇	五五八八	六五二七
安川 女	五五一八	五五九三		五五六〇	五五八八	六五二七
福谷 男	一一五五	一一四三五二	同	一一四三六六	一一五三四四	一一四四六二
福谷 女	一一五五	一一四三五二		一一四三六六	一一五三四四	一一四四六二
石山 男	八六三九	九八三六	同	九八一九	一九一一	一一一〇八六
石山 女	八六三九	九八三六		九八一九	一九一一	一一一〇八六

區別	明治二十一年末 本籍人	同 三十年末 本籍人	同 四十年末 現住人	大正五年末 現住人	同九年國勢調査 現住人	昭和元年末 現住人
佐畑 男	三二一四	二二六八	同	二二八九	三二三九	二二三六
佐畑 女	三二一四	二二六八		二二八九	三二三九	二二三六
小車田 男	三五九一	四四一九	同	四四五二	四四四二	三四九一
小車田 女	三五九一	四四一九		四四五二	四四四二	三四九一
鹿野 男	一一〇〇二一	一一一〇九九	同	一一二一二二	一一〇〇七二	一一〇七五
鹿野 女	一一〇〇二一	一一一〇九九		一一二一二二	一一〇〇七二	一一〇七五
笹谷 男	八八六二	九九二二	同	六七七七	七八〇六	七九一六
笹谷 女	八八六二	九九二二		六七七七	七八〇六	七九一六
岡安 男	一一三三四八	一一四五五一	同	一一四五四六	一一三三四六	一一五八九五
岡安 女	一一三三四八	一一四五五一		一一四五四六	一一三三四六	一一五八九五
神崎 男	四四二一	五四二二	同	五四二八	五四五二	四四七六
神崎 女	四四二一	五四二二		五四二八	五四五二	四四七六
廣岡 男	四三五七	三三九九	同	四四一一	四三二七	四三〇六
廣岡 女	四三五七	三三九九		四四一一	四三二七	四三〇六
萬願寺 男	一〇九一八	一一〇〇二四	同	一一一一六三	一〇九三六	一一〇九八
萬願寺 女	一〇九一八	一一〇〇二四		一一一一六三	一〇九三六	一一〇九八
合計 男	一一三三〇四九五	一一八三八二五八	一一三三三六三五	一一三三一八二五	一一三三一一〇一	一一三三七四三三
合計 女	一一三三〇四九五	一一八三八二五八				

二、戸口

		安永以前ノ古記	明治二十二年末	同 三十年末	同 四十年末	大正五年末	同九年十月一日調	昭和元年末
川上		八七軒	八八	九八	不詳	九一	九二	八八

三森	一三軒	一三	一九	〃	一六	一七	一五	一五
久保	三六軒	三四	四三	〃	三九	三九	二一	四一
安井川	一三軒	一七	一八	〃	二二	二一	二一	二一
福谷	五二軒	五〇	五五	〃	五六	五五	五二	五二
石山	二九軒	三一	三六	〃	三六	四〇	四六	四六
佐畑	一二軒	一一	一一	〃	一一	一一	一〇	一〇
小車田	一七軒	一七	一九	〃	一七	一六	一五	一五
鹿野	三五軒	三九	四四	〃	四二	四二	四八	四八
笹谷	三五軒	二九	三二	〃	三〇	三〇	三一	三一
岡安	四八軒	五二	五八	〃	五五	五六	五五	五五
神崎	一三軒	一四	一六	〃	一八	一八	一七	一七
廣岡	二〇軒	一五	一六	〃	一四	一四	一三	一三
萬願寺	四二軒	三二	四〇	〃	四〇	四二	四二	四二
合計	四五八軒	四四二	五〇五	四九二	四八七	四九三	四九四	

産業及租税

本村ノ主要生産物ハ農産及ヒ林産ナリ。明治時代ニ入リ副産ノ奬勵ニ依リ養蠶業ノ發達著シク財政上主要ノ位置ヲ占ムルニ至レリ。本村生産ノ重ナル者ヲ擧レハ米、麥、豆、甘藷、茶、大麻、柿、密柑大根、芋、午蒡、木材、木炭、桐實、竹材、繭ノ如キトス。

本村ノ土産トシテ古史ニ出ツルモノニ柿、曰ク『佐分利郷多ク出ル者小圓ニシテ初冬甚タ紅ナリ、釋ノ日蓮カ法會ノトキ之ヲ供ス、故ニ御影供柿ト稱ス』トアレトモ其ノ名稱ヲ詳カニセス。然レトモ依然トシテ相當ニ生産ス。次ニ鮭ヲ擧タルモ野尻銅鑛水ノ關係ニ依ルカ棲息スルヲ聞カス。鮒モ列記サレタルモ本流域中漁獲ヲ聞カス。次ニ鷹鳥モ本村及内浦山谷ニ其品類多シトアルモ現時余リニ見得タル者ナシ。『絮佐分利郷ノ諸村出ス重サ二百錢ヲ以テ一把ト爲ス』ト記サレタルモ近代生産著アルヲ聞カス。村内生産物中名産トセラレタル者ニ福谷ノ桐實、石山ノ大麻(ハナソ)、鹿野ノ茶、岡安ノ菜種ト云ヘル者ハ近郷ニ知ラレタル物産ナリシモ、時世ノ變遷ニ從ヒ漸減シテ今ハ僅カニ福谷ノ桐實、鹿野ノ茶ヲ少分殘シ居ルニ過キス。

以上ノ如キ狀況ナルヲ以テ普通農事ノ奬勵ハ素ヨリ園藝ニ關スル智識普及ノ爲ニ大正八年以來村農會ニ技術員ヲ設置シ、更ニ大正十二年四月村ニ技術員設置規程ヲ設ケ村農會兼任ノ技術員ヲ置キ、米麥種子ノ精選ヨリ肥料智識ノ普及、農具ノ改善、苗圃ノ經營、副業ノ奬勵等時代ノ進歩ニ伴フ施設ヲ怠ラス。設置以來ノ技術員左ノ如シ。

大正十二年四月就職　福井縣大野郡上庄村吉出身　現任　五井喜馬

副業中最モ重要ナル地位ヲ占ムルモノハ養蠶業ナリ。本村ノ初メテ養蠶ヲナシタル時代ハ不明ナルモ古キ桑樹ノアルヨリ察スレハ最近ノモノニ非ラサルヲ覺ユ。明治二十五六年頃以前ニハ夏蠶ノミニシテ其ノ收繭量モ大ナルモノニアラス、統計ノ現存スルモノナキタメ概要ヲ知ル能ハサルハ甚タ遺憾ナリ。明治二十二三年ノ頃講師ヲ招聘シ、養蠶傳習所ヲ岡安ニ開キタルヲ始メ、西ケ原傳習所ニ學フ者モ生シ次第ニ養蠶ノ業ハ盛ニナリ、春蠶ニ夏蠶ニ相當ノ收獲ヲ擧クルニ至ル。爾來講習ニ講話ニ回ヲ重ネ本業ニ對スル一般ノ智識頗ル向上シ、明治二十八年ノ收繭高百拾石價格貳十七百貳拾七圓ニ對シ大正十四年ニハ九千〇拾九貫價格九萬九百貳拾四圓ノ激増ヲ見ルニ至ル。此ノ盛運ニ際シテ指導宜シキヲ得サレハ濟フ可カラサル悔イヲ殘スニ至ルヲ以テ、村養蠶組合ニ技術員ヲ設置シ、品種ノ統一桑園ノ改良等ヲナサシムルノ主旨ニ依リ先ツ養蠶技術員ヲ設置セリ。

昭和二年四月就職　京都府綾部町味方　現　任　西村重三郎

今本村主要生産物ノ收獲價格ヲ示セハ大要左ノ如シ。

品名	明治二十八年 收穫高	明治二十八年 價格	明治二十八年 收穫高	同三十五年 價格	同三十五年 收穫高	大正元年 價格	大正元年 收穫高	同十四年 價格
米	三、〇六〇石	二四、四八〇円	二、〇二七	二二、二九七	三、四〇三	六八、二七三	三、九四八	一三三、五五四
麥	五四三	二、二八〇	四二五	二、一二五	四〇七	三、五八六	二六〇	四、五五〇
繭	一一〇貫	二、七二七	一二、三	四、九二〇	四三五	一五、七〇八	九、〇一九	九〇、九二四
木炭	一一〇、〇〇〇貫	四、四〇〇	一二、二五〇	六、〇八三	一五五、〇〇〇	一〇、八五〇	二八〇、〇〇〇	八四、〇〇〇
木材	五六〇尺〆	八四〇	四七〇	七三〇	一、七八五	三、三二八	二八、〇〇〇	八四、〇〇〇

以上ニ依テ麥ノ收獲漸減シツヽアルヲ見ル。而シテ本村ノ田畑林野ノ反別ヲ大正十四年調査ニ依テ掲クレハ即チ左ノ如シ。

田　反別　二百九十一町三反

畑　反別　六十七町七反

林野　反別　千百八十二町九反

之レヲ舊記ニ調フルニ諸國田數ノ記載アルモノニ和名類聚抄アリ、若狹三千七十七町四反四十八歩トアルモノ最モ古シトス。然レトモ各郡郷ニ區別記載ナキヲ以テ、本村ノ反別ヲ知ルニ由ナシ。京都東寺文書ノ文永二年若狹田數帳ニ北條氏ノ知行地及社寺領地等區分シ掲ケアルヲ以テ掲記スレハ左ノ如シ。（縣史所載）

國領　佐分郷百二十町三反三百二十歩

除　五十七町三百歩

河成　九町八反三百歩
不作　二十町九反百歩
岡安名　六町七反三百五十歩（尚康給）
萬願寺　三町五反二百七十歩
福谷宮　七反
野尻宮　四反
極樂寺　五反
安養寺　二反
明王寺　三反
新城寺　二反
若宮　一反
地頭給　十二町
公文給　一町
散仕給　一町

定田　六拾四町二反二十歩
所當米　三百八十六石六斗二升四合一勺一才

本反別ハ佐分郷全部ヲ掲ケタルモノナルヲ以テ父子野尻ノ加入シアルハ勿論ナリ。降テ天正年間淺野氏本國ヲ領シタル頃ヨリ文祿慶長ニ渉リ若狹全土ノ檢地丈量ヲセラレタルモ、本村内ニ其ノ調書ノ存在スルモノナク、更ニ万治ヨリ元祿時代ニ渉リ石盛ノ公平ヲ期シ再ヒ檢地ヲ行ハレタルモ、本村内各字ニ同調書ノ現存スルモノ稀レニシテ一貫シ難キニ依リ其ノ石高ノミヲ表出ス。其後ニ屬スル分モ均シク石高ノミヲ表出セリ。

	元祿十三年調	安永二年調	天保五年調
上	四五八、五五二石	同上	四六三、六一七石
三森	一九六、六五〇	同上	一九七、三四六
久保	二五八、六一六	二五五、二〇〇	二六〇、七一九
安井	一〇一、九〇〇	同上	一〇五、九〇〇
川關	五九、一七七	四二、七八七	五九、七六四
福谷	四八二、〇三九	四八二、〇三二	四八三、六一八
石山	二八九、一七〇	同上	二九〇、二一二
佐畑	七三、三六〇	同上	七四、七九六

小車田	一七九、四九九	同上	一八〇、〇九七
鹿野	三七三、二〇〇	三七三、三二〇	三七六、七一七
笹谷	三二四、五二四	三二四、二六〇	三二六、一八二
岡安	四八三、七八〇	同上	四八九、七〇四
神崎	一四七、〇五五	同上	一五六、一三三
廣岡	一八七、九八〇	同上	一九七、五七四
萬願寺	四二九、七六〇	同上	四五五、四七四
合計	四、〇四五、二六二		四、〇一七、八二六

明治以前ノ租税ハ此ノ國高ニ率ヲ乗シ玄米ヲ納入シタル處、同六年ニ至リ租税ハ國ノ大事人民休戚ノ係ル所ナリ。從前其法一ナラス、寛苛輕重率ネ其平ヲ得ストノ詔ニ從ヒ同九年測量ヲ完成シ、現時ノ如ク正確ナル反別並ニ納租ヲナスニ至レリ。明治二十七年以降ノ國税縣税村税並ニ現住一戸當リ負擔ヲ擧クレハ左ノ如シ。

年度	國税	縣税	村税	現住一戸當金
明治二十七年	二、七五三	一、一九七円	一、三二九円	一一、〇二〇円
同三十年	二、七三〇	三、二五三	一、九五二	一六、三九四
同三十五年	三、〇六〇	三、七八三	五、四三九	二五、〇一四
同四十年	五、七七三	四、三一二	六、六九三	三四、五二二
大正元年	五、〇六六	三、〇〇一	五、五六八	二八、一一三
同五年	四、七七五	三、九八五	七、〇一二	三二、三八六
同十年	五、二九四	一一、二〇六	二三、七〇九	八一、八七九
昭和元年	四、二二八	一〇、九四六	二三、八七四	七九、〇四四

河川及道路

本流佐分利川ハ源ヲ丹波ノ國境ニ發シ、川上地内ニ於テ瀧巖谷川及子生谷川、岸谷川、新鞍川ヲ合シ東ニ流レ大谷川、久保川、福谷川ノ支流ヲ集メ、更ニ石山川、小車田川、鹿野川、笹谷川、岡安川、神崎川、萬願寺川等ノ支流ト相合シ村ノ中央部ヲ貫流シ本郷地籍ニ入ル。此ノ流域ハ田園開ケテ耕作ニ適ス、故ニ本川ハ灌漑上ノ利便頗ル大ナリ。然レトモ一朝洪水ニ際會スレハ河水氾濫シ甚大ノ被害ヲ蒙ムルコト尠カラス。往昔ニ於ケル確タル記録ノ存セサルヲ以テ明カナラスト雖モ、耕田ノ土深ク巨材ノ埋木ヲ發掘スルヲ見ルモ被害ノ惨ヲ偲フニ足ル。今ヨリ凡ソ百九十年前、即チ享保二十年六月ニ於ケル大洪水ニ山岳ノ崩壊百幾十ケ所ニモ及ヘリト。近クハ明治三年ノ大洪水ノ如キ山岳ノ崩壊人家ノ流失人

畜ノ死傷被害甚大誠ニ凄慘ヲ極メタリ。越テ同二十二年七月五日並ニ二十九年八月三十日三十一日ノ大洪水ノ如キ人畜ノ死傷ナカリシト雖モ、良田變シテ荒土トナリ生計ヲ失フ者數多シ。要スルニ本川ノ幅員狹小ニシテ築堤ノ羸弱ナルト、山林制度ノ解放ニ依リ亂伐ヲ加ヘタルハ大ナル主因ナリ。元來川上區内ニハ燒畑ト稱シ山林ニ火ヲ入レ種々ノ產物ヲ採取シ來レリ。此レヲ以テ山野ノ火入ヲ禁シ、且ツ明治二十六年ヨリ砂防工事ヲ起シ數次ノ改善ヲ加ヘ同三十三四年ノ頃ヲ以テ完全ニ竣工シ、關係山ニ對シテハ砂防林又ハ水源涵養林ヲ設定シ樹木ノ伐採土石ノ採取ニ制限ヲ加ヘ、殊ニ流域中ノ河川幅員ヲ全部擴張シ堤塘ハ數層强大ニスルノミナラス其ノ屈曲ヲ正シ護岸工事ヲ施ス等舊時ノ面目ヲ一新シタリ。

爾來凡ソ二十年間ハ大ナル水害モナカリシ所、大正十年九月二十五日ニ至リ夜來ノ豪雨ニ依リ洪水氾濫シ本川堤防ノ缺潰九ヶ所、延長約四百間、縣費工事約四萬圓ヲ要セリ。村費支辨ノ橋梁墜落スルモノ七ヶ所、支川ノ堤防破壞頗ル夥シク復舊費凡ソ壹萬圓ヲ要セリ。從ツテ砂入浸水等ノ爲メ耕田ノ收獲皆無トナリタルモノ二町余ニ及ヘリ。然レトモ翌十一年及十二年ニ渉リ略復舊シ稍安堵セル暇モナク又々十二年九月十五日大洪水アリ、十年ノ被害ニモ劣ラサル狀況ニテ、川上ニ於テ家屋ノ流出倒壞ヲ見ルニ至ル。之レカ復舊ニハ更ラニ多額ノ經費ト勞力ヲ要シ、吾カ村民ノ苦痛容易ナラス。而モ等閑ニ附スヘキ問題ニアラネハ、着々工ヲ起シ復舊ノ大業ヲ完了セリ。村民均シク本支川ノ完全ナル施工ヲ熱望スル蓋シ此レニ因ルナリ。

佐分利川全長　三里三十一町

支川中ノ萬願寺川、石山川、福谷川、神崎川、笹谷川ノ如キハ幅員狹ク屈曲甚タシク洪水毎ニ被害少ナカラサリシヲ以テ改修ヲ加ヘタリ。竣工年次左ノ如シ。

河川名	延長	改修年時
萬願寺川	八六二間	明治三十九年頃
石山川	九六五間	同四十四年三月竣工
福谷川	一、八二八間	大正三年六月竣工
笹谷川	七五〇間	同　年七月竣工
神崎川	六二〇間	同　十三年六月竣工

其他ノ支川名稱延長左ノ如シ。

河川名	延長	河川名	延長
川上瀧厳谷川	一、四五五間	久保久保川	一、〇二一間

同　子生谷川	一、〇三一間	小車田川	九二三間
同　岸谷川	八六一間	鹿野川	七六八間
同　新鞍川	三六〇間	岡安川	一、二四六間
久保大谷川	九一三間		

本村ノ主要道路ニ二線アリ。一ハ本郷山家線ニシテ、他ハ高濱周山線ナリトス。先ツ本郷山家線ハ東本郷村ヨリ本村ヲ縦貫シテ西京都府何鹿郡奥上林村及ヒ山家ヲ經テ綾部町ニ達スル線路ナリ。曾テ本線ヲハ佐分利街道又ハ本郷街道京都街道ト稱シタリ。康安ノ昔仁木三郎山陰兵二千余騎ヲ引キ連レ逆谷ヲ越ヘ本道ヲ通シ小濱ニ攻メ入リタルコトハ若狭誌等ニ詳記セリ。降テ慶應二年伏見鳥羽ノ戰ニ若狭藩幕軍ニ加ハリ官軍ニ抗シ山崎ニ破レテ丹波路ヨリ本道ヲ經テ歸藩シタルコトアリ。此ノ如ク軍事上ニモ交通上ニモ重要ナルヲ以テ、國界附近ノ坂路ハ明治十八年以後屢改修的修繕ヲ加ヘラレ面目改リタレトモ尚ホ車輛ヲ通スルニ適セス、明治四十二年ノ頃郡負擔道トシテ改修ノ議起リ、同四十四年工事ニ着手シ大正四年五月竣工スルニ至ル。而シテ本道中石山ヨリ父子迄ハ南部ノ山麓ニ沿ヒタル幅員七尺内外ノ狹少ナル道路ナルニ迂曲多ク高低アリ、加フルニ年中乾燥セサル爲メ人馬車輛ノ交通ニ頗ル不便ヲ感シタリ。幸ニ佐分利川ノ幅員擴張ニ伴ヒ堤防モ又強大ナルニ至リタルヲ以テ、大正十三年佐分利川右岸堤ヲ道路ニ變更使用ノ許可ヲ得テ本道トナシ一般ノ利便ヲ計リ、石山ヨリ上ハ本川ノ左岸ニ沿ヒ完全重要ナル幹線トナルニ至ル。

次ニ高濱周山線ハ高濱町薗部地籍丹後道線ヨリ分岐シテ本村福谷ニ入リ、石山坂ヲ通シ南遠敷郡奥名田村ヲ經テ京都府北桑田郡ニ入リ、鶴ケ岡ヲ經テ周山ニ達スル路線ナリ。鐵道交通ノ未タ開ケサル時代ニ於テ北海岸ヨリ京畿ニ達スル最近路トシテ高濱地方ノ海産物ヲ北丹及京都ニ運輸スルハスベラ此道ニヨリタルヲ以テ交通頗ル頻繁ナリ。殊ニ高濱郵便局ヨリ坂本郵便局ニ達スル線路ナリシヲ以テ北丹及遠敷郡奥名田方面ノ林産物モ多ク此線ニ依テ高濱及本郷方面ニ運輸シタリ。然ルニ近時何レノ地方モ鐵道若クハ道路ノ改修等ニ依リ交通ノ便自ラ變遷シ、現今ハ稍減シ舊時ニ比シ難シ。

此他川上ヨリ高濱町子生ヲ經テ同町ニ達スル子生谷道アリ。若狭志ニ『子生坂以ㇾ村名ㇾ呼ㇾ坂子生村至ㇾ川上村山經一里余』ト云ヘル者即チ是レナリ。又久保ヨリ遠敷郡奥名田村納田終ニ達スル久保道、鹿野ヨリ奥名田村奥坂本ニ達スル鹿野道、笹谷ヨリ和田村和田ニ達スル笹谷道、岡安ヨリ同所ニ達スル岡安道、萬願寺ヨリ和田村車持ニ達スル萬願寺道、本道ニ付若狭志ニ『高尾坂在ㇾ上車持村一名萬願寺坂以ㇾ出ㇾ萬願寺村也』ト記スルモノ是レナリ。

以上ノ數線ハ何レモ村外ニ出ル道路ニシテ、村内ノ要路尚多シ。繁ヲ省キ之レヲ略ス。

警備及衛生

イ、警備

明治以前ハ不良ノ徒ヲ取締ル爲メ(よじらう)ト稱シ、中央地タル舊川關村ニ居ヲ構ヘ居タリ。始メテ設置サレタル時期ハ明カナラス、明治初年迄其ノ職ヲ勤メ居タリ。其後捕卒ト稱シテ警備シ村内ニ住居シ居リシモ別ニ役宅アルニ非ス。明治十二年ノ頃ニハ邏卒ト稱シ小濱警察署ヨリ巡回シ、又タ高濱分署トナリテ同署ヨリ巡査ノ巡回スル等、月ニ三回若クハ四回ノ巡回位ナリシカ、明治二十二年三月ニ至リ本村石山ニ巡査駐在所ヲ置キ本村全部ヲ警備セラレシモ、區域廣濶ノ爲メ同年六月川上ニモ巡査駐在所ヲ置キ、川上、三森、久保、安川ノ四ケ區ヲ管セシメ、石山ニハ福谷ヨリ本郷村父子迄ヲ管セシメタリ。而シテ石山巡査駐在所ハ坂本高濱間ノ道路ト佐分利道路ノ十字街、即チ石山第十六號四十番ニ建設ス。川上駐在所ハ佐近谷ニ建設シアリシモ、明治三十八年三月之レヲ廢セラレ石山駐在所區域ニ復シ、父子ハ本郷ノ管轄ニ變更セラレタリ。越テ大正十二年本郷山家線道ノ佐分利川右岸ニ變更ノ結果不便ヲ生シ現所在地タル佐畑前ヘ移轉改築ス。

ロ、消防

明治二十七年福井縣令ニヨリ消防組ヲ設置シ、機械器具極メテ不整備ナリシモ、漸次發達シテ今日ニ至レリ。其ノ組織ハ一組三部制ニシテ消防組頭一人、小頭六名、消防手九十人ナリ。始メテ組織セラレテヨリ組頭ニ任セラレタル諸氏左ノ如シ。

勤務年	大字	氏名
自明治二十七年六月九日 至同三十二年二月	岡安	石橋龜藏
自同三十二年二月一日 至同三十六年七月	岡安	芝原阜一
自同三十六年七月二十七日 至同四十二年一月	石山	武藤團
自同四十二年一月十九日 至大正三年四月	岡安	山本三內
自同三年四月七日 至同六年八月	岡安	芝原伴三郎
自同六年八月十三日 至同十二年一月	福谷	左中又三郎
自同十二年一月十一日 至昭和二年十月	鹿野	谷口林藏
自同二年十月 現任	岡安	芝原農夫男

而シテ本村ノ火災ノ生シタルモノニ詳細ニ年時消失戸數等ヲ記シタル文章ノ存在セサルタメ掲記スルヲ得ス。明治以後昭和元年ニ至ル五十九年間ニ發生シタル事故中其最大ノモノニ安川ノ火災舊川關村全燒(六戸)、福谷ノ中條ノ火災(七戸)、其他ハ四戸以下ニシテ川上、久保、福谷、鹿野、笹谷、岡安ノ各大字ニハ二回若クハ三回ノ失火アリ。合計十七度戸數四十七戸位ヒナリ。其中鹿野ノ火災ニ寺院一ケ寺ヲ含ム。

ハ、衛　生

昔ハ別ニ衛生上ノ設備アラス。流行病ニハ(はしか)(ほうそう)(じえき)ナト二三種アリテ時々流行シ多クノ人命ヲ奪ヒタルハ古文書中見ル處ナルモ、其年代又ハ病名ナト詳記シタルモノナキヲ以テ慘害ノ程度等不明ナリ。明治以後種痘ノ法行ハレほうそうノ害毒ニ罹ル者ナク、赤痢ノ如キモ明治二十九年九月岡安ニ發生シ、川上及佐畑等ニモ患者ヲ生シ總計六十三名ニ及ヒタルハ稀有ノコトニ屬ス。明治三十二年ノ頃石山第十八號字瑞岸五番ノ地ニ隔離病舍ヲ設置シ豫防ヲ講シ前ノ如キ流行ヲ極メタルコトナシ。麻疹若クハ流行性感冒ノ如キハ時ニ流行ナキニアラサルモ、赤痢、腸質扶斯ハ極メテ少シ。『コレラ』ノ如キハ發生シタルコトヲ聽カス。

本村内ニハ明治十八九年迄ハ醫師常在セシヲ以テ民衆ノ便利ナリシモ、其後ニハ來住スル者アルモ久シカラスシテ去リ、來往定リナキ爲メ著シク不便ヲ感シ且ツ姙婦ノ衛生ヲ重ンシ、大正九年公設産婆ヲ置キ、一定ノ料金ヲ納入シテ使用ヲ隨意ナラシム。誠ニ一般民ノ喜フ所ナリ。

春秋二季ノ大清潔一般ニ克ク行ハレ衛生思想ノ向上ヲ證シツヽアリ。

兵事ニ關スル事項

藩廢後鎭臺ヲ置カレ徵兵令ヲ公布セラレテ大阪鎭臺ノ管下ニ入リ、始メテ本村ヨリ徵集セラレタルハ明治十一年ノ頃ニ屬ス。爾來大阪又ハ大津營所ニ徵集セラレタルヲ以テ、十年ノ西南役ニ從軍者ヲ出サス、其後鎭臺ノ名稱ヲ師團ト改メラルヽ頃ヨリ第二十聯隊ノ管下トナリ、二十七八年ノ戰役ニハ左ノ諸氏ノ從軍ヲ見ルニ至ル。

所屬部隊	行賞 勳章	行賞 賜金	役種 兵種官等	徵集年	出身地	氏名
歩兵第二十聯隊		二五円	後歩一	一五年	笹谷	渡邊政治郎
後備歩兵八聯隊		二五	同	一六年	笹谷	岸本政治郎

同		二五	同	同	安川	小畑三吉
同	旭八	不明	後歩特曹	同	筐谷	岩崎通
同		二五	後歩一	一七年	岡安	鈴谷友吉
歩兵第二十聯隊		二五	豫歩一	二〇年	川上	谷山文吉
第三師團	旭七	不明			岡安	垣本孝章
歩兵第二十聯隊		二五	豫歩一	二三年	福谷	栗田千代藏
輜重兵四大隊		二五	豫輜輸	二二年	福谷	湯口金藏
同			豫輜上	二三年	筐谷	岩崎了
伏見工兵四大隊		二五	豫工一	二三年	岡安	新谷亀藏
第四師團第三糧食縱列		二五	豫輜輸	二五年	小車田	山本万吉
歩兵第二十聯隊		二五	豫歩一	二五年	萬願寺	木村宇吉
同	瑞八	五〇	現歩上	二六年	廣岡	村松熊藏
同		一時一二〇	現歩二	二六年	石山	溝口鉄藏
第四師團第三糧食縱列		二五	現輜輸	二七年	岡安	山本三内

以上ノ從軍者中溝口鉄藏氏ハ明治二十八年七月三日清國盛京省ニ於テ不幸病沒セラル、同戰役後台灣ハ吾カ領土ニ歸シタルモ鼠賊各地ヲ侵シタル爲メ守備軍ヲ派遣セラル、同軍ニ加ハリ渡台シタル者左

ノ如シ。

所屬部隊	行賞		役種官等	徵集年	出身地	氏名
	勳章賜金					
歩第二十聯隊	瑞七	一〇〇	現歩上	二六年	廣岡	村松熊藏

其後海軍ハ舞鶴鎭守府ノ管下トナリ、陸軍ハ若狹全部第十師團第二十聯隊ノ管區ニ編入セラル。聯際區司令部及ヒ旅團司令部ハ福知山ニ置カレタリ。歩工ノ入營者ハ福知山聯隊ニ、其他ハ姫路ニ入隊ス重砲兵ハ舞鶴大隊ナリ。

三十七八年戰役起ルニ會シ三十七年四月動員令ヲ發セラレ爾後軍ニ從フ諸氏左ノ如シ。

所屬部隊	行賞		役種官等	徵集年	出身地	氏名
	勳章賜金					
歩五四瑞八		七〇円	現歩一	三四年	川上	中井藤四郎
近歩四旭八		二〇〇	現歩伍	同	福谷	左中又三郎
歩二功七旭八		一〇〇	現歩上	同	同	中川甚次郎
工兵十大隊旭八		二〇〇	現工上	同	萬願寺	木村善造
近歩四功七旭八		一時五二〇 一〇〇	現歩上	三五年	鹿野	谷口新輔
舞要砲大旭八		八〇	現砲上	同	筐谷	渡邊岩藏

歩二〇	功八七	一〇〇年	現歩一	三六年	川上	渡邊政吉	
徒砲四聯隊	旭八八	二〇〇	現砲一	同	同	三谷梅藏	
歩二〇	旭八八	一〇〇	現看卒	同	福谷	白谷政信	
同	旭八八	一〇〇年	現歩一	同	岡安	竹内多吉	
同	旭八八	二〇〇	現歩一	三七年	川上	小谷萬造	
歩五四	瑞八八	—	現歩一	同	萬願寺	岸崎榮藏	
歩五三	瑞八八	—	現歩軍	同	岡安	芝原正雄	
歩二〇	旭八八	八〇	現憲軍	同	神崎	田中正信	
舞要砲大		三五	現砲一	同	同	堀口光信	
同		—	現砲一	同	萬願寺	森口興藏	
第十師團兵站彈藥縱列	旭八八	八〇	現歩軍	同	同	福尾權藏	
歩五四	瑞八八	七〇	現砲上	二九年	笹谷	柿本清吉	
舞要砲大	瑞八八	七〇	豫砲一	三〇年	久保	柿本藤吉	
歩二〇補大	旭八八	一〇〇	豫歩一	同	鹿野	本助治郎	
歩二〇	功七七	一〇〇年	現歩特曹	同	岡安	池寅之丞	
后歩二	旭八七	一〇〇年	豫歩一	同	廣岡	木村朔吉	
歩二〇	旭八八	一五〇	豫歩一	同	鹿野	中川定春	

歩六二	旭八八	一五〇	豫二等計手	同	岡安	芝原家名造	
舞要砲大	功七八	一〇〇年	豫砲軍	同	萬願寺	木村安治郎	
第十師團架橋縱列	旭八八	八〇	豫輜輸	同	鹿野	寺本治郎助	
十師團第十六補助輸卒隊	瑞八八	八〇	豫輜輸	同	萬願寺	永井活元	
鉄嶺憲兵分隊	旭八八	不明	豫憲上	同		山田權藏	
歩二〇	功七八	一〇〇年	豫歩一	三二年	久保	上園岩治郎	
第十師團野戰電信隊	旭八八	一〇〇	豫輜輸	同	福谷	田中友之助	
工十六大隊	旭七七	一五〇	豫輜軍	同	石山	武藤又五郎	
歩二〇	旭八八	二〇〇	豫歩一	同	岡安	山本銀藏	
第十師團第三糧食縱列	旭八八	一五〇	豫輜輸	同		川尻忠吉	
第十師團臨時衛生隊	旭七七	三〇〇	豫三看	三三年	同	芝原正爾	
歩二〇	功七七	一〇〇年	豫歩特曹	一六年	笹谷	岩崎遞	
後工二大隊	旭八八	八〇	後工一	二三年	岡安	新谷龜藏	
後歩二〇	同	一〇〇	後輜輸	二五年	小車田	山本万吉	
同	同	一五〇	後歩上	同	萬願寺	木村宇吉	
同	旭七七	二五〇	後歩上	二六年	廣岡	村松熊藏	
第十師團第二糧食縱列	旭八八	二〇〇	後輜輸	二七年	岡安	山本三内	

十師團十六補助輸卒隊	瑞八	七〇	補輜輸	三一年	川上	木原林藏	
歩二〇補大	旭八	一五〇	補歩一	三二年	萬願寺	福尾常治郎	
歩二〇		一〇〇	補歩二	三三年	川上	小谷傳藏	
十師團十二補助輸卒隊	瑞八	七〇	補輜輸	同	渡濱兼藏		
同	同	八〇	同	三森	上原恒藏		
十師團十二補助工卒隊	旭八	八〇	同	岡安	下防虎之輔		
十師團十六補助輸卒隊	瑞八	八〇	同	三四年	川上	三谷榮吉	
十師團十一補助輸卒隊	旭八	八〇	同	同	小谷玉吉		
同		一時一二〇	同	同	安川萩原金藏		
輜十六大隊	旭八	八〇	同	同	福谷田中吉之丞		
野砲四第二彈藥縱列		一時二四〇	補砲一	同	笹谷山本忠藏		
工兵十大隊		一時四四〇	補工一	同	同田中英三		
歩二〇補	瑞八	八〇	補歩一	三五年	川上松野常藏		
同	旭八	二〇〇	同	同	同波邊鶴松		
十師團第四補助輸卒隊	同	一〇〇	補輜輸	同	同松野桑藏		
歩二〇補		五〇	補歩二	同	同中川仁藏		
輜十大隊		五〇	補輜輸	同	岡安治面地岬		

歩二〇補	三五	補歩二	同	山本林藏			
輜十大隊	三五	補輜輸	同	古池方義			
歩二〇補	三五	補歩二	同	木村平藏			
第十師團第二十一補助輸卒隊	五〇	補輜輸	三六年	鹿野谷口重藏			
舞要砲大	瑞八	補砲一	同	岡安石橋貞雄			
歩二〇	旭八	一〇〇	補歩一	同	萬願寺木村留藏		
輜十大隊		五〇	補輜輸	三七年	川上渡邊保太郎		
後混成十旅團彈藥大隊		三五	補砲輸	同	同熊井又造		
近歩四		三五	補歩二	同	石山武藤循瓦		
第十師團第十六補助輸卒隊	瑞八	八〇	補輜輸	同	佐畑盛下長五郎		
歩三九	旭八	一〇〇	補歩一	同	鹿野寺本久吉		
歩二〇	同	一〇〇	補歩一	同	萬願寺福尾松藏		
歩五三	瑞八	七〇	補輜輸	同	森下庄藏		
歩五八	旭八	一〇〇	國歩一	二〇年	川上谷山文吉		
同	同	一〇〇	國輜輸	二二年	福谷湯口金藏		
歩二〇補大		三五	國歩二	三二年	萬願寺福尾金藏		
同		三五	同	三五年	川上奥庵萬吉		

以上陸軍ニ應召シタル者七十四名内谷口新輔氏ハ三十七年十月十三日清國盛京省高力勾北方ニ於テ戰死シ、田中英三氏ハ三十八年三月四日同ク盛京省ニ於テ戰死、山本忠藏氏ハ同三十七年十一月十八日同省ニ於テ病歿ノ三名ヲ出ス。小谷傳藏氏ハ三十七年十月二十五日三塊石山ノ戰闘ニ左下肢ノ傷痍ヲ受ケ廢兵トナル。

次ニ海軍ニ從軍シタル諸氏左ノ如シ。

所屬	勳章	賜金	役種官等	徵集年	出身地	氏名
軍艦	功五	年三〇〇円	現役機關中尉		岡安	古池龍藏
同 吾妻	功七	年一〇〇	同 三等兵曹	三二年	神崎	堀口淺治郎
同 盤手	〇八	一五〇	同 一等水兵	三五年	岡安	石橋忠吉
同 三笠		一時二六〇	同 二等水兵	三七年	萬願寺	福尾友信

以上四名内福尾友信氏ハ三十八年十月九日佐世保ニ於テ公務ノ爲メ死傷セラレタリ。同年八月日露ノ媾和成立シ第二十聯隊ハ同年十二月下旬柳樹屯ヲ發シ歸營ス。其後明治四十年ノ頃管區ノ改正行ハレ第十六師團第十八旅團第十九聯隊ノ管轄ニ入リシモ、大正四年ノ頃本郡ノミ同聯隊ヨリ分離シ第十師團第二十聯隊ノ管區ニ入リ、大正三年ノ頃ヨリ同七年ニ渉ル日獨戰役ノ際ニ西比里亞ニ出征セラレタル諸氏左ノ如シ。

所屬部隊	勳章	賜金	役種官等	徵集年	出身地	氏名
十師團第九陸上輸卒隊	瑞八	一五〇円	補輜輸	大正四年	佐畑	柳原省三
十師團第九陸上輸卒隊	瑞八	一一〇	同	同	石山	岸本泰太郎
十師團第八陸上輸卒隊		九〇	同	同	神崎	堀口儀一

以上ノ三氏ノミ應召シ各凱旋セリ。其後又々管區ノ變動アリ、即チ大正十四年四月若狹全部第九師團ノ敦賀聯隊管内ニ入ルニ至レリ。而シテ昭和元年七月ヨリ青年訓練所ヲ設置シ青年ニ教練ヲ課シテ剛健ナル氣風養成シ尙武心ヲ涵養スルコトニ努メツヽアリ。

雜部

一、郵便局ノ設置

郵便制度ノ行ハレタル當時ハ小車田以西ハ高濱郵便局、佐畑以東ハ本郷郵便局ノ區内ニ分割集配セラ

レクリシモ、明治二十　年ノ頃ヨリ全村本郷局ノ區内ニ編入セラレタリ。然レトモ直接局所ニ就テナスヘキ爲替又ハ貯金小包書狀ノ書留等幾多ノ不便アルヲ以テ郵便局ノ設置請願ヲナシ、漸クニシテ大正十一年四月二十六日ヲ以テ石山第十號四番地ニ無集配ノ郵便局ヲ創設セラルヽニ至リ從來ノ不便ヲ除却シ得タリト雖モ進ンテ集配事務ノ開始ヲ希望シアル現狀ナリ。局長左ノ如シ。

局名	就職年月	出身地	勳等	氏名
佐分利	大正十一年四月	石山	勳七等	武藤又五郎

二、電話ノ開通

郵便局ノ創設アリタルヲ以テ公衆ノ便益上電話ノ架設ヲ望ミタリシモ容易ニ實現スルニ至ラス。商事ニ奔走スル者ハ爲ニ商機ヲ失シ、其不便ト不利ニ苦痛ヲ感セリ。然ルニ大正十五年七月一日ヨリ郡役所廢止ノ議公布セラル。茲ニ於テ町村行政ノ上ニ重大ナル不便ヲ生スルハ論スルヲ要セス。昭和二年村會ノ同意ヲ得テ高濱局ニ電話加入ノ申込ヲナシ同三年六月二十五日ヨリ開通スルニ至ル。（高濱局電話一〇三番）

三、電燈ノ点火

文明ノ御代ニ在テ文明ノ利器ヲ應用スルコトノ遲キ地理ノ關係ナリトハ言ヘ頗ル遺憾ナリ。電燈ノ点火ハ各地共大半行ハルニ拘ハラス、本村ハ戸數五百ヲ有シ乍ラ各大字間ノ距離遠ク且ツ家屋ノ密集セサルカ爲メ電燈會社ノ採算上不利トシテ久シク電力ノ配給ヲ得ス、一般ニ不便ヲ訴ヘツヽアリキ。村内萬願寺、廣岡、岡安ノ各區ハ協力會社ニ交渉ノ結果、大正十一年五月ニ至リテ初メテ点火スルニ至ル。越テ同十四年神崎區モ又單獨ニ會社ト協調シ十五年一月点燈スルヲ得タリ。笹谷區ニ於テモ同一方法ヲ以テ同年十月点火セリ。戸數凡ソ百六十内外ナリ。其他ノ各區モ協力交渉シ昭和二年十二月ニ至リ鹿野、小車田、佐畑、石山、福谷、安川、久保七區戸數二百二十余戸ニ点火シ且ツ電力ノ供給ヲナスニ至ル。三森、川上ノ両區ハ第三期工事トシテ昭和三年末点火スルニ到リ以テ全村ニ普及セリ。

四、村公會堂

石山第十六號中井根二番地ニ建設セリ。村役場ニ接續セル土地ナリ。建坪六十七坪五合ノ平家造玄關付瓦葺ノ一棟ナリ。　皇太子殿下福井縣行啓ノ記念事業トシテ着手大正十四年四月竣工ス。

五、佐分利託兒所

昭和二年五月十六日ノ創立ニシテ石山第二十號十四番地ニアリ。基督教會田中牧師ニ依テ經營セラレ同日福井縣ノ認可ヲ受ク。保姆ハ同氏ノ妻女擔任セリ。

六、名家ノ末裔

神崎堀口家ノ祖先ニ關シ若狹志ニ伴信友翁補修セラレタルモノアリ。即チ佐分堀口四郎ト之フ。名遠敷社ノ神主牟久氏ノ系圖ニ見エテ元弘ノ頃ノ人也。藩氏堀口氏古書ニヨリテ製シタル系圖ノ略●ハ大系圖ハ○太平記ニ依ル。

新田義國ヨリ四代政義ノ嫡子

●堀口大炊家貞貞（初名四郎）

●義貞（從四位下右馬權頭）

●○貞滿（三郎　美濃守）

○貞祐（掃部介　江州堅田ニカクレ居テ兵ヲ起ス（大平記））

○行義（四郎　大平記ニ義貞上州ニテ兵ヲ起サレタル時一味）

○氏政（兵部大輔）

貞政（一ノ井兵部大輔）

政家（大平記ニ建武年中義貞ニ從ヒ鐘ケ崎ニテ討死　政家モ同シ）

トアリ。按ニ牟久氏系圖ニ見エタル堀口四郎ハ太平記ニ堀口四郎行義トアル人ナリ。往昔故アリテ佐分利ヘ來ラレタルナルヘシ。今佐分利谷ノ内神崎村ニ堀口氏ノ百姓アリテ藩士堀口氏ノ祖ノ家也。舊記絶テ知レス古キ鎗二本アリト云フ。村中大方同姓ナリ。紋ハ丸ニ五本骨ノ扇ナリト堀口彦九郎也ト記サレタリ。堀口家ニ就テ調査スルニ同姓ノ宗家ハ家名儀兵衛ナリト。而シテ鎗ノ如キモ今ハ存セサル者ノ如シ。紋ハ信友翁ノ記ノ如ク丸五本骨扇ヲ附スル向キ三戸、他ハ新田家ノ裔ナレハトテイツノ程ヨリカ丸ニ一ノ義貞公ノ紋所ニ改メ居ル家多數ナリ。現今堀口家ニ就テ家系若クハ沿革ヲ知ルノ便アル古文書又ハ遺物ヲ存セサルヤヲ尋ルモ、何等存セサル由遺憾ナリ。

川上櫻井家ノ祖先ハ越中國名越遠江守ノ譜代ニテ櫻井權正兼保ト云フ人主君ノ嫡子ヲ守リ立テ此地ニ來リ止マリタル家筋ナル由ヲ記シタル古文書アルモ確カナラス。書中ニハ櫻井家ノ長男ヲ若狹ノ守護武田氏ヘ系圖ヲ添ヘ養子ニ遣ハシタル旨ヲ記載シアリ。本文書ハ櫻井鶴松氏藏シ居レリ。

川上野口家ハ藤原鎌足公ノ裔從五位下野口左衛門太夫基次ノ諸國巡見ノ途次此地ニ一宿シタル緣ニ因リ永住シタル家筋ナル由ヲ記セル古文書アリ。記錄ノ年號ハ安貞二年秋書（紀元一八八八年ニ當ル）トアルモ紙質墨

色七百年ニ近シト見ヘ難シ。本文書ハ野口尙治氏方ニ藏セラル。

此他ニ名家ノ後裔ナル由ヲ傳フル者アルモ系圖若クハ參考ニ資スヘキ者ヲ藏セサル爲メ記載ヲ省ク。

七、忠魂碑

石山元神社ノ跡地ニ在リ。本碑ハ在郷軍人會佐分利村分會員一同勞力奉仕ヲ以テ大正六年九月工ヲ起シ要地取擴メヲ行ヒ、丈餘ノ大自然石ヲ川上地内妻谷尾ヨリ運ヒ、台石モ亦自然石ヲ撰ヒテ搬入シ、有志ノ寄附ヲ得、大正八年三月竣工、同月八日除幕式ヲ擧ケ招魂祭ヲ行フ。碑面ノ文字ハ名和海軍中將ノ染毫ナリ。

八、大字名ノ變遷

年代詳カナラサレトモ、本村萬願寺區ハ往昔タコ村ト稱シタル由ニテ、伴信友翁モ『村人云フ、舊名タコ村ト云フ』ト若狹志ニ註シ置カレタリ。意足寺緣起ニ明カニ高生山觀音寺ト稱ス村ヲ高生村ト云フ云云トアリ。高生ハタカフナリ。『カフ』ヲ詰メテ『コ』ト稱ヘタルモノヽ如シ。且ツ若狹志ニ萬願寺區ヨリ上車持村ヘ出ル坂ヲ高尾坂ト云フ由ヲモ記セリ。高尾ニアラスシテ高生ノ音通ヨリ誤リタルモノト信セラル。滿願寺末坊廢絕シテ漸時寺ノ境域ニ人家ノ集團ヲ增シ、終ニ高生村ヲ用ヒスシテ萬願寺ト稱スルニ至リシモノナラン。

神崎區ハ或ハ河崎ト書シタルコトモアリト云ヘル。

笹谷區ヲ篠谷ト書シタルコトモアリト云フ。

安川區ハ明治八年以前ハ川關村安井村ノ二村ナリシモ行政上ノ便利ヨリ安川村ト稱ヘタルニ因ル。

九、各種團体

イ、佐分利村教育會　本會ハ明治二十九年四月村内名譽職及村吏員小學校職員及寺院住職ヲ以テ組織シ、村教育ノ改善ニ盡シ、大正五年會員制度ヲ擴張シ村内普通額以上負擔者ヲ以テ會員トシ、會員數百七十名ニ澎張シ、大正十五年四月更ニ村内戸主全部ヲ會員トシ一躍五百名ニ達シ、成人教育青年處女ノ教育ヲ事業ノ主ナルモノトシ大ニ面目ヲ改メタリ。

ロ、在郷軍人會　明治三十九年四月七友團支部ヲ設ケタルヲ濫觴トシ、明治四十三年四月五日敎賀聯隊區在郷軍人會佐分利村分會ヲ組織シ、同年十一月一日帝國在郷軍人會設立セラレタルニ付名稱ヲ帝

國在郷軍人會佐分利村分會ト稱シ今日ニ至レリ。目下會員百二十名內外　勅諭ノ精神ヲ奉體シ士氣ノ皷舞戰病死者ノ吊慰軍事智識ノ研究等ヲ目的トシ大ニ活躍セリ。

ハ、佐分利村青年團　ハ明治四十三年八月十五日佐分利村青年團ヲ組織シ、川上、佐分利、岡安ノ三支部ヲ設ケ、青年ノ修養ニ資シタリシモ、村長及小學校長ノ職ニアル者ヲ幹部ニ仰キ未タ獨立自治ノ團体トシテ認メラレサリシモ、大正九年五月組織ヲ變更シ支部ヲ各區ニ設ケ、會員中ヨリ幹部ヲ互選シ修養上ノ諸施設ヲ實施シ大ニ活躍スルニ至レリ。大正十五年度ノ豫算百參拾貳圓、會員ハ義務敎育終了ヨリ二十五才マテ現在會員數百三十七名ナリ。

ニ、佐分利村處女會　大正八年七月十五日佐分利小學校ニ於テ發會式ヲ擧ケタリ。本會ノ目的トスル處ハ敎育勅語戊申詔書ノ御主旨ヲ奉體シ、處女トシテノ修養ヲナスニアリ。初メ佐分利、岡安、川上ノ三處女會ニ分レタリシカ、大正十三年十一月學校統一セラルヽト共ニ處女會モ統一シ、現在會員百二十名內外ナリ。修養講話、手藝講習、風俗改善等ヲ主ナル事業トス。

ホ、佐分利村婦人會　昭和二年十二月十七日佐分利小學校ニ於テ發會式ヲ擧行ス。コレヨリ曩、本村未タ婦人會ノ組織ナキヲ遺憾トシ、中川村長ノ提案ニヨリ談話會ニ於テ略會則ヲ作製シ、更ニ各區ヨリ一名宛ノ代表婦人ノ參集ヲ求メテ種々ノ打合ヲナシタリ。其ノ目的トスル處ハ本村在住ノ婦女ヲシテ智德ノ涵養品性ノ向上ヲ圖リ、家庭ヲ治メ子女ヲ敎養シ、良妻賢母タラシムルニアリテ、全村全戶ノ主婦ヲ以テ組織シ、事業トシテハ智德修養ニ關スル事項、体育及ヒ娛樂ニ關スル事項及經濟ニ關スル事項、家政育兒ニ關スル事項、公益ニ關スル事項等ヲ土地ノ狀況ニ應シ實際的ニ行フニアリ。

十、名所及舊跡

イ、石山城址　龜ケ城ト稱ス。元龜天正以前國主武田家四老ノ一武藤上野介友益ノ居城ナリ。石山字横谷口、道ノ上、意足、三字ノ集合山嶺ニアリ、境界不明且ツ礎石若クハ石垣ノ殘存スルモノ少ク雜樹繁茂シ居レリ。反別ハ凡ソ七八畝歩位カ、上ハ川上ヨリ下ハ萬願寺迄テ一眸ニ攝メ得ル好地点ナリ。佐分利郷十七ケ村ノ領主トシテ威ヲ振ヒタルヲ思ヘハ坐ロニ昔ノ偲ハルヽナリ。

ロ、逆谷堡址　一色五郎守邦ノ據所ナリ。川上字永谷山林內ノ摺鉢形ヲナセル約三百坪ノ場所ナリ。現今雜樹蓊鬱境界明カナラス。若狹郡縣志ニ『川上村長谷山連峯ノ間稱逆谷』ト云ヘリ。國境守備ノ大任ヲ負テ此ノ堡ヲ築キシモノナルヘシ。

ハ、寶尾山ノ寺址　當所ハ青郷村高濱町ニ隣接スル山上ナリ、往昔高濱町子生ノ山嶺ニ摩野山一乘寺ト云ヘル眞言宗ノ大坊アリ。此ノ寺ノ末院ナルヘキカ、多數ノ寺院跡アリ。其寺號ノ傳ハルモノナキ

モ平坦ナル處ニハ寺院跡アリ。佛像ト鎮守神ハ現ニ保存セリ。

ニ、瑞岸寺跡　石山ノ東端ニアリ。現今避病院ノ在ル東側ナリ。上野介菩提所ニシテ眞言宗ニ屬セリ古墳多々墓標ヲ存ス。一石碑アリ、巾九寸長サ二尺余、碑面ニ金剛般若波羅密經一體同觀分第十八番ノ未文ナル過去心不可得、現在心不可得、未來心不可得ノ文ヲ三行ニ彫シ、其下ニ天文二十三年八月十九日ト記セリ。碑ノ由來詳カナラス。

ホ、極樂寺跡　石山字宮前忠魂碑下現今ノ公會堂地ニアリ。眞言宗ニシテ國西國二十一番ナリ。若狹郡縣志ニハ『聖觀音佐分利石山淮丹波國穴太寺』ト記セリ。往昔地領一町二反百八十歩ヲ有セルモノナリシモ退轉シテ今ハ名ノミ傳ヘルニ過キス。

ヘ、善樂寺跡　福谷宮ノ別當ナリシ同寺ハ字宮前十一番ノ地ニアリタル由、此地ノ外ニ同區字寺谷ト云ヘル處ニモ古墳モアリ、寺院跡ノ如キ地アリ。又字味噌谷山ノ寺谷ト云ヘル處ニモ寺院跡ト思ハルヽ處アリ。案スルニ他ニモ寺院ノアリテ退轉シタルモノナルカ定カナラス。善樂寺ハ應永ノ頃周文ノ一切經寫ヲナシタル宮寺ナリ。

ト、福壽庵跡　岡安字池田ニ在リ。其ノ宗派確カナリ難シ。眞言宗ナルヘキカ實相寺ノ前身ナルカ如シ。

チ、大瀧　川上第百十三號字大瀧三十九番ノ一ニアリ。落差凡七十尺巾八尺ニシテ、四時水ノ絶ユルコトナシ。道路ノ開拓ナキカ爲メ探勝者ナキモ一偉觀ナリ。新鞍神社ヨリ山地七丁ノ處トス。

十一、傳說地

イ、不動岩　川上字永谷ノ一岩上ニ不動明王ト彫セルアリ。里人ハ弘法大師一夜ノ作ト傳ヘ昔ハ干魃ノ際ニ雨乞ヲ爲セリト。

ロ、烏帽子岩　同ク川上字逕谷ニアリ。高サ八尺巾五尺烏帽子ニ似タリ。區內ノ男子十五才ニ達スレハ元服祝トシテ參詣スルヲ恒例トシタリト云フ。今ハ慣例ハ棄タレリ。

ハ、胴慾河原　龜ケ城落城ノ際城主上野介息女ヲ家臣仲ニ託シ落チ延ヒタルニ仲ハ息女ニ附シタル財寶ニ目暗ミ、非道ニモ暗殺シタリ。其暗殺シタル場所ハ佐分利川中石山ノ上安川地內ニアリテ此ノ名ヲ存ス。仲ナル人ノ家安川ニアリテ屋敷跡今ニ存ス。

ニ、弓射場　福谷坂峠ヨリ約一丁余ノ下稍平坦ナル處ニシテ、石山城ノ正面ニ向ヘル處、曾テ高濱城主逸見ノ軍カ攻メタル時此處ヨリ石山城ヲ射タリト傳ヘテ此ノ名アリ。

ホ、稚兒岩　鹿野區字福柿山ノ小高キ處ニ奇シキ岩石アリ。昔三森ニ五右衛門ナル資產家アリ。

幼兒一人ヲ殘シ死滅セルヨリ親族ノ某ナル者兒ト全財產ヲ預リタルニ、財產ハ我カ物トシタリ、兒ハ邪魔ニナリ虐待ヲ極メ時ニハ山伏ヲ賴ミ調伏ヲ七日七夜モ祈禱セシメ呪ヒタルニ、兒モタマラスシテ逃ケ來リ此ノ岩上ニテ舞ヲナシテ遂ニ果テタリト傳フ。

ヘ、鏡　岩　神崎字大藤谷ニ在リ。形チ扁平ニシテ十二尺ニ八尺ノ大盤石、厚サ四尺燒石ニシテ光澤アリ、顏ノ映スルヲ以テ此名アリ。傳ヘ曰フ、此岩ヲ些カニテモ傷クレハ身ニ血ヲ見サルコトナシト、其ノ何ノ故ナルカハ明カナラス。

ト、夫婦岩　神崎字大藤谷ニ在リ。形ハ切リ立テタル如キ岩石ヲ男石ト稱ヘルハ高サ十五六尺、女石ハ十二三尺、二石ノ間ハ約四尺ヨリ洞屈ノ如ク見ユ。傳ヘ云フ昔シ神崎嶽ノ火災ニ嶽ノ骨カ表ハレタルモノト。

十二、風　俗

イ、狐　狩　リ　陰曆正月十四日ノ夜狐狩リト稱シ鉦太鼓ヲタヽキ區內ヲ一週スル奇習アリ。或ル箇所ノ如キ全區ノ家々ヨリ一人宛出テ山ニ登リ區內ノ評判惡キ者ノ惡口ヲナシ自然ノ良俗ヲ保ツ奇習アリ。近時稍スタレリ。

ロ、虫　送　リ　稻ノ出穗前ニ虫送リト稱シ鉦太鼓ヲタヽキ田圃ノ間ヲ廻ルアリ。七日間モ每夜太鼓ヲタヽキ廻ル奇習アリ。現時ハ大ニ廢リ兒童ノ遊戲ニ似テ形ハカリトナル。

ハ、松ツ上ゲ　陰曆盆ノ十六日又ハ二十三日二十四日ノ三日中ニ松ツ上ケト稱ヘ山上ニ登リ松木ノ凡ソ二尺三四寸回リ以上丈ケ六間位ノ幹ヘ横木ヲ結ヘ幾段ニモ作リ、其兩端及中心ノ最上部ニ麻木ヲ多分ニ結ヘ、一整ニ点火シ數十人ノ青壯年者ニ依テ五回七回時ニ依リ三回位ヒ起シ立テ或ハ倒ス一種ノ壯觀ナリ。京都ニ大文字アル如ク、山々ニ猛火ノ立ツル樣ハ地方人ノ盆氣分ヲソヽルニ余リアリ。安川、福谷、石山、鹿野ハ山上他ハ河原ニ於テナス。小村ハ大村ニ合併シ居レリ。

昭和四年八月十日印刷
昭和四年八月廿日發行

【非賣品】

編纂兼發行者　福井縣大飯郡佐分利村教育會

福井縣大飯郡高濱町三明第一號二十五番地
印刷者　上田常吉

福井縣大飯郡高濱町三明第一號二十五番地
印刷所　上田印刷所

終